

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
ナンバリング：G14C11	オンデマンド授業		実務家教員による授業
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。 (授業目標) ○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。 ◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考えられるようになる。		
授業計画	1	オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？	
	2	動機付け “やる気”のこころの働きを知る	
	3	マインドフルネス マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ	
	4	感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えているのか	
	5	発達 人の発達を学ぶ	
	6	青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ	
	7	性格 「人生の木」から見つめなおす	
	8	対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える	
	9	対人関係とコミュニケーション① 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える	
	10	社会の中の心理 人の態度（考え・評価）が変わるときとは	
	11	集団の心理 集団の力で起こる心理を学ぶ	
	12	ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える	
	13	心理療法から学ぶ 日常生活での工夫を学ぶ	
	14	勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える	
	15	対人関係とコミュニケーション② 人の話を上手に聴く方法を考える	
学習成果・到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることのなかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。（90分） 事後学習：課題に取り組む。また、自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。（90分）		
指導方法	授業はオンデマンド授業となる。 動画と資料は、毎週月曜日の13時までに配信する。穴埋め形式の資料となるので、各自資料に書き込みながら動画で授業を受講する。毎週金曜日の13時までに、動画を受講した感想や考えたこと、質問等のコメントを提出する。コメントの提出をもって出席とする。コメントの他に、ワークシート等の提出を求めることがあるが、その際は動画内で指示する。 コメントにあった感想や質問については、次週に動画あるいは資料にて全員にフィードバックする。その他に個別に質問がある場合は、メールにて随時受け付ける。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	B：受講態度（コメント、課題提出）とレポート課題を評価する。 C：受講態度（コメント、課題提出）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜classroomに配信する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。 心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。授業中の私語や携帯の使用、途中退席等は厳禁。
アクティブ・ラーニング	

講義科目名称： ビジネス情報処理（文書）

授業コード： 4231 4232 4233 4234
4235

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：小倉秀雄）			
ナンバリング：G15C23	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。 また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。 本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 365&2019」の出題範囲に そって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テク ニックなどについても学習する。 （授業目標） ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法につい て、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関する共同作業について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明	
	2	データの準備 文字・段落・セクションの挿入と書式設定 1（実習：PCによる演習） データの準備 Word スキルチェックシート 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 1	
	3	文字・段落・セクションの挿入と書式設定 2（実習：PCによる演習） 文字列や段落の書式を設定する 2 文書にセクションを作成する、設定する	
	4	表やリストの管理 1（実習：PCによる演習） 表を作成する 表を変更する	
	5	表やリストの管理 2（実習：PCによる演習） リストを作成する、変更する 表やリストの管理	
	6	参考資料の作成と管理 1（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 1	
	7	参考資料の作成と管理 2 グラフィック要素の挿入と書式設定 1（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 2 参照のための一覧を作成する、管理する 図やテキストボックスを挿入する 1	
	8	グラフィック要素の挿入と書式設定 2（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 2 図やテキストボックスを挿入する 2 図やテキストボックスを書式設定する 1	
	9	グラフィック要素の挿入と書式設定 3（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを書式設定する 2 グラフィック要素にテキストを追加する グラフィック要素を変更する	
	10	文書の共同作業の管理：（実習：PCによる演習） コメントを追加する、管理する 変更履歴を管理する 文書の共同作業の管理：確認問題	
	11	文書の管理 1（実習：PCによる演習） 文書内を移動する 文書の書式を設定する	
	12	文書の管理 2（実習：PCによる演習） 文書を保存する、共有する 文書を検査する	
	13	第1回試験対策講座（実習：PCによる演習） MOS 365&2019の試験形式、画面構成と試験環境の説明 MOS 365&2019攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	14	第2回試験対策講座（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	

	15 第3回試験対策講座（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関し、共同作業ができる。
事前・事後学習	事前学習：MOSランダム模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(200分) 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作については、事後学習で各自補完すること。また、各出題範囲の終了後に、知識の習得を確実にすること、操作方法を確実に習得すること。(120分)
指導方法	パソコンを操作する実習（講師が、まず、テキストに沿って操作内容を解説・実演し、受講者は関連する演習問題を各自のPCで演習を行う形式）が中心である。 各出題範囲の終了後に、知識の習得を確実にする目的で、課題を出題し、解答の提出をしてもらう。 また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成・管理に関し共同作業に関する操作の評価を行う。 また、各課題への提出およびその採点結果を総合して成績評価を行う。 尚、採点の割合は、課題提出：30%、課題点：70% とする。 MOS Word 365&2019 の合格認定により、成績評価を1ランクアップする。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる)
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
参考書	
履修上の注意	受講者は授業に使用する、次の条件を満たすPCを用意する必要がある。 1. PCのOSはWindows 10 日本語版 (Windows 10 Sモードでは動作しない) 2. 演習で使用する Microsoft Office Word と同一バージョンのアプリ (Microsoft Word 365または2019) が各自のPC上にインストールされている必要がある。 また、授業に際し、テキストは必携である。 「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 他のMOS資格 (Excel、PowerPoint) の受験も視野に、計画的な学習をすること。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：G14C18	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足のいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を述べることができる。		
授業計画	1	流通とは何か 流通のしくみ、小売業および卸売業の機能と役割について	
	2	店舗形態別小売業の基本的役割（1）百貨店 歴史と売上高低迷の要因、自主マーチャンドライジングの取り組みについて	
	3	店舗形態別小売業の基本的役割（2）専門店 専門店と専門店の相違、SPAとセレクトショップ、カテゴリーキラーについて	
	4	店舗形態別小売業の基本的役割（3）スーパーマーケットと総合品ぞろえスーパー チェーンストア展開によるスケールメリットについて	
	5	店舗形態別小売業の基本的役割（4）コンビニエンスストア 出店方法と運営上の特徴、本部と加盟店の関係について	
	6	店舗形態別小売業の基本的役割（5）ホームセンター、ドラッグストア 品ぞろえの特徴、売場の拡大について	
	7	組織形態別小売業の基本 レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの特徴について	
	8	無店舗販売の形態 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2OからOMOの変遷について	
	9	グローバルリテラーの特徴 アウトレットストア、スーパーセンター、ホールセールクラブの特徴について	
	10	商業集積の基本（1）商店街 歴史的変遷、現状と課題について	
	11	商業集積の基本（2）ショッピングセンター 商圏別分類と特徴について	
	12	製造業の流通経路政策 開放的流通チャネル政策、選択的流通チャネル政策、排他的流通チャネル政策について	
	13	卸売業の機能と役割 需要結合、情報伝達、金融、リスク分散、物流、リテールサポートについて	
	14	小売業の機能と役割 小売業が消費者に提供している便益について	
	15	流通業における社会的活動 ソーシャルマーケティング、持続可能な生産流通について	
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャネルや業種・業態の特徴について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：課題に関する質疑は、個別対応する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、課題20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「店舗運営」「販売管理」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげることにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワーク等で課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) ○B：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。		
授業計画	1	ガイダンス（ペア・ワーク） 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）	
	2	感じのいい話しかた（ペア・ワーク） コミュニケーションの基礎、日本語の音声 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）	
	3	敬語（ペア・ワーク） 社会人基礎力を身につけるために（1） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）	
	4	母語の大切さ（ペア・ワーク） 外国語から見た日本語の特徴 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）	
	5	辞書のいろいろ（ペア・ワーク） 辞典の特色を学ぶ ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）	
	6	説明のしかた（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）	
	7	絵の分析（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（初級） ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）	
	8	テキスト分析（1）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（中級） ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）	
	9	テキスト分析（2）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（上級） ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用）	
	10	話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク） 社会人基礎能力を身につけるために（2） ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用、自主学習に活用）	
	11	対義語（ペア・ワーク） ことばのニュアンスを感じ取る、注意深く言葉を選ぶ ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用、自主学習に活用）	
	12	文章表現の工夫（ペア・ワーク） 文章の工夫いろいろ ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用、自主学習に活用）	
	13	オノマトペ（ペア・ワーク） 私たちの言語生活を豊かにするために ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用、自主学習に活用）	
	14	日本語の文字（ペア・ワーク） 私たちが使用する文字の由来 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用、自主学習に活用）	
	15	言葉遊び 言葉を分解し再構築することで新たな世界を生み出す ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用、自主学習に活用）	
学習成果・到達目標・基準	○B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。		
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度）		

	度) 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。(60分程度)
指導方法	ペア・ワーク(対話)を中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた: 課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B: ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 D: 試験によって評価する。 定期試験: 60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%(総合的に評価する)
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：織田陽一）			
ナンバリング：G14C16	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全25件の中から、テキスト・スライド画像・動画を用いて講義します。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話的な地域など、世界旅行の気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントを学習します。 (授業目標) 「社会人に必要な知識や教養」の獲得を目指し、「知的関心」をもって学修する心構え、「異なる考え方や異なる文化を持つ人々」を理解する能力を身に付けます。 ○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できる。 ○C：世界の動きに対する関心を高め、批判の目で自分の意見を発表できる。 ◎D：7月3日(日)の世界遺産検定を受験し、3級合格する。		
授業計画	1	イントロダクション なぜ世界遺産を学ぶのか	
	2	世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ	
	3	世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産	
	4	日本の世界遺産1 知床、北海道・北東北の縄文遺跡群、白神山地、平泉、日光の社寺、富岡製糸場と絹産業遺産群、小笠原諸島、ル・コルビジエの建築作品	
	5	日本の世界遺産2 富士山、白川郷・五箇山の合掌造り集落、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、法隆寺地域の仏教建造物群、紀伊山地の霊場と参詣道、姫路城、石見銀山遺跡とその文化的景観	
	6	日本の世界遺産3 厳島神社、原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、屋久島、琉球王国のグスク及び関連遺産群、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島	
	7	基礎知識と日本の世界遺産の復習 6回目までの総復習	
	8	世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教	
	9	世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア	
	10	世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化、危機遺産、時事問題	
	11	世界の自然遺産 世界の自然遺産	
	12	検定直前確認テスト 第48回世界遺産検定に向けた直前の確認テスト	
	13	検定問題の解説 第48回世界遺産検定の3級問題の解説	
	14	最新動向の解説 世界遺産の新規登録に関する状況など	
	15	自分の意見の発表 発表	
学習成果・到達目標・基準	○C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を理解する。 ○C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で60%以上の得点を取得することができる。		
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。(90分) 事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深める。(90分)		
指導方法	指導方法： テキストとスライド画像、講義資料(プリント)を用いて、Google Classroomを通じて講義を進めるオンデマンド授業です。内容を理解しやすいよう、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めます。 出欠チェック・課題提出・質問方法： ※動画および課題は毎週月曜日午前中に配信します。		

	※木曜日 17 時までにはその週の課題を提出してください。期限まで課題提出すれば出席とします。 ※授業内容・課題提出に関する質問は、Google Classroomから水曜日まで送ってください。金曜日までに返信します（メールでの質問は随時受け付けます）。 ※課題へのフィードバックは、次週の動画で説明します。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できているかを検定試験で評価する。 C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。 D：検定試験直前確認テストの結果を評価する。 検定試験：60% 授業貢献度（自分の意見）：20% 検定試験直前確認テスト：20% ※検定合格で成績評価1ランクアップ（例B評価の場合→A評価に）
テキスト	きほんを学ぶ世界遺産100＜第3版＞ 世界遺産検定3級公式テキスト 世界遺産検定公式過去問題集 3・4級 ＜2022年度版＞
参考書	
履修上の注意	世界遺産検定の申込方法は別途、授業で案内します。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：G17C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 基礎フランス語の授業です。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において、楽しく学びます。常に＜参加型＞の授業です。講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行います。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返します。一年間で基礎フランス語をしっかりマスターし、話す・聞く・読む・書くと言った4技能をしっかり学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標です。楽しく基礎会話力をつけていきます。 (授業目標) ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
授業計画	1 Lecon 1 オリエンテーション 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1 2 Lecon 2 アルファベ・挨拶 アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2 3 Lecon 3 動詞 ETRE ・敬称・自己紹介・主語人称代名詞 ETRE動詞の活用 自己紹介「私は～です」国籍・職業 数字(1～10) 男性名詞・女性名詞 4 Lecon 4 冠詞・名詞 色々な表現 冠詞+名詞 un/une/du/de la/des/le/la/les 「お願いいたします」等 数字(11～20) 5 Lecon 5 否定文 否定文「～ではない」 リエゾンの仕組み 数字復習 (21～30) 6 Lecon 6 動詞 AVOIR AVOIR動詞の活用 AVOIRを使った色々な表現 数字(31～40) 7 Lecon 7 動詞 疑問文 疑問文「～ですか？」 数字(41～50) 8 Lecon 8 ER動詞① ER動詞の活用 動詞： 好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く、等… 数字復習(51～60) 9 Lecon 9 ER動詞② ER動詞の活用 文章を作る練習 数字(61～70) 10 Lecon 10 Revisions 復習回 全復習 数字(71～80) ロールプレイ 11 Lecon 11 形容詞の性と数 男性形、女性形、複数形の作り方 数字復習(81～90) 12 Lecon 12 Aller / Vouloir / Pouvoir 近未来・～したい・～できる・～が欲しい 数字(91～99) 13 Lecon 13 IR動詞 動詞：選ぶ・終わる

	14 数字(100/1000) Lecon 14 命令文 「～しなさい、～して下さい」 命令文・お願い文 数字復習 15 Lecon 15 Revisions 復習回 今まで学んだフランス語をつかってロールプレイ
学習成果・到達目標・基準	学年末には実用フランス語検定 5 級を習得するレベルまで達する。5 級受験用練習問題も扱う。 ○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。 D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。（毎日15分程度） 事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く（30分程度）
指導方法	教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。 フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。 D：授業での課題・筆記試験を評価する。 E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%
テキスト	「Ken et Julie」（駿河台出版社） 講師参考資料よりプリントの配布
参考書	講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社
履修上の注意	フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。 また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。 フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。 英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。 多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。 また学年末には実用フランス語検定 5 級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを出表することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」をさぐる楽しさを味わう。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション（グループディスカッション） 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 教材を踏まえたグループディスカッション ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 2 芸術と出会うということ（グループディスカッション） 2つで1つのものとは何か ゴッホの手紙、セザンヌとモネ（小林秀雄） ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 3 彫刻：船越保武／神谷美恵子『生きがいについて』（グループディスカッション） 美しさとは何か、生きがいとは何か ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 4 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』（グループディスカッション） 異文化理解、相互理解 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 5 『ベスト』、『十牛図に学ぶ』 不条理について ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 6 中原中也『在りし日の思い出』（グループディスカッション） 他と比べられない世界 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 7 ミハエル・エンデ『モモ』 人と何かを共有することの豊かさ ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 8 東山魁夷という文学（グループディスカッション） あちらとこちらの世界をつなぐもの ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 9 夏目漱石『夢十夜』（グループディスカッション） 名作の色と香り ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 10 サンテグジュペリ『星の王子さま』 経験からでしか学べないこと ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 11 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 ほんとうの幸い ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 12 ディケンズ『クリスマス・キャロル』 これまでの作品に共通していること ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業に活用） 13 世界と日本の美意識（1） 絵画や工芸を中心に 14 世界と日本の美意識（2） 絵と文字の交わり 15 世界と日本の美意識（3） 今の我々の生活とどうつながっているのか
学習成果・到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。（60分程度）

	度) 事後学習：授業で学んだことがらの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度) 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。(60分程度)
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習（グループディスカッション、ペア・ワーク）を踏まえたリアクションを毎回書くことにより、自分が感得したものと丁寧に向き合う。正解よりも思考を深めることを重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 D：提出物、試験によって評価する。 E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペア・ワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F23C31	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察し、現状と課題を述べることができる。		
授業計画	1	マーケティングとは マーケティングの歴史的変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について	
	2	顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて	
	3	マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について	
	4	マーケティング・ミックスの重要性 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）戦略、ペルソナ分析について	
	5	マーケティング・リサーチ 定性と定量調査、アンケート調査、観察調査、行動観察、インタビュー調査について	
	6	ブランド戦略 ブランド要素、ブランド拡張、ブランド・エクイティ（資産価値）について	
	7	製品戦略 製品ライフサイクル理論とイノベーション普及理論について	
	8	価格戦略 内的参照価格、消費者心理を考慮した価格政策について	
	9	流通戦略 直接流通と間接流通チャネルの特徴、店舗とネットの融合について	
	10	販売促進戦略 プッシュ戦略とプル戦略の違い、値引きのネガティブ効果、景品表示法について	
	11	マーケティング・コミュニケーション 広告の変遷、消費者反応プロセス、コミュニケーションのノイズについて	
	12	サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について	
	13	リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマーケティング）について	
	14	経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について	
	15	ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コーズ・リレーテッド・マーケティングについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「基礎コース マーケティング」小原 博著、新世社出版
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえないなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題をあげ、解決方法を述べることができる。		
授業計画	1	ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類、商品計画の流れについて	
	2	ファッション小売業の構造と特徴 ファッション小売業の業態、百貨店、専門店の特徴について	
	3	SPAとセレクトショップ 企画から販売方法、組織形態の違いについて	
	4	ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について	
	5	コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、スタイリングテーマについて	
	6	営業計画の策定 営業期、品揃え計画、販売促進計画、売場レイアウトについて	
	7	売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について	
	8	販売員の業務内容と基本マナー 開店から閉店までの基本的な業務内容、接客用語、電話応対、クレーム対応と処理について	
	9	購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	10	顧客管理の基本知識 顧客満足経営の重要性、固定客づくりについて	
	11	売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、値入高と粗利益、商品回転率について	
	12	ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて	
	13	素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について	
	14	サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について	
	15	店舗調査の項目と方法 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60％、授業内で実施する小テスト課題20％、受講態度・貢献度20％		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定3級公式テキスト」大沼淳著、一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行 「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式問題集」一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行
履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C34	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャンダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から仕入活動、売場陳列に至る一連の流れを明らかにしながら、店舗運営の重要性について解説する。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 （授業目標） 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業における商品計画から仕入、売場陳列のしくみを理解し、店舗運営の知識を修得する。		
授業計画	1	マーケティングとマーチャンダイジングの違い メーカーと小売業における4Pの違いについて	
	2	小売業のマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圏の設定について	
	3	マーケティング・ミックスの構築 商品構成、価格設定、流通、販売促進について	
	4	商圏の設定と出店の基本知識 商圏の特性、出店のねらいと原則について	
	5	マーチャンダイジングの構成要素 商品計画から商品管理、5つの適正について	
	6	商品計画の意義およびその構造 具体的な内容と策定方法、品揃えの幅と奥行について	
	7	仕入計画の立て方 商品カテゴリー別の予算編成と留意点について	
	8	仕入方法と発注方法 大量仕入と当用仕入、定量発注法と定期発注法について	
	9	売価決定の要素 売価と原価と利益の関係、値入高と値入率について	
	10	戦略的な価格政策と心理的価格政策 消費者心理に基づいた価格政策について	
	11	利益の構造 商品ロスの基本的原因、粗利益高、粗利益率について	
	12	商品回転率と交差比率 商品回転率および日数の算出方法、貢献度分析手法について	
	13	商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について	
	14	VMDの基本 売場におけるVMDの手法について	
	15	売場演出の技術 店内照明の種類と役割、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について	
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業における店舗運営の流れを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品や店舗運営に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売管理」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

講義科目名称： 販売管理

授業コード： 1391

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C35	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、法規、経営に関する分野まで多岐にわたる。本講義は、販売員の知識として必要な法規から経営に関する計数管理について解説していく。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 （授業目標） 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業経営に必要な人事管理、販売管理の留意点、財務諸表の見方、販売活動に関する法規の知識を修得する。		
授業計画	1	販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について	
	2	販売活動に関する法規 売買契約、割賦販売、訪問販売、通信販売に関する法規について	
	3	不当景品類の規制 総付景品、一般懸賞、共同懸賞の最高額および総額の制限について	
	4	不当表示の防止 規制の目的、商品名原材料、性能・品質、信用誤認の表示について	
	5	金銭管理の基本知識 金券類の扱いと代金支払い方法の種類について	
	6	慶弔進物の基礎知識 包装の種類、和式進物包装について	
	7	小売業における人事管理 ワークスケジューリング、人時生産性について	
	8	顧客の購買心理過程 顧客心理と接客販売技術について	
	9	顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について	
	10	POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について	
	11	在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、金額および数量管理について	
	12	損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益について、損益分岐点売上高の計算方法について	
	13	貸借対照表の見方 流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率、自己資本比率の計算方法について	
	14	商品の安全確保に関する法規 薬事法、PL法、JAS法、消費期限と賞味期限の違い、トレーサビリティについて	
	15	小売業におけるリスクマネジメント 万引き防止対策とセキュリティシステムについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：販売員に必要な法規や計数管理について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60％、小テスト20％、受講態度・貢献度20％		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「店舗運営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F39C58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」を踏まえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業の店舗運営に必要な知識を理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ○A：店舗運営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ◎E：自分の見解や主張を状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。		
授業計画	1	ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について	
	2	店舗運営コスト（１）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究	
	3	店舗運営コスト（２）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究	
	4	店舗運営コスト（３）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究	
	5	店舗運営コスト（４）（プレゼンテーション） 「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り	
	6	店舗出店コスト（１）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究	
	7	店舗出店コスト（２）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究	
	8	店舗出店コスト（３）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究	
	9	店舗出店コスト（４）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究	
	10	店舗出店コスト（５）（プレゼンテーション） 「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り	
	11	理想の店舗（１）（グループワーク） 「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の抽出	
	12	理想の店舗（２）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究	
	13	理想の店舗（３）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究	
	14	理想の店舗（４）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究	
	15	理想の店舗（５）（プレゼンテーション） 「理想の店舗」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り	
学習成果・到達目標・基準	○A：店舗運営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ◎E：自分の見解を論理的に人前で説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やマーケティング戦略を学ぶ。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	適宜プリント資料を配布する。		

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク ・プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F11C05	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、ファッションの色彩、インテリアの色彩などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には検定対策の参考となるように、問題集も活用する。 (授業目標) 色の3属性（色相・明度・彩度）のしくみについて確実に理解する。 ◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。		
授業計画	1	色のはたらき 色と心地よさ、色とイメージ、色とアピール 色と区別、色と見やすさの調節 色と統一感、色と象徴	
	2	色はなぜみえるか (Classroom) 光とは何だろう 光の性質と色	
	3	眼のしくみ (Classroom) 色を見る眼のしくみ 網膜における光の処理 照明と色の見え方	
	4	混色とは何か (Classroom) 加法混色 減法混色 混色を応用した身近な例	
	5	色の3属性 (Classroom) 色の分類 色の3属性 等色相面、純色、清色、中間色 色立体、表色系	
	6	PCCS (Classroom) 色相、明度、彩度 3属性による色の表示 色相環、トーン	
	7	慣用色名 (Classroom) 系統色名、JIS慣用色名 和式名 外来色名	
	8	色の心理効果 (Classroom) 色の連想と象徴 残像、対比、同化、面積効果	
	9	配色イメージ (Classroom) 色相と配色イメージ 明度と配色イメージ 彩度と配色イメージ トーンと配色イメージ	
	10	色彩調和① (Classroom) 色相を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色 色相とトーンを組み合わせた配色	
	11	色彩調和② (Classroom) アクセントカラー セパレーション グラデーション	
	12	ファッションと色彩(Classroom) トップとボトム 色相を主体としたカラーコーディネート トーンを主体としたカラーコーディネート 色相とトーンを組み合わせたカラーコーディネート パーソナルカラー診断	
	13	インテリアと色彩 (Classroom) インテリアデザイン	

	14 インテリアのカラーコーディネート インテリアにおける色の心理的効果 色と文化(Classroom) 色と時代、流行色のしくみ 色と文学 色と食文化 色と音楽 15 色と世界 (Classroom) 世界の国の象徴色、国旗 フランスの四季の配色
学習成果・到達目標・基準	色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる（90分）。 事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（90分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には検定対策に直結するように、問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 classroomで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：小テストを評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社）
参考書	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト2級」（色彩検定協会）
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 1年後期「カラーコーディネート演習」、2年前期「トータルコーディネート演習」は、本科目を単位修得済であることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C06	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、パーソナルカラー診断の基礎を学ぶ。さらに身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につけるために、アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート製作を行い、めざすイメージやTP0をふまえた配色技法を体験する。アロマセラピーのエッセンシャルオイルを用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。 (授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。 ○C：パーソナルカラー診断の基本的しくみを理解し、自分自身のベストカラーを導き出せる。		
授業計画	1	パーソナルカラー3級 序章、1章 序章：色彩活用としてのパーソナルカラー 1章：パーソナルカラーの基本	
	2	パーソナルカラー3級 2章 色のイメージを豊かにする	
	3	パーソナルカラー3級 3章 似合う色の基準を知る	
	4	パーソナルカラー3級 4章・5章 似合う色を客観的に探す ドレーピング方法	
	5	パーソナルカラー3級 5章 パーソナルカラー診断	
	6	パーソナルカラー3級 5章 診断結果まとめ	
	7	パーソナルカラー3級 6章 似合う色を取り入れる	
	8	同系色と反対色の確認 色相差による配色 同系色、反対色 イメージによる配色	
	9	同系色のブーケ①花選び 花と葉を選ぶ 色相・トーン表に記入	
	10	同系色のブーケ②制作 ワイヤリング、テーピング	
	11	同系色のブーケ③仕上げ、完成、提出 持ち手のシステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル	
	12	反対色のブーケ①花選び 花と葉を選ぶ 色相・トーン表に記入	
	13	反対色のブーケ②制作 ワイヤリング、テーピング	
	14	反対色のブーケ③仕上げ、完成、提出 持ち手のシステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル	
	15	ブーケ発表 1人2分間パワーポイントによるプレゼンテーション 色相差の効果 配色イメージ	
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。 ○C：パーソナルカラー診断の基本的しくみを理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む（20分）。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う（25分）。		
指導方法	講義は、パワーポイントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を各自印刷して参考にする。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作50%、小テスト20%、授業態度・授業貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」 *「新配色カード199a」（日本色研事業） *は、1年前期に購入したものが使えれば継続使用できる。
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	①前期「カラーコーディネート論」を単位修得済みであることが履修の条件である。 ②授業時にテキスト、問題集、「新配色カード199a」、「新配色カード199用演習台紙」を各自持参する。 ③グルーワークの際は、マウスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F25C51	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「トータルコーディネート論」で学んだ理論を実践に結びつける授業である。特に自分らしい装いに必要な似合うスタイルと色の選び方について、より実践的な力を身につけることにより、自分自身のアイデンティティ形成に活用できると同時に、他人へのコーディネート提案に自信をもてるようになる。後半はパーソナルカラーを生かしたビーズブレスレットを制作し、自分らしいスタイルと色による自己表現を実践する。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現であることを実習を通して学び、目的に合ったトータルコーディネート提案ができる。 ◎C：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋がる診断ができる。 ◎E：パーソナルスタイルとカラーを生かしたブレスレットを制作することができる。		
授業計画	1	スタイル診断（１） コーディネートのものさし 分析の軸 顔型と顔のパーツ分析	
	2	スタイル診断（２） 上半身の分析 下半身の分析	
	3	スタイル診断（３） スタイル診断結果まとめ	
	4	パーソナルカラー２級 序章、１章、２章 主な配色技法とパーソナルカラーへの活用	
	5	パーソナルカラー２級 ３章、４章 クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション	
	6	パーソナルカラー２級 ５章（１） 色素（肌・髪・眼）のアドバイス ３属性に基づくドレーピングの方法 ドレープによるパーソナルカラー診断（グループワーク）	
	7	パーソナルカラー２級 ５章（２） ドレープによるパーソナルカラー診断（グループワーク）	
	8	パーソナルカラー２級 ５章（３） ドレープによるパーソナルカラー診断（グループワーク） 診断結果のまとめ	
	9	パーソナルカラー２級 ６章 似合う色・形・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方	
	10	パーソナルカラー２級 ７章（１） ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ	
	11	パーソナルカラー２級 ７章（２） アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用	
	12	パーソナルカラーを生かしたファッション パーソナルカラーを生かしたファッション例 パーソナルカラーを生かしたブレスレット	
	13	ブレスレット（１） パーソナルカラーを生かしたビーズ選び	
	14	ブレスレット（２） ブレスレット制作	
	15	ブレスレット（３） ブレスレット提出	
学習成果・到達目標・基準	◎C：パーソナルカラー診断を行うことができる。 ◎E：色の特徴を生かしたブレスレットを制作することができる。		
事前・事後学習	事前学習：次の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。		
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術として、パーソナルスタイルとカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ブレスレット制作の実習を通して指導する。資格取得希望者にも対応できるように「色彩活用パーソナルカラー検定2級」テキストと問題集を活用する。 授業回ごとにパワーポイントを使用する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：パーソナルカラー診断を評価する。 E：課題の完成度を評価する。 課題提出50%、小テスト20%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」改訂版（産経新聞出版） *「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） *「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） *は、1年次購入したものがあれば継続使用できる。
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版）
履修上の注意	①「カラーコーディネート論」「カラーコーディネート演習」を単位修得済であることがこの科目を履修する条件である。 ②グループワークの際には、マウスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラーニング	実習 グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F39C62	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイル業界、雑貨、日用品などの企業において企画・販売などの就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ライフスタイル業界を学ぶだけでなく企画、提案などを習得する。グループワーク、プレゼンテーション形式などを取り入れ、就職活動がスムーズにできるようにする。 (授業目標) 自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的に業界研究・企業研究を行い、グループワークを通して、責任感を身につける。 ◎E：多様な業種に共通するカラーによる企画提案など表現力を身につける。		
授業計画	1	ライフスタイル業界の現状・採用状況 本講座の概要の説明をする。 インテリア・雑貨・カフェ・花屋・ライフスタイルショップなど業種名、企業名を出し合う。 採用状況を各社のホームページから会社概要、採用情報を調べ、自身でアプローチする方法を知る。 インターンシップの申込方法などを知る。	
	2	ライフスタイル業界の市場調査（１） ライフスタイル業界のなかで興味ある業種について、実際に各自でフィールドワークを行う準備をする。	
	3	ライフスタイル業界の市場調査（２） 市場調査の報告プレゼンテーション。 メンバーのプレゼンテーションを聴いて視野を広げる。	
	4	価値観から適職を分析し、自己紹介文を作成する 幅広いライフスタイル業界において、自分の価値観をカードを使いながら楽しく分析し、具体的な適職を探す方法を知る。 ペアで長所を出し合いながら自分の長所を改めて確認する。自分の長所を書き出し、それぞれに長所をエピソード体験を含めて書く方法を知る。	
	5	履歴書の書き方を学ぶ ライフスタイル業界に就職するための履歴書の書き方を学ぶ。 参考例とともに限られたスペースにおいて短い文章で印象に残る履歴書の作成方法を知る。	
	6	エントリーシートの書き方 WEBによるエントリーシートの書き方を学ぶ。さらに採用担当者宛の適切なメールの書き方などを学ぶ。	
	7	面接方法と面接の練習 作成した自己紹介文を元に面接で質問されること、志望理由、職種の内容の把握など想定される面接用の質問と回答例をまとめる。 面接の練習をすることで本番で緊張せずに、実力を発揮できるようにする。	
	8	面接、zoom面接のためのマナー 就職活動中において、面接時の回答が良くても立ち居振る舞いが悪いと印象が悪くなる。 立ち居振る舞いやビジネス用、面接スーツの着こなしや印象の良くなる事例を学ぶ。 ZOOMなどオンラインでの企業の説明会や面接の場合の注意点、回答例など印象を良く見せる方法を学ぶ。	
	9	カラーによる企画提案の準備 興味ある業種・企業に向けたカラーによる企画提案書（PowerPoint）を作成し始める。	
	10	アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（１） アーティフィシャルフラワーを使ったブーケ・リースなどのデザインを考える。 材料を選び準備する。	
	11	アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（２） 制作を行う。	
	12	アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（３） 制作を行う。	
	13	アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（４） 制作を行う。	
	14	アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（５） 作品を完成させ、撮影しする。 企画提案書を完成させる。	
	15	プレゼンテーション 企業に向けたプレゼンテーションを想定し、企画提案書（PowerPoint）と作品を発表する。	

学習成果・到達目標・基準	◎A：ライフスタイル業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ○E：就職したい企業に企画提案ができるようになる
事前・事後学習	事前学習：本学図書館で就職活動関連の本や雑誌、興味のある企業のHPを検索し採用情報を調べておく。（20分）。 事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、ビジネス雑誌、新聞、また関連企業の広告が出ているライフスタイル雑誌を読んでおく。（25分）。
指導方法	前半は就職活動指導を中心に、後半はカラーコーディネートのワークショップ形式で授業をすすめる。 プレゼンテーションを取り入れ、様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。 実践的に就職活動のサポートになるように指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	カラーによる企画提案に使用するため、「新配色カード199a」（1年次に購入したもの）を各自持参する。 日ごろから、興味ある業種のショップをできるだけ多く実際に見ておく。ショップのコンセプト、ターゲット、商品構成、価格帯など特徴を比較観察すると、自然に業界知識が身につく。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションなど

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F21A04	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルの必要性は高まっており、企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるための力を持たなければならない。本講義は、ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を修得する。 (授業目標) ◎C：自分自身の現状を分析し、成果を出す方法を知る。		
授業計画	1	ビジネスキャリアとは 本講義の概要、ステップアップをするキャリアビジョンについて	
	2	キャリアプランとは 理想像・自分比較・到達手段・中間目標について	
	3	キャリアプラン作成 キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成	
	4	企業と組織 ファッション業界の企業と組織	
	5	企業研究・キャリアアッププラン ファッション業界でのキャリアアップについて、企業研究・IR資料の読み方	
	6	ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションとビジネスコミュニケーションについて	
	7	職場でのコミュニケーション 挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力	
	8	職場でのプレゼンテーション アイデアと企画・ターゲットについて・企画書作成	
	9	ビジネス知識・ビジネスマナー ファッション業界のワード、一般的なビジネスマナー	
	10	仕事術・PDCAサイクル 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクル作成	
	11	ビジネスフレームワーク PDCA以外のビジネスフレームワーク	
	12	情報分析力 仕事に役立つ分析力、顧客分析力	
	13	ワークライフバランス ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営	
	14	ターゲット分析・自己のSWOT分析 コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析	
	15	ペルソナ像設定とプロファイリング ペルソナ像設定、プロファイリングについて	
学習成果・到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（60分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（120分）。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。 授業内PC使用（Word、PowerPoint）		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験60%、課題25%、授業態度・貢献度15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。		

参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F12C09	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインの中でも、主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を修得する。 アパレルデザイナーや商品企画職を目指すためのコンセプトワーク、テーマに基づくファブリケーション、そして商品企画の流れを理解及び体験することにより、ポートフォリオ作成手法も並行して修得する。 (授業目標) ◎D：アパレル商品企画の手法を修得する。		
授業計画	1	ファッションデザインとは 本講義の概要説明、デザインの分類と、アパレルデザインについて	
	2	ファッション用語 ファッション基礎用語について（教科書使用）	
	3	コレクションブランドの分析 コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー・柄展開・アイテム分析 それに伴うファッション基礎ワードについて（教科書使用） コレクション分析（課題）	
	4	ファッション素材概要 ファッション素材の基礎について（教科書使用） 小テスト	
	5	ブランドコンセプト ファッションブランドのコンセプト設定とイメージマップについて コンセプトイメージマップ作成（課題）	
	6	ターゲット設定（ワーク） ファッションブランドのターゲット設定とイメージマップについて ターゲットイメージマップ作成（課題）	
	7	シーズンテーマ シーズンテーマに基づくシーンイメージ設定とイメージマップについて シーンイメージマップ作成（課題）	
	8	シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開 シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について ファブリケーションマップ作成（教科書使用）（課題）	
	9	スタイル画 スタイル画の役割と表現手法について スタイル画作成（課題）	
	10	アイテム画 アイテム画（平絵）の役割と表現手法について 平絵作成（教科書使用）（課題）	
	11	同素材デザイン展開 1 同一素材を使用したアパレルデザイン展開について 確認課題	
	12	同素材デザイン展開 2 同一素材を使用したアパレルデザインの展開について 同素材デザイン展開平絵作成（課題）	
	13	デザイナーのマーチャンダイジング 1 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 確認課題	
	14	デザイナーのマーチャンダイジング 2 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 同素材デザイン展開企画の確認及び修正（課題）	
	15	最終企画構成確認修正 ブランドコンセプト・ターゲット設定に基づく商品企画 ポートフォリオ確認及び修正	
学習成果・到達目標・基準	◎D：アパレル商品企画の手法概要を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でファッションデザインの知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。（90分）		

指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、描絵での表現を含むポートフォリオをシナリオ的に作成していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：最終課題を評価する。 最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「スタイリングブック」高村是州著、株式会社グラフィック社
参考書	なし
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEN、マリークレールビジュア、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを必ず一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント）、猫絵あり
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13B27	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	基礎を振り返りファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解する。特にファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。またアパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。		
授業計画	1	ファッション業界研究 本講義の概要説明、日本のファッション業界の歴史および仕組み、その現状について	
	2	2-8回は”ファッションビジネス [I] ”教材を使用しファッションビジネスの基礎を習得する ファッションビジネス [I] 第1章について ファッションビジネスの概要について 小テスト	
	3	ファッションビジネス [I] 第2章について ファッション消費と消費者行動について 小テスト	
	4	ファッションビジネス [I] 第3章について アパレル産業と小売産業について 小テスト	
	5	ファッションビジネス [I] 第4章について ファッションマーケティングについて 小テスト	
	6	ファッションビジネス [I] 第5章について ファッションマーチャンダイジングについて 小テスト	
	7	ファッションビジネス [I] 第6章について ファッション流通について 小テスト	
	8	ファッションビジネス [I] 第7章について ビジネス基礎知識について 小テスト	
	9	アパレルマーチャンダイジングのフロー ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて シーズントrend商品の売れを検証（課題）	
	10	ファッションマーケティングの実務 ファッションビジネスのプレス・広告宣伝活動 ファッション雑誌タイアップページ分析（課題）	
	11	マーチャンダイジングの知識 1 SPAアパレルの年間52週のMD戦略について 年間型数表作成（課題）	
	12	マーチャンダイジングの知識 2 月度のアイテム計画とVMDについて 月度MD表作成（課題）	
	13	アパレル会社の収益構造 SPAアパレルの特徴及びSPAアパレルの収支計画について 月度収支計画プラン作成（課題）	
	14	ファッショントレンドとマーケットについて ファッショントレンドとマーケットの関係について オリジナルブランドカセットMD（課題）	
	15	今後のファッション業界の展望 今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について	
学習成果・到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。 課題・小テスト対策として、次回授業計画の内容を調べておく（60分）。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること（120分）		

指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での小テストの提出、および課題提出がある。毎回テーマ毎に進めていき、今後のファッションビジネスプランを作成する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題・定期試験を評価する。 定期試験50%、課題20%、小テスト15授業、態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	ファッションビジネス [I] 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 前半にて使用 授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C28	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションの「表現」や「買い方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいまや変革の時期を迎えている。本講義は、ファッションスタイル視点からより豊かなライフスタイルを提案できるようになることを目的に、時代別・年代別のファッションコミュニケーション表現についてあらゆる視点から考察する。さらに、トレンド把握や今後のファッションコミュニケーション手法の変化を考察していくとともにそれを自己表現する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界で必要となる様々なファッション表現を解説できる。		
授業計画	1	ファッションコミュニケーションとは 本講義の概要、ファッションとコミュニケーションの関係、流行のファッションとその主張と表現の関係について	
	2	中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 テーマ設定によるキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	3	近世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 近世ヨーロッパの社会情勢とファッション表現の関係 近世ヨーロッパのファッションのキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	4	1940-50年代のファッションコミュニケーションの特徴 戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 50年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	5	60年代のファッションコミュニケーションの特徴 60年代ライフスタイルのファッション表現 60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	6	70年代のファッションコミュニケーションの特徴 70年代ライフスタイルのファッション表現 70年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	7	80年代のファッションコミュニケーションの特徴 ライフスタイル啓蒙による10人10色への変化とファッション表現 80年代日本独自のファッションのキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	8	90年代のファッションコミュニケーションの特徴 ストリートファッション台頭による1人10色への変化とファッション表現 90年代ストリートファッションのキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	9	近未来のファッションコミュニケーション予測 将来の生活環境変化予測 2050年頃のライフスタイルキーワードとイメージマップ作成（課題）	
	10	ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションの役割について テーマに沿ったワークショップ	
	11	世代別比較 マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Z世代のスタイルイメージマップ作成（課題）	
	12	ファッションスタイルのPR表現 ライフスタイルや生き様からくるファッションスタイルについて そのスタイルイメージのPRツール作成（課題）	
	13	セグメンテーション セグメンテーションによるターゲティング及びポジショニングの関係（STP） 今後のファッション業界の変化予想（課題）	
	14	トレンドから来るファッションコミュニケーション 社会現象に基づくトレンド予測（WGSN社）について ファッショントレンド予測シナリオの検証（課題）	
	15	D to C の今後のビジネス展開 B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 ストーリーマーケティングに関して（課題）	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション業界に影響を及ぼした様々なファッション表現を理解する。		
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をおし、最新のビジネス情報を得		

	る。授業内課題対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。授業内でのリアクションペーパーおよび課題提出がある。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：最終課題・授業内課題を評価する。 最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。 授業内・課題作成にてPC使用（主にパワーポイント・ワード）
アクティブ・ラー ニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F39C57	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界及びファッション関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」をふまえて、アパレル本部にとって必要なコンセプトワーク、商品企画・MD、ブランドプロモーション、店舗運営などの視点を養い「理想のアパレルブランド」を立案することを目的とする。 (授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要な知識やスキルを理解する。 ◎A：ブランド経営に対して積極的に調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。		
授業計画	1	ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状解説、グループ分けアンケート	
	2	ブランド概要決定 (グループ) ワークにてオリジナルブランドの概要を決定する	
	3	ブランドコンセプトについて ファッションブランドの研究を基にブランドのコンセプトワークを解説	
	4	コンセプトワーク (ワーク) 仮想ブランドを構築するにあたり、コンセプトワークを作成する	
	5	ターゲット設定について ブランドのペルソナ像イメージを含むターゲット設定の手法を解説する	
	6	ターゲット設定 (ワーク) ターゲット設定及びターゲットイメージマップ作成	
	7	店舗設定 (路面店) (ワーク) ブランドの路面店用店舗物件選択、店舗内装プラン・VMDプラン作成	
	8	商品構成・商品イメージ (ワーク) ブランドが展開する商品イメージ及び商品構成 (MD)を作成	
	9	広告宣伝プラン及び3か年計画 (ワーク) 路面店オープンと連動するプロモーションプランをリアルとバーチャルにて作成 及びチャネル戦略とプロモーションプラン等ブランドの3年間のシナリオプラン作成	
	10	コンセプトワークプレゼンテーション (プレゼンテーション) 外部講師に向けてグループにてプレゼンテーションをする、外部講師からのレビュー及び講演	
	11	コンセプトワークブラッシュアップ 外部講師からの修正ポイントを理解し、グループワークにてコンセプトワークのブラッシュアップ	
	12	起業・事業計画 (ワーク) ブランドの立ち上げに向けて起業準備と収支プラン作成	
	13	MD・商品企画 1 (ワーク) ブランドの商品企画プラン作成	
	14	MD・商品企画 2 (ワーク) ブランドの商品企画プラン作成 最終確認	
	15	MD構成・商品計画プレゼンテーション 事業計画・商品計画の最終プレゼンテーション	
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランド経営に対して興味を持ちながら課題に取り組むことができる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく (20分)。 事後学習：情報収集した内容をもとに「アパレルブランドの運営」についてまとめる (25分)。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業のブランドリサーチを行い、ブランド運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		

テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C29	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションブランドプロデュースにおいて、アパレル業界の基礎知識を習得した上で特にSPAアパレル業態での事例を論理的に理解することを目指す。 トレンド分析によりマーケットの変化を予測し、ブランドプロデュース業務の各段階を理解するために、簡単なポートフォリオを作成し方法論を習得する。 またブランド運営に必要な視点も養い、時代に合ったファッションブランドを立案することを目的とする。 ◎D：ファッションブランドのプロデュース手法を習得する。		
授業計画	1	ブランドプロデュースとは 本講義の概要説明、アパレルブランドプロデュースについて、アパレル基礎知識及び職種について	
	2	ファッション業界の現状 ブランドプロデュースケーススタディー、アパレル業界の仕組みについて	
	3	既存ブランド分析 ハイブランド・SPAブランド・個人ブランドなどのアパレルビジネスについて	
	4	ブランドコンセプト アパレルブランドのコンセプト設定について	
	5	ターゲット アパレルブランドのセグメンテーションとターゲティングについて	
	6	コレクションブランド分析 トレンドの流れ、コレクションブランドのトレンド分析手法の解説及びトレンドイメージマップ作成（課題）	
	7	商品企画 商品イメージに基づく商品企画の手法解説、コンセプトワークイメージマップ作成（課題）	
	8	マーチャンダイジング 主にSPAアパレルのマーチャンダイジングについて	
	9	店舗設計とVMD 販売チャネルとショップ内装プラン及びVMDについて、ショップイメージマップ作成（課題）	
	10	広告宣伝・販売促進 アパレルブランドのプレス及びプロモーションプラン活動について	
	11	トレンドセミナー 外部専門講師による業界向けトレンドセミナー、英国トレンドフォーキャスターWGSN社のトレンド予測資料使用	
	12	トレンドフォーキャストレビュー WGSN社の資料をサマライズし、解説及びレビュー	
	13	トレンドレビューに沿ったオリジナルブランド企画 1 WGSN社のトレンド予測に沿ったオリジナルブランドのコンセプトワーク（コンセプト・ターゲット設定）作成	
	14	トレンドレビューに沿ったオリジナルブランド企画 2 WGSN社のトレンド予測に沿ったオリジナルブランドの商品イメージマップ作成	
	15	オリジナルブランドレビュー 外部現役講師による学生オリジナルブランドの講評及び実際のオリジナルブランド運営業務内容についての講演	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッションブランドのプロデュース手法概要を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館において指定されている書籍やファッションブランドに関する知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアをもとにアップデートすること。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚的媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。 テーマ単位で理解確認のため小テスト実施や課題制作をする。 現役の専門職講師による講演等を用意しファッション業界の現状理解を促進させる。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する 定期試験40%、課題30%、小テスト10%、授業態度・貢献度20%		

テキスト	なし 参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する WGSN社トレンドフォーキャスト資料を授業内に配布
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEV、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント） 1年後期「ブランドプロデュース演習」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C30	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自己仮想ブランドを構築し、時代の流れを理解した上で実践的なブランドポートフォリオを作成することを目的とする。 自己ポートフォリオを基に、理論的にプレゼンテーションする手法を習得する。 ◎A：ブランドプロデュースに対してマーケットの積極的な調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを資料に落とし込み、論理的にプレゼンテーションすることができる。		
授業計画	1	マイブランド企画について 本講義の概要説明、マイブランド企画のポートフォリオ作成の解説	
	2	マーケット状況分析 ブランドプロデュース論で習得した方法論にて現在のファッションマーケットを分析する。 ブレインストーミング及びプレゼンテーションを行う	
	3	マイブランド企画1（ブランド名・ブランド概要） マイブランドのブランド名及びロゴ決定、ブランド概要決定	
	4	マイブランド企画2（ブランドコンセプト） マイブランドのコンセプト設定	
	5	マイブランド企画3（ターゲット） マイブランドのターゲット設定	
	6	マイブランド企画4（商品） マイブランドの商品イメージマップ作成・アイテム展開・プライスレンジ設定	
	7	マイブランド企画5（ショップ） マイブランドの”クリック&モルタル”的なイメージショッププラン作成	
	8	プレゼンテーション1 マイブランドのコンセプトワークプレゼンテーション及びレビュー	
	9	マイブランド商品企画1（スタイリング） マイブランドのスタイリングプラン作成（描絵）	
	10	マイブランド商品企画2（商品企画） マイブランドの商品企画（描絵）	
	11	マイブランド商品企画3（MD 1） マイブランド立ち上げ用ミニマムユニット商品構成企画（描絵）	
	1 2	マイブランド商品企画4（MD 2） マイブランド立ち上げ用ミニマムユニットMDプラン作成	
	13	プレゼンテーション2 マイブランドの商品企画プレゼンテーション及びレビュー	
	14	マイブランドブラッシュアップ 修正点コメントを考察しブラッシュアップした最終プラン作成及び提出	
	15	マイブランドレビュー 外部現役講師も交えたマイブランド企画課題のレビュー及び解説	
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランドプロデュースに対して積極的な調査を行い、課題に取り組むことができる。 ○E：自己ブランドにおける自分の考えを人前で説明することができる		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査などから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容を基にファッションブランドの運営についてまとめる（25分）。		
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら個人ワークをワークショップ形式で行う。 個別プレゼンテーションを積極的に実施する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 課題40%、プレゼンテーション30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	適宜プリント資料を配布する。		

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館等に行き完成を養い、図書館で「日経MJ新聞」や『WWD』等を読んでおくこと。 授業内PC使用（主にパワーポイント）、猫絵あり。 本科目は、1年前期「ブランドプロデュース論」を単位取得済みであることが、履修条件である。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

講義科目名称： 起業論

授業コード： 1551

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C26	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「卒業したら就職」という従来の選択肢から「卒業したら起業」という選択肢もある時代に、アントレプレナーという起業家の視点から起業について学ぶ。学生生活の身近なテーマから商品企画や販売方法などを自ら考え、ビジネスモデルを構築する。 【関連する科目】経営学入門（1年前期）／ウェディングナヴィゲーション(1年前期) (授業目標) ◎A：アントレプレナーに求められる主体性を磨き、他責ではなく自己責任を負う視点からビジネスモデルを構築する事ができる。 ◎C：ビジネスを成功させるために、客観的視点を持ち、冷静な分析や明確なヴィジョンを創り出す事ができる		
授業計画	01	アントレプレナーという働き方を知る 起業するとはどういうことか？起業するのに必要な考え方とは？	
	02	会社を作るためにこれだけは必要 会社設立に最低限必要な物や手続きとは？	
	03	売るものを考える《ワークショップ1》 会社の利益を生み出す商品。まずはどんな商品を売るのがよいのかをワークショップを通じて考える。	
	04	売るものを考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、商品企画、商品製造について学ぶ。	
	05	売る相手を考える《ワークショップ2》 ビジネスはターゲットを絞り込み、詳細な分析をする事が成功の基になる。自分の商品はどんな人達に向けて売りたいのかをワークショップを通じて考える。	
	06	売る相手を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、ターゲットの絞り込みと特徴について学ぶ。	
	07	売り方を考える《ワークショップ3》 店舗展開、ECなど商品の売り方はさまざま。資金や経験がない環境でどんな売り方があるのかをワークショップを通じて考える。	
	08	売り方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、販売戦略、販売方法について学ぶ。	
	09	広め方を考える《ワークショップ4》 広告やSNS発信など、自分の商品をどのようにして認知してもらうかをワークショップを通じて考える。	
	10	広め方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、広告手法について学ぶ。	
	11	売り続け方を考える《ワークショップ5》 ビジネス設計の時点からリピーターを想定することはビジネスの必須要素。ワークショップを通じてリピーターをどう創出するかを考える。	
	12	売り続け方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、リピーターが生まれやすいビジネスモデルについて学ぶ。	
	13	起業のドレスリハーサル1 個人又はグループで商品企画、ターゲティング、販売戦略、広告戦略、再来のしくみというプロセスに沿って起業の青写真を作成する。	
	14	起業のドレスリハーサル2 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション	
	15	起業のドレスリハーサル3 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション	
学習成果・到達目標・基準	◎A：アントレプレナーの精神を理解できる ◎C：企業がどのように誕生するのかのプロセスを理解できる		
事前・事後学習	事前学習（20分）： 事後学習（25分）：		
指導方法	身近な出来事をヒントにし、起業という一見難しそうな出来事を具体的事例を交えながらわかりやすく指導する。ワークショップと理論を交互に学ぶ事によってより実践的な学びができる。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：課題と成果物による評価。 ◎C：課題と成果物による評価 授業への貢献度・積極性：30% 成果物:30% 課題：40%		

テキスト	無し
参考書	無し
履修上の注意	各自ノートパソコンを持参。 将来起業やEC（イーコマース）などを考えている学生には役立つ内容です。起業には興味がなくとも、起業の視点を学ぶ事により組織での仕事のレベルが上がります。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C25	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小中高校でも金融について学ぶ時代となった今、将来は企業に就職するだけでなく、副業、起業、個人事業などワーキングスタイルは多様化していく。労働に対して報酬を受け取るという受け身の姿勢から、自分自身が経営者の視点を持ち利益創出を目指す事も求められていく社会になる。そこで自分自身の価値を最大限発揮できる仕事をするためには、ビジネスについての広く深い知識を持つ事が必要不可欠となる。この講義ではビジネスの基本となる「会社」について深く学ぶ。会社とは何か？会社の使命は何か？会社のしくみは何か？など会社を経営する視点から組織についての理解を深める。 株式、金融、暗号資産、メタバースなど新たな時代の会社経営の知識にも触れる。 身近なファッション、ビューティ、ウェディングなどの業界の企業を例に学びながら、自然に経営的視点を得る事を目指す。 【関連する科目】起業論（1年後期）/ウェディングナビゲーション／ファッションデジタルマーケティング（2年前期）（授業目標） ◎D：会社のしくみを理解し、組織図を読み解く事ができる。事業計画書や決算書などを読み解く事ができる。 ◎C：企業情報から経営状態を分析したり、今後の方向性を示す事ができる。		
授業計画	01	この授業で学べる事 経営を学ぶ事により、自分の将来の働き方について軸のある計画を立てられるようになる。 経営学がもたらしてくれる恩恵について学ぶ。	
	02	会社って何だろう？ 会社という概念とその社会的意義。何のために会社は存在するのか？を学ぶ。	
	03	企業理念は何故必要なのか？ どの企業にもある企業理念。その目的をミッション、ヴィジョン、バリューの三段階に分けて役割と具体事例を学ぶ。	
	04	会社を構成する人達1 トップマネジメント、ミドルマネジメント、スタッフという3層に分けて会社に属する役割と立場を学ぶ。	
	05	会社を構成する人達2 組織図を見ながらそこで働く人達がどのような役割でどのような仕事をするのか、職種別に学ぶ。	
	06	人事異動と人事評価 会社に勤めると必ずしも希望する職種の仕事ができるわけではない。同時に働く場所も異動の事例が出ることもある。組織を運営するために、何故転勤や異動があるのかを考える。また社員の評価はどのようにすると平等性やモチベーションがあがるのかを探る。	
	07	会社の種類 よくみかける「(株)」という言葉。これが意味することは何か？4つの会社の種類とその違いを学ぶ。	
	08	会社の1年 学校に学年があるように企業にも一年という営業期がある。1年を4つに分割して経営を計画していく企業ならではの1年間の動きを学ぶ。	
	09	会社に入のお金、出のお金 会社を経営するためには売上利益が必要だが、会社を維持するためには必要な経費もある。 入のお金、出のお金のバランスをどうとっていくか。具体的事例を通じて学ぶ。また経営に必要な事業計画書のしくみを学び、計画的な経営手法を通じて企業経営の哲学を学ぶ。	
	10	決算書という答合わせ 経営が健康に営まれているかどうかを見極めるために、決算書のしくみと読み方を学ぶ。 それにより、一般企業の経営状態も読み取れるようになる。	
	11	メタバースと暗号資産 デジタル時代に特有なメタバースの世界観とビジネスへの応用、また資産価値としての暗号資産のしくみと経営への活用方法を学ぶ。	
	12	企業経営研究1 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。	
	13	企業経営研究2 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。	
	14	企業経営研究3 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。	
	15	経営学から学んだ事 14回の授業を通じて学んだ経営的視点が自分の生活にどのような変化を生んだのか、またその経験を今後の就職活動にどのように生かせるかを振り返る。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：会社のしくみを理解し、自分の就職活動に役だてる事ができる。 ◎C：会社の特徴や個性を理解し、自分の適性に照らし合わせる事ができる。		

事前・事後学習	事前学習（20分）： 事後学習（25分）：
指導方法	就職活動で「会社」を選ぶ際に、実は会社という組織そのものについての詳しい知識がないことが多い。多様性の高い社会で働く将来のためにも、会社についての知識を高めながら、同時に会社の価値や働き方についての思考力、判断力を磨いていく。 難解に捉えられている経営学を、日常の視点に置き換えてわかりやすく指導する。 理解に欠かせないディスカッションや意見の共有などアクティブ・ラーニングを中心に経営理論が自然に身に着く手法を取り入れている。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題の提出率と内容による評価 ○C：課題の提出率と内容による評価 授業への貢献度・積極性：40% 課題：60%
テキスト	無し
参考書	無し
履修上の注意	各自ノートパソコンを持参。 自分の価値を最大限発揮できる仕事を目指す人に役立つ内容です。将来、より自由によりアクティブに仕事を楽しめるようになるための基本となる知識を得ることができます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、中村晴菜			
ナンバリング：F37C59	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行い、対応策も学修する。 (授業目標) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を身につける。 ○C：自分に適した企業を判断しウエディング業界への就職活動をする。		
授業計画	1	ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、授業概要、就職活動について	
	2	就職活動の取り組みについて 2021年度採用の企業と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す	
	3	共感力コミュニケーションの必要性和その手法 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ	
	4	就職活動に必要な視点を磨く3-why-wtep 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する	
	5	就職活動成功共有 過去の学生の就職成功事例を紹介	
	6	3-why-stepのケーススタディ 1 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	7	3-why-stepのケーススタディ 2 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	8	3-why-stepのケーススタディ 3 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	9	3-why-stepのケーススタディ 4 テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	10	企業から見た面接とは 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える	
	11	模擬面談と発表 1（プレゼンテーション） 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	12	模擬面談と発表 2 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	13	模擬面談と発表 3 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	14	模擬面談と発表 4 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	15	ウエディングゼミまとめ 就職活動の把握、まとめ	
学習成果・到達目標・基準	◎B：日常の生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ○C：様々なウエディング業種の違いを判断することができる。		
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回毎のテーマについて、予習をしておくこと（20分）。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（25分）。		
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウェディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年時に購入済み） プリント配布（組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート）
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：1年生F36C52	ナンバリング：2年生F38C54	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 (授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。		
授業計画	1	説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明	
	2	事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。	
	3	業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）	
	4	インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。	
	5	インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。	
	6	事後研修（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。	
	7	担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。	
学習成果・到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。		
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。		
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。		

	また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ1は授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2の違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前研修を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前研修の補講は原則行わないものとする。 *新型コロナウイルス感染拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。
アクティブ・ラーニング	特に無し

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：1年生F36C53	ナンバリング：2年生F38C55	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	インターンシップ2は、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 （授業目標） インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。
授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明 2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。 3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定） 4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。 5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修修了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。 6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。 7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。
学習成果・到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する

	A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 *新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。
アクティブ・ラーニング	特に無し

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F14C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。 (授業目標) ○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。		
授業計画	1	ウエディング業界に求められるホスピタリティ ウエディングビジネスに必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ	
	2	ウエディングビジネスに必要な共感力コミュニケーション 人にしかできない仕事であるウエディングの仕事に欠かせない共感力コミュニケーションについて学ぶ	
	3	ウエディング・マーケットの現状と未来 ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ また、今後のウエディングビジネスについてデータを元に予測する	
	4	ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ	
	5	ウエディングビジネスの種別 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る	
	6	現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・衣川雅代氏) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ 同時にウエディングビジネスの中心的な職業であるウエディングプランナーという仕事についてリアルな現状を知る	
	7	ウエディングビジネスの種別 衣裳編 ウエディング業界で大きな役割を担う婚礼衣装業について詳しい知識を得る 同時にドレススタイリストという職業の魅力や特徴を知る	
	8	現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・榎丸三屋 頼金氏) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する	
	9	花嫁のためのホスピタリティを学ぶ(ゲスト講師・宝田ひろみ氏) 花嫁の美しさに責任を持って仕事をするとはどのような事かを、ドレスのアンダーウェアのコーディネーターの視点から学ぶ	
	10	ウエディングビジネスの種別 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る	
	11	ウエディングビジネスの種類 宴会サービス編 ウエディングの現場オペレーションの花形職業であるの中心である宴会キャプテンの仕事について学ぶ	
	12	ウエディングビジネスの種類 写真、映像編 女性に人気のフォトグラファー、ビデオグラファーについて仕事について深く知る	
	13	ウエディングビジネスの種類 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクやサロンワークについて深く知る	
	14	ウエディングビジネスの種別 その他の業種 ジュエリー、フロリスト、S&Lプランナー、司会者など、周辺業務について深い知識を得る	
	15	ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う	
学習成果・到達目標・基準	○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる		
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみる。 (90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。 (90分)		
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C:レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D:授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種類の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50%、授業への貢献度20%、質問シート10%、お礼状10%、リーディングシート10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 プリント配布:テキスト『共感力の鍛え方』を精読するためのリーディングワークシート ウェディング業界基本用語クエスチョンシート 業種特性比較一覧表 3名のゲスト講師へのお礼状
参考書	
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウェディングセレモニー」、「ウェディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 単位確定の学生は、(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会のホスピタリエ認定の受験資格が得られる。
アクティブ・ラー ニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F24C37	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ◎E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。		
授業計画	1	ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢	
	2	結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ	
	3	結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ	
	4	キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	5	神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	6	人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	7	人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える	
	8	コンセプト立案 グループワーク 1（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し） 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る	
	9	進行の決定 グループワーク 2（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン：HPより拾い出し） コンセプトに基づいた進行を創る（音楽演出手法を学ぶ）	
	10	進行の決定 グループワーク 3（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し） コンセプトに基づいた進行を創る	
	11	進行の決定／ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し） コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する	
	12	進行の確認とリハーサル グループワーク 5（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証） 進行を再確認し、『場当たり』をする	
	13	進行の確認とリハーサル グループワーク 6（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証） 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	14	進行の確認とリハーサル グループワーク 7（ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師）（グループワーク、実習）（スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証） 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	15	模擬結婚式（夏期休暇中）ゲスト講師：赤星講師・印南講師）（グループワーク、実習、プレゼンテーション）（スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証） 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ◎E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイディアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。（30分） 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。（60分）		
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。		

	また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。 第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウェディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度 模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
履修上の注意	夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウェディングの知識をさらに高めるため、「ウェディング ナビゲーション」、「ウェディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F34C41	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式に続き、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行うことを通じて授業目標を達成する。 (授業目標) ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルな視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。 ◎E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。		
授業計画	1	セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。	
	2	パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。	
	3	ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。	
	4	ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考えかたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ	
	5	レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習	
	6	サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシュミレーションを行う	
	7	ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレーイングを通じて体得する	
	8	23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。	
	9	レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータ（ペルソナ）に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・ブライズメイズなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。	
	10	レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う	
	11	レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作	
	12	レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外装花会社とウエディングメニューやケーキの相談を外装ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う	
	13	レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える	
	14	レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシュミレーション（リハーサルを行う）	
	15	模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任をもってやり遂げることができる。 ◎E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）		
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する		

	なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	A:主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E:コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%
テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A 公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（1年次に購入した方は不要） ②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21（1年次に購入した方は不要） ③ウエディング演出の23段階（23-Step） ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F14C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 (授業目標) 花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、エステティック、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける。 ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的な花嫁のウエディングをビューティの視点で企画提案ができる。		
授業計画	1	ウエディングビューティについての考え方を学ぶ (クリッカー・意識調査) ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。	
	2	婚礼衣装の基礎知識 (クリッカー：意識調査) 国内外の婚礼衣装の歴史と衣装の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れる。	
	3	招待客の装い (クリッカー：意識調査) ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。	
	4	ブライダルスタイリストという仕事 (クリッカー：意識調査) ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。	
	5	ブライズビューティプログラム①インナービューティ (クリッカー：意識調査) インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。	
	6	ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー (クリッカー：意識調査) ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。	
	7	ブライズビューティプログラム③ビューティスケジュール (クリッカー：意識調査) 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネートにも触れる。	
	8	ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ (クリッカー：意識調査) ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる	
	9	ブライズビューティプログラム⑤ボディメイク(補正下着) (クリッカー：意識調査) 花嫁のインナーウェアについての基礎知識を得る。ドレス別に応じた使用事例にも触れる。	
	10	ブライズビューティプログラム⑥ニュートリション(栄養) (クリッカー：意識調査) ビューティに関わる食生活についての基礎知識を得る。美容や健康に必要な食品や摂取方法についても触れる。	
	11	ブライズビューティプログラム⑦モチベーション (クリッカー：意識調査) ブライズビューティを継続するための花嫁心理について基礎知識を得る。環境変化に応じた心理変化や挙式前の花嫁心理に触れ、カウンセリングのための心構えの手法を知る。	
	12	ブライズビューティプログラム⑧まとめ (クリッカー：意識調査) ブライズビューティプログラム①回から⑦回までのまとめとして自身のインナービューティプログラムを作成し、実際に自身で体感できる目標を設定する。また、コンセプト事例に沿った花嫁のビューティプログラムを考案する。	
	13	体型別ドレス選び (クリッカー：意識調査) 花嫁の体型別ドレス選びについて基礎知識を得る。また、ドレス小物合わせについても触れ、ヘアメイクやネイルについてもトータルでコーディネートする手法を知る。	
	14	ブライズビューティカンパニー① (グループワーク、プレゼンテーション) (クリッカー・意識調査) ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する	
	15	ブライズビューティカンパニー② (グループワーク、プレゼンテーション) (クリッカー・意識調査)	

	ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する
学習成果・到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウェディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ウェディング企業をリサーチする視点を持てる。 ◎E：花嫁の希望に沿ったウェディングビューティのトータルコーディネートを企画提案できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)
指導方法	第1回から第13回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第14回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのブライズカルテを使用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウェディングコスチューム企業についての知識を持っているか。 E：コンセプトに沿ったウェディングビューティをトータルコーディネートし提案することができるかを評価する。 授業への貢献度30%、プレゼンテーション30%、課題提出30%、ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（前期に購入した方は不要） ・プリント配布 ブライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウェディングナビゲーション」「ウェディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウェディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、クリッカー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F11A03	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ブランドを経営する上で商品以外にも関わるデザインは多い。平面的なデザインに重点を置き、なぜそれが多くの人の心を動かしたのか、相手にどのように表現すれば、商品が伝わるのかを考えれるビジネス的なデザイン思考を学ぶ。また、多様化の時代に多くの人が美しいと感じる普遍的なものを学び、新しい提案につなげる。 (授業目標) 広がるファッションの分野で様々な活かせるデザイン思考を学び、実践に活かせる力を身につける。 ◎C：ブランドや商品を研究しコンセプトやターゲットに合うデザインを考えることができる。 ○D：商品をより良く伝えるデザインを論理的に導くことができる。		
授業計画	1	デザインとアート 様々なデザインやアートに触れ、デザイン思考とアート思考を学び考察する	
	2	時代とデザイン 時代と共に変わるデザインやアートを知る 流行にとらわれず、社会を知ること、生まれるデザインを考える	
	3	デザインの分野（プロダクトデザイン・スペースデザイン） 様々なデザインの種類を学び 身の回りに溢れるデザインを見つけ分析する	
	4	デザインの種類（コミュニケーションデザイン） 様々なデザインの種類を学び 身の回りに溢れるデザインを見つけ分析する	
	5	ビジュアルアイデンティティ ブランドとお客様のコミュニケーション ブランディングに関わるデザイン	
	6	ロゴデザイン・フォント ロゴの持つ役割とストーリー	
	7	コーポレートカラー&ブランドカラー・デザインエレメント 色の作用やデザインのパーツによりブランディングを強化する	
	8	パッケージ・紙袋 購入した人が街を歩くことで広告にもなってくれるデザインを知る	
	9	制服・店舗・その他広告 空間や働く人の世界観をデザインする。また、ムービーやSNSなど様々な広告に関するデザイン	
	10	美の法則（統一・調和） 人が美しいと感じる法則を学び、具体的な活用例を知る	
	11	美の法則（リズム・バランス・プロポーション） 人が美しいと感じる法則を学び、具体的な活用例を知る	
	12	ブランドイメージを保ちつつ新製品にまつわるデザイン提案 商品開発と共に繰り返されるマーケティングと販売促進の為のデザイン	
	13	POP・キャッチコピー POPの種類・場所に合わせた活用方法・コンセプトに応じたレイアウト・制作	
	14	錯視 様々な目の錯覚を学び、デザインの取り入れ方や 法則・数値にとらわれすぎない感覚を養う	
	15	時代と共に変わる企業とデザイン コロナ禍で様々な変化が起こり、ブランドにも変化が起こっている ブランド変化に伴うデザインの変化とこれからを考察する	
学習成果・到達目標・基準	◎C：コンセプトに沿ったデザインができる。 ○D：身の回りにあるデザインを知り、デザインとブランド経営の関係を知る。		
事前・事後学習	事前学習：ファッションに限らず様々なデザインに目を向ける。雑誌・広告・パッケージデザインを見て商品の何を伝えたいのか推測する。課題に備え、ECサイトなどで良いと感じた平面的デザインをスクラップしておく（120分）。 事後学習：講義内容を踏まえ、身近な店で購入に至るまでに触れ合ったデザインを分析する（60分）		
指導方法	パワーポイントなどの視覚媒体を多用し、視覚で感じながら解説を行う。 授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出、及び小テストのいずれかがある。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：レポート課題、リアクションペーパー D：定期試験 定期試験50%、課題40%、授業態度および貢献度10%
テキスト	なし 適宜プリント配布。
参考書	
履修上の注意	街頭や雑誌などの広告など様々なデザインに目を向け、感じたことや傾向を記録しておく。 世相やブランドの動向に興味を持つ。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク・ディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一つの商品を企画する時に、商品のデザインだけでなく、その商品をどの様に販売していくか、それにまつわるデザインを企画し、活用方法を考察する。 本授業では、商品を各自選定し、そこからターゲットなどのコンセプトを決め、そのパッケージ・POP・ノベルティグッズなどのデザインを企画し、実際に製作する。紙面上ではなく、複数のデザインを実際に目にするこ とで、一貫したブランディングがなされていたか、適切にお客様に伝わるデザインだったかを考察する。 「Adobe Illustrator」の使い方に重点を置き、「Adobe Photoshop」と併用しながらグラフィック系ソフトの 使い方を習得する。プランニングすることで、デザインの思考を養い、プレゼンテーション資料制作や平面的 デザインを行う (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を活用し、伝えたいことを形にする。 ○A：主体性を持ちデザイン製作を行う。		
授業計画	1	本講座について 今後の企画内容のガイダンス Photoshop、Illustratorの基本的操作と違いと互換性について	
	2	商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 基本的なフォントや文字の配置方法	
	3	商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 画像のレイアウト・コラージュ方法	
	4	キービジュアル制作 デザインを汎用させる事により、ブランディングに繋がる力をつける 次回製作の為にイメージ作り	
	5	キービジュアル制作 デザインを汎用させる事により、ブランディングに繋がる力をつける 次回製作の為にイメージ作り	
	6	POP制作 今まで習得した文字レイアウト技術とキービジュアルを使いPOPを制作	
	7	POP制作 今まで習得した文字レイアウト技術とキービジュアルを使いPOPを制作	
	8	パッケージ・ラッピングデザインとは コンセプトに合うデザインを探る	
	9	パッケージ・ラッピングデザイン企画・制作 コンセプトに合うデザインを探る	
	10	パッケージ・ラッピングデザイン企画・制作 コンセプトに合うパッケージデザインを制作	
	11	ノベルティグッズデザイン企画・制作 コンセプトに合うパッケージデザインを制作	
	12	ノベルティグッズデザイン企画・制作 今までのデザインを汎用させた物品企画 ノベルティグッズ（エコバッグ・Tシャツ・ポーチなどのいずれか）のデザイン制作	
	13	ノベルティグッズデザイン企画・制作 今までのデザインを汎用させた物品企画 ノベルティグッズ（エコバッグ・Tシャツ・ポーチなどのいずれか）のデザイン制作	
	14	立体制作・入稿 今までのデザイン案をまとめ、パッケージなどを立体制作する。 作るものに合わせて、転写シートや布プリントなどでオリジナル製作か、業者に入稿し製作依頼 をかける。	
	15	学修成果発表 講評 プラン完成後、鑑賞会・講評	
学習成果・ 到達目標・基準	◎E：「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」他グラフィック系のソフトやアプリの基本的な技術を用い てグラフィック制作ができる。 ○A：計画性を持ってプラン制作ができる。		
事前・事後学習	事前学習:コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分) 事後学習:授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う (20分)		
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。		

	操作に遅れの出る学生の出ないよう、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題提出物、A：受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜、プリントやフォーマットデータを配布
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入するものがある
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F22C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業で重要なビジュアルを空間で捉えることで、発想したものをカタチにする力を養い、お客様に伝えるビジュアル企画を目指す。またPCで作ったものを実際に具現化する事で、表現力を養う。 本授業では、ショップのターゲット設定しそのお客様の心に訴えるビジュアルを目指す。ショップ全体のイメージ・陳列イメージ・年間のビジュアル販促スケジュール・小物用ショーウィンドウプラン企画・実施することで、販売促進の一環であるお客様に伝えるビジュアルを目指し、ビジネスに活かす。 「Adobe Photoshop」の使い方に重点を置き、「Adobe Illustrator」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザインの思考を養い、プレゼンテーション資料制作や空間的デザインを行う (授業目標) ◎E：コンセプトやターゲットを理解し、商品やテーマが伝わるビジュアルデザインを創造することができる。		
授業計画	1	店舗におけるビジュアル 今後の企画内容のガイダンスとターゲット設定	
	2	空間・陳列などのビジュアル 什器などコンセプトの店舗空間への活かし方 IllustratorとPhotoshopの操作確認	
	3	コンセプトに基づく店舗空間イメージコラージュ制作 商品やブランドコンセプトに合う店舗空間マップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作	
	4	コンセプトに基づく陳列コンセプト制作 商品やブランドコンセプトに合う商品陳列のイメージマップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作	
	5	年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画	
	6	年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画	
	7	ディスプレイ構成 商業施設のディスプレイを考察・分析し、美しいとされるディスプレイの構成を学ぶ 今後企画の参考になる写真をコラージュ	
	8	ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得	
	9	ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得	
	10	ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得	
	11	ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる	
	12	ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる	
	13	ディスプレイ立体製作・撮影 PCプランをもとに実際に組み立てる 完成後撮影をする	
	14	プランまとめ 実施写真を制作プランに入れ込み、コンセプトから実施まで一つのプランにする	
	15	学修成果発表 講評 課題のプレゼンテーションと意見交換	
学習成果・到達目標・基準	◎E：販促活動の一環として、企画し実施することができる。		
事前・事後学習	事前学習:コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分)。 事後学習:授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(20分)。		

指導方法	テーマに沿ってパワーポイントを使用し、画像も用い講義を進める。 講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：作品にコメントを添付し、表現の幅を広げ、技術向上のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入するものがある
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	戦略的に店舗の売上を向上させるビジュアルの知識を養う。VMDによってより良いお買い場作りを学ぶ。 HPなどの平面だけでなく、空間的なビジュアルに重点をおく。購入までの道筋を総合的に考えることで、様々なショップの形に活かす。 (授業目標) ブランドを商品だけで見るのではなく商品に関わる全てのビジュアルによってお客様により良い購入体験ができるよう創出できる。 ◎D：商品やターゲットに合わせどのようなビジュアルや構成が向いているか提案できる。 ○E：ショップのコンセプトやターゲットに合わせた店内を年間で作ることができる。		
授業計画	1	ビジュアルの重要性 ビジュアルに左右される行動や心理 VMD導入の意味と意義と仕掛け方	
	2	購買行動とビジュアル オンラインとリアル店舗の共通点と相違点を明確にし お客様が目にする全てのビジュアルを考える	
	3	デザインテイストの規格化と店舗デザイン ブランドテイストや商品を考慮したショップスタイリング	
	4	店舗ツール ビジュアルを左右するマネキンや什器について知る	
	5	売り場作り ゾーニングやグルーピングを学び、店内レイアウトを考える	
	6	3つのゾーンの役割 VP/PP/IPに空間を分け、お客様を集客し分かりやすい買い場を作る	
	7	IP（陳列の基本） 陳列の種類とわかりやすい・見やすい陳列を探る	
	8	IP（陳列の基本） カラーテクニックやアイテム別の魅せ方	
	9	PP（ゾーンのポイント） 効果的な配置場所とディスプレイ構成	
	10	VP（店舗の顔） 構成の種類と効果を実施写真で考察・分析	
	11	VP（店舗の顔） 販促テーマを効果的にビジュアル化する方法を学ぶ	
	12	MP技法・ライティング効果 商品を美しく魅せる技法を学ぶ	
	13	年間のお買い場づくり 商品の入れ替えに合わせて効果的にビジュアル化する	
	14	季節の装飾 旬なおもてなしでお客様の心を掴む	
	15	店内再編集とこれからの時代のVMD 商品ライフサイクルを反映する売り場の再編集方法 アフターコロナやオンラインなど変わる時代の店舗像	
学習成果・到達目標・基準	◎D：店内のディスプレイや陳列を見極めて構成できる。 ○E：年間の販促計画に合わせた商品の見せ方を考えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：店舗ごとにショップ内の自分が好きな箇所と嫌いな箇所をまとめておく（60分）。 事後学習：講義の中でのキーワードをチェックリストにし、実際の店舗をリサーチする（120分）。		
指導方法	講義内容に関連する写真や映像等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D、E：レポート課題、定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する。		

参考書	
履修上の注意	百貨店や駅ビルなど様々な商業施設に足を運ぶ。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
江頭誠			
ナンバリング：F12C10	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールに適した技法を判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。		
授業計画	1	講師紹介、ガイダンス (ZOOM) 講師の紹介 (制作物、メディア情報等の紹介) ファッション イラストレーションAの授業の概要説明	
	2	基本プロポーション説明 ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて (正面、横) イラスト制作に便利なツールの紹介	
	3	アイテム図の表現 スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用方法について 諸所の画材を用いて実験	
	4	スカートのスタイル画 (1) スカートのスタイル画、コーディネート考案	
	5	スカートのスタイル画 (2) スカートのスタイル画、線画の完成	
	6	スカートのスタイル画 (3) スカートのスタイル画の着彩、仕上げ	
	7	イラスト模写 イラストからポージング、アイテムの描き方を参考にし模写	
	8	写真模写 ファッション雑誌等のモデル写真からポージング、顔の表情を参考にし模写	
	9	パンツスタイルのスタイル画 (1) パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案	
	10	パンツスタイルのスタイル画 (2) パンツスタイルのスタイル画、線画の完成	
	11	パンツスタイルのスタイル画 (3) パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ	
	12	オリジナルテーマのスタイル画 (1) オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案	
	13	オリジナルテーマのスタイル画 (2) オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成	
	14	オリジナルテーマのスタイル画 (3) オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ	
	15	プレゼンテーション オリジナルテーマのスタイル画のプレゼンテーション、講評	
学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げるにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける (30分)。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする (30分)。		
指導方法	資料や配布プリント、デモンストレーションなどによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆したデータ等を使用し、上達のためのアドバイスをを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプロポーションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%		

テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
飯田淳			
ナンバリング：F22C11	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	切り離して考えられない生活とファッション。その関係を意識して、オリジナリティーのあるファッションイラストレーションを制作する。多様化した生活、環境、時間、空間を調査分析して、「着ている人」を視覚化する。基礎的な表現方法を指導して、企画、構成、描写、そしてプレゼンテーションを通してコンセプトを人に伝えるコミュニケーション力も養う。 (授業目標) ○C：様々な生活スタイルから感じ取ったデザインや着こなしを企画提案する。 ◎E：色彩と形のバランス、ボリューム感を考え、着ている人物の生活も感じさせる表現技術を身につける。		
授業計画	1	ガイダンス イラストレーションの仕事を見ながらファッションとの関係を解説	
	2	色彩とシルエット 様々な画材を用いて色面を制作、シルエットに当てはめ、人物と服とのボリュームを考える	
	3	色彩とシルエット 色面で出来たシルエット画を発表して講評する	
	4	生活スタイルとファッション（1） 同世代の生活スタイルを調査分析してディスカッションを行い企画案を考える	
	5	生活スタイルとファッション（1） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する	
	6	生活スタイルとファッション（1） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	7	色彩とライン 様々な画材を用いて線画を制作、ラインで人物の骨格を表現する	
	8	色彩とライン 色彩と線画で出来た作品を発表して講評する	
	9	生活スタイルとファッション（2） 自分にとっての理想の生活スタイルを考え、ディスカッションを行い企画案を形にする	
	10	生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する	
	11	生活スタイルとファッション（2） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	12	自由課題 生活スタイル1、2をもとに自由な表現で作品を制作する	
	13	自由課題 好きな画材とサイズで制作する	
	14	自由課題 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	15	全体講評とまとめ 全課題を展示して、自身の感覚と考え方を俯瞰的に捉えて、将来の仕事に生かす為のアドバイスを行う	
学習成果・到達目標・基準	○C：生活スタイルとファッションの関係を意識して表現に繋げる事ができる。 ◎E：ボリュームと色のバランスを構成にいかし表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファストファッションからハイブランドまで、実際に展開されているショップを観察してファッションのトレンドとライフスタイルの切り口を調査し情報を収集する。（30分） 事後学習：雑誌、web等の情報からファッションの流れを予測して、画像等をファイリングして次の課題につなげる。（30分）		
指導方法	企画、アイディア出し、ラフスケッチ、制作、完成までを共に考えアドバイスしながら個性を生かした作品に仕上げる。 表現したいイラストレーションの技法に関して、画材の選択等の指導をする。 フィードバックの仕方：発表段階でより完成度の高い作品に仕上げる為のポイントを講評時に行う。ディレクション的な指摘も行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：生活スタイルが感じられる表現が出来ているか、企画が新鮮かを評価する。 E：伝えたい事が描けていて、オリジナリティーも感じられるかを評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリントを配布
履修上の注意	・課題を自由な発想と分析で理解し、作品を完成させること。 ・課題提出の期限を厳守すること。 ・多くの画材に触れて特性を体験すること。
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション

講義科目名称： ウエディング ビジュアルプレゼンテーション 授業コード： 1141
論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：越智亮二）			
ナンバリング：F24C40	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングビジネスにおいて営業や集客のためのプレゼンテーションや広報する技術は、大変重要である。企業のHP、SNS、ロコミ等のメディアや情報ツールの比較検討や SWOT 分析を通じて広報の重要性とテクニックを学ぶ。実務の専門家による映像、写真、ペーパーアイテム、コラージュ、Webメディア、グラフィックデザイン、プレゼンテーションの授業構成からウエディングに係るビジュアルプレゼンテーションの理論と技術を修得する。 (授業目標) ○B:対象に合わせたプレゼンテーションを複数のビジュアル表現ツールを活用し、作成することができる。 ◎E:ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。		
授業計画	1	ウエディングとビジュアル・プレゼンテーション<ガイダンス> ビジュアル・プレゼンテーションの必要性を理解し、活用事例で理解を深める	
	2	webメディアデザイン　<講師：越智>(クリッカー：理解の確認) 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法	
	3	写真①　<ゲスト講師> 撮影の基本を学ぶ	
	4	写真②　<ゲスト講師>(実習) データの活用手法を学ぶ (web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等)	
	5	webメディアデザイン②　<講師：越智>(クリッカー：理解の確認) 最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的活用法と今後の流れ (色・フォント・デザイン) を学ぶ	
	6	映像①　<ゲスト講師>(グループワーク) 撮影の基本を学ぶ	
	7	映像②　<ゲスト講師>(グループワーク) データの活用手法を学ぶ (web、披露宴映像演出、PV等)	
	8	コラージュの手法　<ゲスト講師> コラージュで表現する世界観を学ぶ	
	9	コラージュの活用　<ゲスト講師>(グループワーク) 目的別コラージュの活用方法を学ぶ	
	10	イメージデジタルデッサン　<ゲスト講師> 創り上げたヴィジュアルイメージを伝えるためのデジタルデッサンの手法を学ぶ ロゴ、エンブレムなどの活用手法を学ぶ	
	11	イメージデジタルデッサン<ゲスト講師>(実習) デジタルデッサンのワークショップ	
	12	ペーパーアイテム①　<ゲスト講師> ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティを学ぶ	
	13	ペーパーアイテム②　<ゲスト講師>(実習) ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティ	
	14	効果的なプレゼンテーション　<講師：越智>(クリッカー：理解の確認) パワーポイントを活用し効果的なウエディングプレゼンテーションを学ぶ。	
	15	まとめとデモンストレーション　(クリッカー：理解の確認) 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルプレゼンテーションの全容を理解する。	
学習成果・到達目標・基準	○B：得意とする1種類のビジュアル表現ツールを使い、プレゼンテーション資料を作成することができる。 ◎E：各ビジュアル表現ツールの活用方法がわかり、使用方法も理解している。		
事前・事後学習	事前学習：Classroom実習ノート（事前学習）に沿って課題に取り組む（90分） 事後学習：Classroom実習ノート（事後学習）のワークページを必ず完成させておく。（90分）		
指導方法	高い専門性をもつゲスト講師を招き、時代にマッチした知識と技術を合わせて学ぶ。 Classroom実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 毎授業ごとに課題を定時しClassroom実習ノートに提出 ① 事前課題を提示 ②レポート提出（学生） ③指摘事項を記入し返却 ④再提出		
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること。 E：ウエディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか。 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、Classroom実習ノート提出状況と授業への貢献度20%		

テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	履修者は、パワーポイントの基本操作が出来ることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：本田真理）			
ナンバリング：F15C43	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	スキンケア、メイクアップ、顔分析、色彩、皮膚、化粧品の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。メイクアップの各工程についての理解を深め、最終的にはメイクアップを総合的に捉えてメイクアップをデザインできるようにする。 また、「日本メイクアップ知識検定試験ベーシック」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。 （授業目標） ◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。		
授業計画	1	スキンケア理論 授業内容ガイダンス スキンケアの目的とスキンケア化粧品の種類と特徴	
	2	皮膚の基礎知識 顔の成り立ち スキントイプチェック方法	
	3	ベースメイク理論 ベースメイクの目的とベースメイク化粧品の種類と特徴 肌色分析	
	4	皮膚の専門知識 皮膚の構造と生理作用、紫外線の影響 肌トラブルのメイクアップ対応法	
	5	チーク・ハイライト・ローライト理論 顔型分析とチーク・ハイライト・ローライト化粧品の種類と特徴	
	6	アイブロー理論 眉のバランス分析とアイブロー化粧品の種類と特徴	
	7	アイメイク（アイシャドウ・アイライン・マスカラ）理論 目のバランス分析とアイメイク化粧品の種類と特徴	
	8	色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識とカラーバランス・カラーデザイン	
	9	リップ理論とメイクアップの効果 唇のバランス分析と口紅の種類と特徴 心理効果、視覚効果、錯覚効果	
	10	顔分析と修整理論 顔型・顔バランスの修整 眉・目元・口元の修整	
	11	オフィスメイク 好感が持たれるゴールデンバランスメイク	
	12	イメージメイク 4つのイメージ分類とイメージポイント	
	13	メイクアップの歴史とトレンド トレンドの作られ方と取り入れ方	
	14	パーソナルカラーメイク パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップへの応用方法	
	15	メイクアップ分類 メイクアップデザイン分類と化粧品会社分類	
学習成果・到達目標・基準	◎D：メイクアップのそれぞれの工程を理解し、人に伝えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（90分） 事後学習：授業内で学んだことを自分の顔で実践しておく。（90分）		
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 定期的に小テストを実施する。 メイクアップ理論の課題を提出する。 フィードバックの仕方：小テスト実施後及び課題提出後に質疑応答。		
アセスメント・成績評価の方法・	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%		

基準	
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習B」は本講義の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F15C44	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。 客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようにする。 前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。 後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようにする。 (授業目標) ○D:メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。 ◎E:イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。		
授業計画	1	ガイダンス（実習：1～15回） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具について メイクアップの効果と目的を考える	
	2	スキンケアと美しい肌とは 皮膚の基礎知識とスキントypes・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する（マッサージで健やかな肌を育てる）	
	3	ベースメイクのテクニック 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する	
	4	チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する	
	5	アイブロウのテクニック 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する	
	6	アイメイクのテクニック 目元の観察と形・色の効果を理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する	
	7	リップのテクニック リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する	
	8	トータルバランスメイク メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する トレンドを取り入れたベーシックな「フレンチ・シック」を表現する	
	9	顔のプロポーションと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する	
	10	印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック キュートメイクの理論を学び実習する	
	11	印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック フレッシュメイクの理論を学び実習する	
	12	印象表現メイク「クール」の理論とテクニック クールメイクの理論を学び実習する	
	13	印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック エレガントメイクの理論を学び実習する	
	14	印象分析によるイメージチェンジ① 自分の顔の分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する （デザイン画の提出）	
	15	印象分析によるイメージチェンジ② デザイン画を元にセルフメイクでトータルに表現する	
学習成果・到達目標・基準	○D:メイクアップに必要な基礎知識を説明できる。 ◎E:メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分) 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)		
指導方法	・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスをを行う⇒Google Classroom にセルフメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの		

	質疑対応 ・知識テストと技術テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒技術テスト結果にコメント記載のうえ返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・メイクアップデザインの課題を実施する。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom に課題結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D:メイクに必要な基礎知識に関する筆記テストを行い評価する。 ◎E:トータルメイクアップの実技試験を行い評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	特になし
参考書	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト
履修上の注意	実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習で必要な道具類を必ず各自で用意すること。 授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：本田真理）			
ナンバリング：F15C45	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半はスキンケアテクニックとベースメイクテクニックの手順をマスターすることを重点的に行う。後半はタッチアップをするためのポイントメイクとポイントメイクオフを行う。 また、「日本メイクアップ技術検定試験3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。		
授業計画	1	メイクアップの事前準備（実習：2～15回） 授業内容ガイダンス 実習に必要なメイク道具についての説明、技術者としての心構え	
	2	ポイントメイククレンジングテクニック 目・唇の皮膚構造を踏まえたアイメイク・リップメイククレンジング	
	3	クレンジング・化粧水・乳液テクニック 骨格・筋肉を意識したベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布	
	4	ベースメイクテクニック（1） 肌色知識とファンデーション・パウダーのフィンガー・スポンジ・パフ・ブラシワーク	
	5	ベースメイクテクニック（2） 肌色調整理論とコントロールカラー・肌トラブル理論とコンシーラー	
	6	チーク・ハイライト・ローライトテクニック 顔分析・修整理論に基づいたチーク・ハイライト・ローライト	
	7	アイブロウテクニック 美人バランスとペンシル・パウダーテクニック アイブロウオフテクニック	
	8	アイシャドウテクニック アイバランスと3色グラデーション アイメイクオフテクニック	
	9	アイライン・マスカラテクニック ペンシル・リキッドライナーとビューラー・マスカラ アイメイクオフテクニック	
	10	リップテクニック リップバランスとラインバリエーション リップオフテクニック	
	11	肌分析とスキンケアテクニック 15分でモデルの肌状態を把握するスキンケアテクニック ポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液	
	12	顔分析と修整ベースメイクテクニック 15分でモデルの顔分析に応じた修整ベースメイク コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト	
	13	顔分析と修整ポイントメイクテクニック 20分でモデルの顔分析に応じた修整ポイントメイク アイブロウ・アイシャドウ・アイライン・マスカラ・リップ	
	14	トータルメイクアップ（1） 50分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク	
	15	トータルメイクアップ（2） 50分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク	
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。		
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）		
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 技術テストを実施する。		

	メイクアップ技術理論の課題を提出する。 フィードバックの仕方：実習時にコメントをする。授業内及び授業外で質疑応答。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト （一般社団法人JMA）
参考書	
履修上の注意	「メイクアップ論」を履修することが必須となる。 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。 相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：F25C46	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べられるようにする。 ◎E：状況に合わせて必要なメイクアップを判断し、表現できる。 ○D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多彩な方法を説明できる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。	
	2	「顔」「化粧」とは（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのか考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。	
	3	ファッション業界とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。	
	4	表現とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。	
	5	女性の顔、男性の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。	
	6	子どもの顔、老人の顔 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。	
	7	世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。	
	8	顔と心（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。	
	9	自分の顔、他者の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。 他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。	
	10	人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。	
	11	時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。	
	12	似合うメイクアップ（1） ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。	
	13	似合うメイクアップ（2） ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。	
	14	メイクアップの可能性について（1）（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。	
	15	メイクアップの可能性について（2）（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。	

学習成果・到達目標・基準	◎E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解している。 ○D：メイクアップの多彩な方法を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。（30分） 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。（30分）
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（セルフメイク）を行う。 フィードバック方法： Google classroomを使用した課題、提出物については随時授業内にてレビューする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：試験でシチュエーションに合ったイメージのメイクアップを提案できるかを評価する。 ○D：課題において、メイクアップの方法を具体的に記述できているかを評価する。 実技30%、プレゼンテーション30%、課題20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜データで資料を共有
参考書	なし
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習（セルフメイク）を行う。授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア（質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） ブレイン・ダンプ（与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F15C49	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 (授業目標) 相モデル（ペア）演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル（ヘア、メイク、洋服）バランス能力を高めることができる。		
授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方（実習：1～5.7.9.11.15回） ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	2	ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー	
	3	ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	4	ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	5	ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	6	ヘアアレンジ基礎（ペアワーク、グループワーク） アイロン ・ヘアデモンストレーション	
	7	流行ヘアアレンジ・メイク（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	8	流行ヘアアレンジ・メイク（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション	
	9	カジュアルヘアとモードヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	10	カジュアルヘアとモードヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	11	ブライダルヘア（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	12	ブライダルヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション	
	13	トータルで考えるイメージヘア（1）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン	
	14	トータルで考えるイメージヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン	
	15	スタイル作成 ・技術確認	
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎（編み込み、カジュアルアレンジスタイル）ができる。		

事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F25C50	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 （授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習、ヘアカウンセリングディスカッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。		
授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認（実習：1～6.8.9.11.15回） ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	2	ヘアアレンジ確認と応用（1） ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	3	ヘアアレンジ確認と応用（2） すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	4	ヘアアレンジ応用（1） ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	5	ヘアアレンジ応用（2） ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	6	ヘアアレンジ応用（3） 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	7	ヘアアレンジ応用（4）（ペアワーク、グループワーク） 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション	
	8	ヘアアレンジ応用（5） パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	9	カジュアルヘアとショーヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	10	カジュアルヘアとショーヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション	
	11	ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用	
	12	トータルで提案するヘアメイク（1）（ペアワーク） ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン	
	13	トータルで提案するヘアメイク（2）（ペアワーク） ※スマートフォン	
	14	トータルで提案するヘアメイク（3）（ペアワーク） ※スマートフォン	
	15	スタイル作成 ・技術確認	

学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用（美容器具の扱い方、TP0アレンジスタイル）ができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小椋啓司			
ナンバリング：F22C23	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリーの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリーの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリー制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。 (授業目標) ◎E：金属材料によるアクセサリー制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 (実習:2～14回)	
	2	シンプルデザインのリング制作（実習:2～14回） 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作	
	3	シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作	
	4	ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作	
	5	ワックス原型制作 デザイン、原型制作	
	6	刻印を用いたバングル制作 オリジナルのメッセージを刻印したバングルを制作	
	7	リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作	
	8	チャームアクセサリーの制作 ロストワックス技法により鋳造された金属パーツのアクセサリーへの組み立て	
	9	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 デザインシート作成、素材集めなど	
	10	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 デザインシート作成、素材集めなど	
	11	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	12	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	13	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	14	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	15	作品講評 学生評価を加味した上で選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターへ投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。	
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリー制作をすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：アクセサリー専門店や展示会などで実物に触れてみる。（30分） 雑誌やインターネットなどでアクセサリーの多様なデザインを知る（30分） 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。（30分）		
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアド		

	バイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%、
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F15C47	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。爪の名称や用具用材の特徴を知り、シンプルなデザインから繊細なアートまでを学ぶ。自分の爪を使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。ネイルデザインはネイルチップを使い、ジェルカラーの選び方、デザイン・色彩・パーツのバランスなどの演習を行う。 (授業目標) ○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。 個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。		
授業計画	1	ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 学科：ジェルネイルの基礎知識。ジェルネイルとは。	
	2	学科：爪の構造・爪の病気 ネイル検定の筆記試験に出る内容を中心に、爪への理解度を深める。	
	3	マニキュア マニキュアに関する材料の使い方・ポリッシュの塗り方	
	4	マニキュア 学科：爪の形 実技：爪の整え方	
	5	マニキュア ネイルチップ、または自分の手を使用して練習する。	
	6	教材の説明 ジェルネイル初回 教材の使い方。次回から始めるジェルの授業に向けての説明。	
	7	ジェルネイル Basic ワンカラー・ラメグラデーション ネイルチップを使用して練習する。	
	8	ジェルネイル Basic グラデーション・フレンチなど、社会に出た時の身だしなみを整える上で必要な手元の美容を学ぶ。	
	9	ジェルネイル アート ネイルチップを使用して練習する。極細の筆を使用し、繊細なアートに挑戦。	
	10	ジェルネイル トrendアート その年の流行を取り入れて、トrendのアートを学ぶ。	
	11	ジェルネイル 応用 ネイルチップを使用して練習する。引き続き極細の筆で練習。	
	12	ジェルネイル 柄の配置など、ネイルスクールでも学べないようなアートのコツを学ぶ。 ネイル以外の事にも活かせるバランスの取り方など、応用し可能性を広げる。	
	13	ジェルネイル 応用 ネイルチップを使用して練習する。オリジナルのデザインを小さな世界に表現する。	
	14	作品制作に向けて 作品制作にあたり、着物に合うデザインの作り方や和柄を中心としたアートの描き方。	
	15	個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」 5本セット ※授業後に、制作レポートと共に提出。	
学習成果・到達目標・基準	○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。また、次週のネイルデザインの色決めをしておくこと。（30分） 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。（30分）		
指導方法	ネイル概論では、爪の構造・名称・ジェルネイルの成分を学習。 講師によるデモンストレーションを見た後に、練習。授業最後に作品提出。 初めは、自身の爪を使ってネイルケア実習を行い、その後はネイルチップを使い、デザインのバランスを考えながら指導する。 基礎アート、応用アートを修得し、修得後は個人作品を提出する。制作物で授業への理解度を確認し、評価する。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 課題70%、授業貢献度30%
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	・NAIL MAX ・NAIL VENUS ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など
履修上の注意	2～4回目までのポリッシュの授業では、自身の爪を使用するため、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。
アクティブ・ラー ニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F25C48	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識・技能を修得する。 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラワー」の演習を行なう。 ※学生同士互いにモデル・プラクティスハンド・自分の手を使用。 (授業目標) ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの技能を修得する。		
授業計画	1	ネイルアート演習2について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。 ネイル検定3級・ジェル検定のモデルについて。	
	2	ジェルネイル検定初級 ジェル検定初級課題のアート”ピーコック”を学ぶ。	
	3	ジェルネイル検定初級 赤いポリッシュと赤いジェルを塗る。	
	4	ジェルネイル検定初級 学科：皮膚学 ※検定筆記試験対策	
	5	ジェルネイル検定初級 ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでを学ぶ。	
	6	ネイル検定3級 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用法 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学ぶ。	
	7	ネイル検定3級 教材配布 自分の手、または相モデルにてプッシャーとニッパーの正しい使い方を練習。	
	8	ネイル検定3級 テーブルセッティング 演習1で学んだ、ファイリングを再度確認。 ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでの通し。	
	9	ネイル検定3級 プッシャー・ニッパーの使用法の復習。 手指消毒～ネイルケアまでをプレクティスハンド、または相モデルにて練習。	
	10	ネイル検定3級 学科：衛生と消毒 検定アートの説明	
	11	ネイル検定3級 検定アートも含めて、通し練習。	
	12	ネイル検定3級 これまで学んできた事の復習と共に、受験時の採点ポイントを抑える。 実技検定に合格するために必要な事を復習。	
	13	ネイル検定3級 検定アートも含めて、通し練習。	
	14	実技テストについて(60分)・検定学科のテスト(30分) 筆記検定に合格するために必要な事を復習。	
	15	演習2 検定試験の実技テスト 検定を受験する為に必要な知識・理解度の実技テスト。	
学習成果・到達目標・基準	○D：JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの技能を修得する。		
事前・事後学習	事前学習：3級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。 ネイル検定に必要な物の確認・用意をしておく。(20分) 事後学習：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。 過去問題を繰り返し行い覚える。(40分)		
指導方法	JNECネイリスト技能検定試験3級、ジェルネイル検定初級の試験内容を把握する。 講師によるデモンストレーションの後、理解度・疑問点などを指導し、実技の練習がメインとなる。 後半授業では、検定試験同様のタイム入力をプラクティスハンドや相モデルで行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り70%、授業態度・貢献度30%、
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	JNAテクニカルシステムベーシック
履修上の注意	実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N24C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食品加工学は、食品の加工・製造の面および関連事項を通じて食品に付随する事実や特性を幅広く理解する。担当者の食品会社の実務経験(商品開発含む)より、現場での実例を紹介し多角的に食品を解説し理解を促す。授業内容は2部構成とする。まず総論として食品全体について加工方法、劣化現象、保存方法、包装、食品の表示について解説する。次に、各食品について代表的な加工食品の原料及び製造原理、流通商品の製造原理、メーカー事情及びノウハウ、その他関連事項について解説する。各食品については、食品学各論に該当する内容もフォローし、商品開発についても随時触れていく。またClassroomに資料を掲載して、事前・事後学習が有効に行えるようにフォローし、さらに関連事項や関連メーカーについて各自がインターネット等を利用して調べる。 (授業の目標) 食品加工学は、食品を加工する意義から食品に係る事項も含め幅広く食品について理解する。基本的な食品加工理論を修得しながら社会情勢の変化を理解し、衛生的で経済的かつ安全な加工食品を選択及び利用する力を身に付ける。 ◎C：食品を多角的に理解することができる。市販品よりその食品の情報を収集できる。同系食品でもその違いや本質が理解できる。 ○D：代表的な加工食品の製造方法・製造原理が理解できる。また社会的な影響が理解できる。
授業計画	1 食品について 食品について ①食品についての概要 ②授業内容・授業の進め方 ③食品を加工する意義・必要性 食品についての概要として時代背景、現状の問題、加工技術等を学ぶ。授業の進め方や諸注意等を確認する。食品を加工する意義や必要性について食品について関連事項を含めて解説する。対面を利用して、食品について考えていることや疑問点をディスカッションする。 2 食品の加工方法 食品の加工方法 ①物理的方法 (物理現象の利用) ②化学的方法 (化学反応の利用) ③生物的方法 (微生物の利用) ④最新技術 食品の各種加工方法について、物理現象・化学反応・微生物の利用についての各方法について学ぶ。食品の処理法と食品を提示して解説する。最新技術として逆浸透法・高圧処理・ゲル化他も解説する。対面を利用して興味ある加工食品についてディスカッションする。 3 食品の劣化及び現象 食品の劣化 ①食品の不都合・不具合 ②劣化の原因 ③劣化現象 食品の劣化現象について学び食品を劣化させる犯人を特定する。劣化の原因(微生物・食害・酸素・酵素・光)について解説する。劣化現象(腐敗・酸化・褐変)について事例をあげて解説する。対面を利用して、食品の腐敗の経験などディスカッションする。 4 食品の保存1 食品の保存1 ①劣化を防ぐ方法 ②低温貯蔵法 ③乾燥法 食品の保存方法について劣化の原因から保存法について学ぶ。低温貯蔵(冷蔵庫の話・温度帯の違い・氷温貯蔵他)について解説する。乾燥の原理から乾燥法(FD・SD・薬剤他)について解説する。対面を利用して身近な乾燥食品についてディスカッションする。 5 食品の保存2 食品の保存2 ①酸素対策 ②食品添加物 ③冷殺菌法・その他 食品の保存方法について酸素対策や食品添加物の使用法またその他の保存方法について学ぶ。食品劣化の原因である酸素対策についてCA貯蔵・MA包装・脱酸素剤を解説する。食品添加物について種類・表示方法について解説する。燻煙法について塩蔵・煙の成分・燻煙の種類を含めて解説する。加熱しない殺菌法として冷殺菌(薬剤・放射線)について解説する。

6	対面を利用して食品添加物の意義についてディスカッションする。 食品の包装と包材 食品の包装 ①包装の意義 ②包装素材 ③プラスチック素材 ④包装関係諸問題 食品の包装及び関連事項について学ぶ。包装の意義（歴史事項・必要性他）や包装素材（紙・ガラス・金属・プラスチック）について解説する。プラスチック素材に関しては、各種プラスチックの特徴・複合フィルムを含め解説する。 包装及び包材関係する諸問題、環境問題・エネルギー問題、リサイクル他についても解説する。
7	対面を利用して、リサイクル問題についてディスカッションする。 食品の表示と法規 食品の表示 ①表示とは？ ②商品開発と表示 ③食品表示法他、関連法規 ④表示の実際 食品の表示について表示法から関連法規について学ぶ。表示から食品の情報を収集する方法を学ぶ。 商品開発と表示 法規と表示（食品表示法・食品衛生法・JAS法・健康増進法・景表法・計量法） 表示から情報収集 対面を利用して食品で気になる表示についてディスカッションする。
8	食品の開発 食品の開発 ①商品開発とは？ ②歴史と食品 ③商品開発の実際 ④リニューアル 商品開発について、時代の証言からその手法を含めて全般的に学ぶ。商品開発については、ニーズとシーズを踏まえ て開発の手順について解説する。歴史から開発された食品やメーカーのヒット食品も紹介する。商品開発の別の柱で ある商品のリニューアルについても解説する。 対面を利用してヒット食品についてディスカッションする。
9	穀類と加工食品 穀類 ①穀類とは？ ②米類 ③小麦粉類 ④その他穀類 穀類について、その意義や価値及び米類・小麦類について学ぶ。米類については、種類、米の処理（搗精法）、米 類加工方法（無精米・備蓄米他について解説する。小麦については、特長やその加工品、パンの製法（製パンの原 理・各種製パン法）及びメーカーの技術紹介する。 対面を利用して、好きなパン及び製パン技術についてディスカッションする。
10	肉類と加工食品 肉類 ①肉類の種類 ②加工食品及び加工法 ③肉類に関連する事件 肉類の種類や肉類の加工品及び関連事件も含めて学ぶ。肉類種類は、家畜、家禽、家兎を紹介し、肉類加工品（ソーセ ージ・ハム類）を事例を踏まえて解説する。肉類関連事件として、狂牛病、口蹄疫、鳥インフルエンザについても解 説する。 対面を利用して、肉類の加工品や調理についてディスカッションする。
11	魚介類と加工食品 魚介類 ①魚介類の種類 ②加工食品 ③加工法 魚介類について、種類（魚類・甲殻類・頭足類その他）や加工食品及び加工法について学ぶ。 魚介類の特徴や種類及 び人気のある魚について解説する。魚介類の伝統的加工品及び加工法や新しい食品についても解説する。 対面を利用して、鮭についてディスカッションする。
12	油脂類と加工食品 油脂類 ①油脂とは？ ②油脂類の原料と種類 ③油脂類の処理（加工） ④加工食品 油脂類の種類からその処理法（採油・製油法）及びそれぞれの加工食品について学ぶ。油脂原料は、植物油・動物 油脂の特徴と処理法と油脂加工食品（マーガリン・ショートニング他）について解説する。 対面を利用して、油についてディスカッションする。

	13 野菜・果物類と加工食品 野菜・果物類 ①野菜の種類 ②野菜の加工食品 ③果物の種類 ④果物の加工食品 野菜と果物の種類や加工方法及び加工食品について学ぶ。野菜と果物は喫食する部位にわけて種類を解説する。加工食品については伝統的加工方法や最新の技術を踏まて解説する。対面を利用して、好きな野菜・果物についてディスカッションする。 14 嗜好飲料類 嗜好飲料類 ①ノンアルコール飲料 ②アルコール飲料 嗜好飲料について、ノンアルコール飲料とアルコール飲料を分けて種類や製法及び製品特長について学ぶ。ノンアルコール飲料は、炭酸飲料、缶コーヒー、スポーツ飲料・ミネラルウォーターについて解説する。アルコール飲料は、ワイン・ビール・日本酒・蒸留酒について解説する。対面を利用して、各種嗜好飲料についてディスカッションする。 15 乳類・乳製品類 乳類・乳製品類 ①牛の一生 ②乳類分類 ③殺菌方法 ④乳製品 乳類及び乳製品について原料から処理及び加工方法、加工食品について学ぶ。牛から牛乳が出来るまでと牛乳分類・殺菌方法について解説する。乳製品や関連微生物についても解説する。対面を利用して乳製品について利点を含めてディスカッションする。
学習成果・到達目標・基準	◎C:食品を広く理解して、加工食品については市販品からその特徴や他社製品ごとの違いが言える。 ○D:代表的な加工食品の製造や加工工程がイメージでき、製造を通じて関係する諸問題も感覚的につかむことができる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って食品を学んでいくので、各回ごとの教科書の内容を良く目を通し、キーワードや興味ある点・事項などノートに羅列すること。興味ある事項は、新聞・雑誌・参考書・インターネット等で調べてノートにまとめること（60分程度） 事後学習：授業を通じて習ったことをClassroom記載の資料で確認し、ノートにまとめその食品の理解を深めること。市場（スーパー・CVS等）にて市販品をみて情報（表示他）を取集すること。またその食品の業界のホームページやメーカーのホームページを調べて内容を確認する。（120分程度）
指導方法	授業は、基本的に対面にて講義を行う。パワーポイントを使用して関連事項や事例を提示しながら授業を進める（学生はノートを取る）。随時、学生には多角的に質問して理解状況や興味を確認する。毎回、前回のポイントをパワーポイントに提示し、重要点を再確認する。 フィードバックの仕方：①授業内での質疑応答及び今回のポイント確認 ②次回の授業で前回の重要点確認
アセスメント・成績評価の方法・基準	C:食品全般の基礎知識を質疑や定期試験で評価する。 D:代表的な加工食品の製造方法や原理の理解等を質疑や定期試験で評価する。 定期試験 80% 授業態度等（質問対応・参加状況等） 20%
テキスト	新食品加工学 吉田勉編 医歯薬出版
参考書	スタンダード食品学 改定新版 五明紀春他共著
履修上の注意	1. 講義授業は、講義に参加（聞く・質疑に答える・ノートを取る等）することを原則とする。 2. 授業中は他の人に迷惑にならないよう授業態度（マナー）に注意すること。授業中は次にあげる行為は禁止する。（おしゃべり、居眠り、飲食、スマホ等の操作、化粧、他の教科の課題の作成、無断で教室外へ出ること・授業を受ける上で好ましくない行為等） 3. 授業に必要なでないもの（飲食物、スマホ等、授業に使用しない物）は持ち込まないこと。または、鞆等にしまうこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション：授業の流れにおいて特定のキーワードに関してディスカッションを実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：栄選択必修
担当教員			
谷口裕信			
ナンバリング：N24C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食品について、製造（加工・原理）を通じて食品を幅広く理解する。実習では、「学び」、「体験」、「総括」をセットとして食品加工の理解を深める。担当者の食品会社（開発研究所所属・工場現場経験等）の実務経験より現場の実例を示しながら多角的に食品加工及び加工食品を解説する。 「学び」では、加工原理等及び操作方法・加工方法を理解する。 「体験」では、実際に加工食品を製造して試食検査を実施する。また市販品と比較する。 「総括」では、学び・体験したことで得たことや感じたことをレポートにまとめる。グループ内で協議して商品開発等をグループ毎に発表する。 授業は、実際に食品を加工することで食品を多角的に理解し、随所に商品開発に関連することも盛り込んで食品の理解を深める。 （授業の目標） 食品の基礎知識、表示、市販食品との違い、加工方法を理解し、グループによる加工実習からチームワークと加工方法を身に付ける。 A：班における自分の役割を理解し、加工実習を通じて良いチームワーク作りができる。 ○D：食品学等で習う食品に対する加工法を学び、食品加工の基礎を身に付ける。 ○E：代表的な加工食品の製造原理を理解し、加工操作ができる。		
授業計画	1	食品加工の概要 食品加工の概要 ・授業の目的・内容説明 ・レポートの作成方法 ※Classroomにてレポートの書き方提示 ・食品加工概要 ・物理的方法と化学的方法及び生物的方法について加工方法と食品事例を学ぶ ・完成度の高い加工食品紹介（DVD等から）	
	2. 3	果物の加工（イチゴジャム）・食品製造概要 ①果物の加工（イチゴジャム） イチゴジャムの製造 イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。製造を通じて食品を加工する意義を確認する。 ②食品製造概要 食品を安全に製造することを学ぶ。食品加工上及び実習室（加工環境等）の注意事項を確認する。 食品加工の心構えを現場（工場）の実例をあげて説明する。	
	4. 5	商品開発・開発作業 ①商品開発 ・商品開発の考え方（保存技術・開発） ・加工食品の保存技術 （低温処理・乾燥）缶詰や瓶詰の保存の原理、脱気・密封・殺菌について解説する。 加工食品の商品開発について事例を踏まえて解説する。 ②開発作業 ・グループディスカッション ・テーマ資料視聴（DVD等）	
	6. 7	小麦粉の加工（手打ちうどん）・提案作業（商品開発） ①小麦粉の加工（手打ちうどん） ・手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学び、現場での事例も紹介する。 製造を通じ職人の技術も確認する。 ②提案作業 ・うどんの新しい食べ方検討 グループワークにて新しい食べ方を提案する。	
	8. 9	乳製品の加工（チーズ）・提案作業（商品開発） ①乳製品の加工（チーズ） ・カッテージチーズの製造 カッテージチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズを試食して違いや風味等を確認する。 製造を通じて、乳類の品質や特性を確認する ②提案作業 ・カッテージチーズの新しい食べ方検討 グループワークにて新しい食べ方を提案する。	
	10. 11	野菜の加工（ピクルス）・缶詰と瓶詰	

	①野菜の加工 ・ピクルスの製造 - 野菜の保存方法について学ぶ。 - 漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 - 酢の種類や特長も学ぶ。 - 市販品を比較して原料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。 - 製造を通じて、浸透圧の現象や食酢の効果や品質を確認する。 ②缶詰と瓶詰 ・長期保存食品の秘密 - 缶詰・瓶詰の製造の秘密を確認する。 油脂の加工（バター）・グループワーク ①油脂類の加工（バター） ・バターの製造 - バターの製造原理や乳化について学ぶ。 - バターの製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 - 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類等を学ぶ。 - バターの製造を通じて、加工手法（遠心力）を体感する。 ②グループワーク ・発表準備及び対応 12. 13 14. 15 加工食品（加糖酸乳）・発表会 ①加工食品（加糖酸乳） ・乳製品の応用 加糖酸乳の製造 - 発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 - 市販品と比較して、発酵乳や乳飲料について学ぶ。 - 製造を通じて、酸乳について製法の意義を確認する。 ②発表会 授業で行ったグループワークより、グループ毎に発表する。
学習成果・到達目標・基準	A：班における自分の役割を理解し、チームワーク作りに貢献し、加工実習をやり遂げることができる。 ○D：代表的な食品の加工法の理解ができ、それに伴う食品の説明ができる。市販品との違いを説明できる。 ◎E：代表的な加工食品の製造原理が理解でき、それに伴う作業ができる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って次回製造する食品について教科書や参考資料等で調べる。（45分） 事後学習：実習で習ったことをレポートにまとめて製造した食品の理解を深める。機会を見つけて市場の市販品（表示含む）を確認する。（45分）
指導方法	・5～6人を1グループに班別に1班単位で、瓶詰、袋詰等は1人1個の割合で製造できる規模で実習し、発表課題についてグループ毎に発表する。 ・最初に製造の原理や操作方を説明し、その後は各班ごとを巡回しながら指導する。 ・実習ごとにレポートを提出してもらい理解度を確認する。 フィードバックの仕方：①レポート提出 ②レポート評価、コメント ③授業内の質疑応答 ④前回作品の振り返りや追加事項
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：受講態度・グループ内での授業貢献度を評価する。 D：加工食品の基礎知識について、加工方法や特性の理解などをレポート提出・定期試験で評価する。 E：加工実習貢献度（食品製造の心構えや取り組み姿勢）を評価する。 実習を通して学んでいく教科なので実習態度、レポート、グループ発表及び試験で総合的に評価する。 定期試験50％ レポート40％ 実習参加状況（実習態度・ルール順守等）10％
テキスト	食品加工実習・実験書 吉田企世子編 医歯薬出版
参考書	新食品加工学 吉田勉編 医歯薬出版
履修上の注意	1. 班単位で製造するので班員で協力して実習に参加すること。 2. 食品を製造する意識を常にもって実習に参加すること。 3. 実習の時は食品製造に適する身支度をして衛生管理に留意し、怪我等しないように注意すること。 4. 食品製造の環境下で授業を行うので、飲食物、スマホ他、授業に関係ない物品は持ち込まないこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N25C20	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフステージ別に適切な栄養素の摂取、食生活のあり方、食形態を前提とした献立の実際を学び、実習を通して調理上の注意点、献立立案における配慮事項を学ぶ。 また、試食を通して調理法の選択、食感・味覚上の問題に関しても理解を深め、対象者が満足する食事作りを身に付ける。 (授業目標) ライフステージ別の生理的特徴や変化、食事摂取基準を理解し、栄養マネジメントを行うために必要な基礎的な知識と調理技能を習得する。 A：班での調理を通し、チームワークの重要性と個々の責任について学ぶ。 ○C：ライフステージ別生理学的特性を理解した上で、それに適した献立展開、調理法選択ができる。 ◎E：ライフステージ別の食事の実際を理解し、献立作成、調理作業を円滑に行うことができる。		
授業計画	1	ガイダンス・成人期の栄養 実習概要、実習の基礎演習、栄養マネジメント、ライフステージごとの食事摂取基準など実習に必要な知識を概説する。 成人期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。事例に基づいた食事計画のポイントを確認する。	
	2. 3	妊娠期・授乳期の栄養－献立作成－運動と栄養・環境と栄養（実習：試食） 妊娠期・授乳期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。各個人で、妊娠期・授乳期の献立を作成する。 運動時の特性を学び、身体活動への積極的な取り組みを検討する。特殊環境における栄養の特性を学ぶ。市販されている関連食品の試食を行う。	
	4. 5	乳児期の栄養－調乳・離乳食－（実習：調理・試食） 無菌操作法を用いた調乳方法について学ぶ。調製粉乳・フォローアップミルク・治療乳・液体ミルクを試飲する。 離乳食の進め方を学ぶ。離乳食の調理を学び、離乳の進め方を評価する。離乳の時期による食形態の差異を学ぶ。	
	6. 7	幼児期の栄養－食物アレルギー代替食・間食－（実習：調理・試食） 乳幼児期の三大アレルゲンを学ぶ。食物アレルギー代替食の調理を学び、調理方法を評価する。 幼児期の生理的特性を学び、間食の重要性を理解する。間食の調理を行い、試食後、評価する。	
	8. 9	学童期の栄養（実習：調理・試食） 学童期生理的特性、栄養管理を学ぶ。学校給食で好評な献立やカルシウム豊富な献立の調理を行い、試食後、評価をする。	
	10. 11	思春期の栄養（実習：調理・試食） 思春期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。思春期に必要な栄養素を豊富に含む献立の調理を学び、栄養価を評価する。	
	12. 13	高齢期の栄養－食事介助の配慮・咀嚼機能の低下の配慮－（実習：調理・試食） 高齢者の生理的特性、栄養管理を学ぶ。食事介助の配慮をした献立の調理を学び、自立支援の高齢者の栄養管理を学ぶ。 食事介助の配慮をした献立の調方法を評価する。咀嚼・嚥下機能の低下がある場合の献立の調理を行い、試食後、評価をする。	
	14. 15	妊娠期・授乳期の栄養－献立評価－（プレゼンテーション）・咀嚼や嚥下機能の配慮(実習：試食) 献立評価を行い、作業計画を検討する。各班で優秀献立を選定し、優秀献立作成者が代表としてプレゼンテーションを行う。 咀嚼や嚥下機能の低下に配慮した市販食品（ソフト食、ムース食等）の試食を行なう。	
学習成果・到達目標・基準	A：班における自分の役割を理解し、調理実習・献立評価を効率よくすすめることができる。 ○C：食における問題点をライフステージに合わせて評価し、説明することができる ◎E：調理法や味覚の配慮をした献立立案ができ、対象者に適した調理操作を選択し、調理ができる。		
事前・事後学習	事前学習：今回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、まとめておく。（45分） 事後学習：配布プリントの確認を含め、授業内容をまとめたレポートに取り組む。特に、事後学習が大切である。授業の調理を振り返り自宅で作ってみると、理解も調理技術も上達する。（45分）		
指導方法	・調理実習はデモンストレーションをしながら説明を行い（手元カメラでデモ中の映像を拡大して見ることができる）、グループごとに実習する。 ・試食前に各グループの実習内容を評価する。 ・調理実習終了後に点検を受け、グループごとに終了となる。 ・内容に応じてパワーポイントを利用して要点を示しながら説明をする。 ・適宜DVD等の視聴覚資料を利用する。 フィードバックの仕方：レポート①課題の提示、②課題を提出後評価し、コメント記載のうえ返却する、③授業後による採点についての質疑応答。 実習①料理の仕上がり、効率、終了時間を評価、②評価後に班別、個別にコメントする。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：実習で作った料理及び作業効率の良さ、グループワークの貢献度を評価する。 ○C：定期試験を評価する。 ◎E：レポートを評価する。 定期試験 40%、レポート提出40%、実習で作った料理および作業効率の良さ、グループワークの貢献度		

	20% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	「応用栄養学実習書」柳沢幸江編著 建帛社 2020年
参考書	・「八訂準拠 ビジュアル食品成分表」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 ・「調理のためのベーシックデータ」松本仲子編著 女子栄養大学出版部
履修上の注意	応用栄養学講義で終了した内容は、十分に理解していることが望ましい。 提出物の期日を厳守する。 実習中は安全・衛生に注意する。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：栄選択必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N27C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	15回の授業を3分割し、ブロックごとに授業方法・内容を変え、実践的・具体的に理解を深める。初回はガイダンス、2～6回は全体会で、各特定給食施設の特徴やそこで求められる栄養士の役割などを学ぶ。7～11回は5つの履修モデルに分かれた授業で、各分野で活躍する方を招いての講演や、それぞれの分野で必要な知識や技術を演習や実習などで学ぶ。12～15回は給食管理実習（学外）につなげる授業を分野別に行う。 （授業目標） 栄養や食品についての専門知識を活かせる職場は、病院・福祉施設・事業所・学校・保育園・外食産業・フードビジネスなど多岐にわたり、その仕事内容も業種により異なる特徴がみられる。この科目では身につけた専門知識や技術を社会に還元する方策を見出すために、栄養士業務や食品業界などについて、多角的、実践的、具体的に学び、自己の将来像へとつなげる。 ◎D：履修モデルに即した基礎知識を学び、主体的に演習や課題に取り組むことで技術の向上を図り、実践に移すことができる。 ○E：それぞれの履修モデルや特定給食施設の特徴を学ぶことで、自己の将来像や果たすべき役割・目的などを見極め、社会に向けて発信、表現することができる。		
授業計画	1	ガイダンス（西山・井部・高橋・未定・未定）：全体会 本授業の目的、授業方法、授業を受ける際のルールなどを学ぶ。授業担当者全員より、それぞれの担当する分野や授業内容などについて説明を受ける。	
	2	特定給食施設の種類と特徴①：全体会 特定給食施設（事業所）の種類と特徴について学ぶ。（担当：高橋）	
	3	特定給食施設の種類と特徴②：全体会 特定給食施設（病院）の種類と特徴について学ぶ。（担当：井部）	
	4	特定給食施設の種類と特徴③：全体会 特定給食施設（保育園）の種類と特徴について学ぶ。（担当：西山）	
	5	特定給食施設の種類と特徴④：全体会 特定給食施設（高齢者福祉施設）の種類と特徴について学ぶ。（担当：未定）	
	6	特定給食施設の種類と特徴⑤：全体会 特定給食施設（学校）の種類と特徴について学ぶ。（担当：未定）	
	7	履修モデル別講座①：分科会（フードビジネス・販売モデル）（ゲスト講師が講演 担当井部） （ICT:Classroom） フードビジネス・販売の現場で働いているゲスト講師の講演を聞き、フードビジネスで活躍するために必要なスキルを知る。	
	8	履修モデル別講座②：分科会（フードビジネス・販売モデル）（グループワーク） （ICT:Classroom） フードビジネス・販売の現場の現状と課題を理解する。	
	9	履修モデル別講座③：分科会（フードビジネス・販売モデル）（ICT:Classroom） 現代の生活者と食市場を理解し、ゲスト講師から出された企画の情報収集を行う。	
	10	履修モデル別講座④：分科会（フードビジネス・販売モデル）（ICT:Classroom） 現代の生活者と食市場を理解し、ゲスト講師から出された企画を立案するためのプレゼンテーション準備を行う。	
	11	履修モデル別講座⑤：分科会（フードビジネス・販売モデル）（プレゼンテーション） （ICT:Classroom） 立案した企画のプレゼンテーションを行い、学生間で評価する。	
	12	学外実習分野別講座①：分科会（学外実習分野別） 保育所、事業所、高齢者福祉施設、病院の4グループに分かれ、第12回から15回は授業を行う。概要は、分野ごとの給食計画や実務管理、栄養指導・教育など、演習を中心とした授業で学ぶ。実習に向けて研究課題の指導を実施する。 病院：病院実習の概要、実習のポイント、研究テーマについて。	
	13	学外実習分野別講座②：分科会（学外実習分野別） 病院：病院の献立演習課題、身だしなみチェックを行う。	
	14	学外実習分野別講座③：分科会（学外実習分野別） 病院：病院における栄養食事療法と献立の展開を理解する。学外実習に関するアンケートを行う。	
	15	学外実習分野別講座④：分科会（学外実習分野別）（グループワーク）（プレゼンテーション） （ICT:Classroom） 病院：病院実習における諸注意の最終確認、まとめを行う。研究テーマについてプレゼンテーションをする。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：それぞれに必要な基礎知識を学び、課題をまとめることができる。 ○E：それぞれの業種や分野において果たすべき業務を遂行でき、社会に貢献できる。		

事前・事後学習	事前学習：事前に配布されたプリント、資料等を熟読し、専門基礎分野の予習を十分に行っておくこと。また日頃から栄養や食品に関わる情報についての興味、関心を持ち、積極的に調べ記録しておくこと。（15分） 事後学習：各自、レポート課題の作成を行うことで理解を深め、それぞれの業種や特定給食施設等の特徴をまとめること。（30分）
指導方法	・全体会（6回）：分野別担当教員により、特定給食施設の特徴、栄養士の役割、基礎知識を学ぶ。 ・分科会（モデル別、5回）：外部講師の特別講演や、実際の社会現場に即した知識・技術を学べるよう演習や実習を中心に実施する。 ・分科会（実習分野別、4回）：給食管理実習（学外）に向けて、演習や課題を中心に学び、研究テーマ指導を行う。 ・パソコン、プロジェクターなどを利用した演習や、栄養教材・栄養指導媒体などを活用することにより、実践的かつ円滑な指導を行う。 フィードバックの仕方：①演習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後の質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：全体のレポート課題、履修モデル別・実習分野別での課題、提出物を評価する。 E：履修モデル別・実習分野別の課題、提出物を評価する。 研究課題 40% 提出物 40% 授業貢献度 10% 授業態度 10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	「給食管理実習の手引き」「臨地実習ノート」（適宜、プリント資料配布）
参考書	「八訂準拠 新ビジュアル食品成分表」大修館書店 「栄養士必携」「糖尿病食事療法のための食品交換表」「日本人の食事摂取基準（2020年版）」「日本人の食事摂取基準(2020年版)の実践・運用」
履修上の注意	この授業は、学外から特別講師を招いて講義を行うため、学生としてそぐわない行動は避け、主体的で積極的な授業態度が必要である。また、給食管理実習（学外）につなげる授業でもあるため、遅刻や無断欠席は厳禁とし、授業中の不必要な退室、私語、携帯電話操作、居眠りなどは厳しく対処するので注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子、狩野恭子			
ナンバリング：N27C31	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	栄養士の業務内容（予定献立の作成、食材発注、検収、大量調理、食事サービス、栄養事務、栄養指導）を学内において実践する。給食管理実習（学内）では、すでに学んだ食事計画、給食管理の理論などの知識を生かして実務を行う。給食の運営のテーマは「学生の健康管理のための給食」とし、給食における栄養教育の実際と効果も含めて観察や調査も行い、実社会同様に実施する。この実習を通じて、給食の運営に携わる栄養士のあり方を学ぶ。 （授業目標） 特定給食施設における給食管理の実際を体得するとともに、特定給食における給食管理のあり方を理解する。 ○A：グループにおける自分の役割と大量調理の特性を理解し、予定献立の作成、調理実習ができる。 ◎D：大量調理施設衛生管理マニュアルの衛生管理に基づいた給食業務を身に付ける。		
授業計画	1	栄養計画 給食管理実習（学内）について概要を把握し、給与栄養目標量、大量調理における衛生管理について確認をする。	
	2	料理様式別の特徴を比較し、それぞれの特徴を確認する。 利用者に対応した給与栄養目標量をもとに献立作成を行う。	
	3	大量調理施設設備の把握・献立作成手順（調理実習：調理・試食） 実習室（厨房）内の施設・設備及び器具類の把握、大量調理機器を使用して簡単な調理を行う。 献立作成手順を確認しながら、知識を定着させる。	
	4	作業計画①（グループワーク：給食を提供するためのサービスをまとめる。） 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せを行う。 大量調理における重要管理点の設定を行う。 献立より発注量の計算、作業計画の作成をする。	
	5	供食実習①（調理実習：調理・試食） 実習室での大量調理、喫食者のアンケート集計をする。	
	6	給食の評価①（グループワーク） 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点をアンケートをもとに検討して対策を立案する。 献立から栄養比率を求め、栄養評価をする。 栄養指導教材の評価をする。	
	7	作業計画②（グループワーク：給食を提供するためのサービスをまとめる。） 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せを行う。 大量調理における重要管理点の設定を行う。 献立より発注量の計算、作業計画の作成をする。	
	8	栄養指導教材の作成 献立内容に沿った栄養指導教材の作成をする。	
	9	供食実習②（実習：調理・試食） 実習室での大量調理、喫食者のアンケート集計をする。	
	10	給食の評価②（グループワーク） 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点をアンケートをもとに検討して対策を立案する。 栄養指導教材の評価をする。	
	11	帳票整理 大量調理実習における重要管理点をまとめる。 実施献立表の作成、栄養日報の作成する。 調味と数値が一致しているか確認し、知識を定着させる。	
	12	作業計画③ 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せを行う。 大量調理における重要管理点の設定を行う。 献立より発注量の計算、作業計画の作成をする。	
	13	供食実習③（調理実習：調理・試食） 実習室での大量調理、喫食者のアンケート集計をする。	
	14	給食の評価③（グループワーク） 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点をアンケートをもとに検討して対策を立案する。 栄養指導教材の評価をする。	
	15	食事計画の評価・まとめ（グループワーク） 献立表の役割を理解し、対象者に合った献立であったかの確認をする。 作成献立の発表を行い評価をする。 見つかった問題点を検討し、修正を行う。 全体報告会（グループワーク・プレゼンテーション）	

	グループ討議による実習内容の評価、反省会で個人発表をする。
学習成果・到達目標・基準	○A:グループにおける自分の役割と大量調理の特性を理解し、調理実習をやり遂げることができる。 ◎D:大量調理施設衛生管理マニュアルの衛生管理に基づいたポイントを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業の準備として、1年次に修得した「給食の運営」と「食品と衛生」分野の復習をする。 試作した献立を大量調理実習前に自宅で作ってみると理解も調理技術も上達する。（30分程度） 事後学習：実習ノートの整理、レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめをすること。 特に、事後学習が大切である。（60分程度）
指導方法	1 クラスをグループに分け、それぞれの日程で実習が進行する。献立の決定、作業管理、試作による献立の検討、実習準備、実習実施の各段階で随時アドバイスをしながら実習を進めていく。実習献立のまとめには、PCを用いて、栄養価計算ソフトを使用する。 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価して返却、④授業後による採点についての質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A:個人の授業態度・グループのチームワークを評価する。 D:レポート、定期試験を評価する。 定期試験 50%、レポート提出 40%、個人の授業態度・グループの評価（積極性、協調性、責任感）10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	・「改訂給食のための基礎からの献立作成大量調理の基本から評価まで」上地加容子・片山直美編著 株式会社建帛社 2021年
参考書	・「八訂準拠ビジュアル 食品成分表」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2021年 ・「調理のためのベーシックデータ 第5版」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2018年
履修上の注意	1. グループで作業を行うことから協力が必須となる。グループが一丸となって実習に臨むこと。 2. 事前に細菌検査を実施する。食中毒菌陰性の証明のない学生は実習室への入室を禁止となるためきちんと期限を守って検体を提出すること。 3. 大量調理を行う際には体調管理が重要となる。自分自身の体調管理を十分すること。 実習当日に体調不良の場合は、必ず申し出てください。 4. 給食の運営・管理についての定期試験を行います。余裕をもって準備をしてください。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：選択
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N27C30	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	給食の運営（経営管理、栄養管理、衛生管理、大量調理、評価方法）全般の流れに沿って、計画書や帳票類、評価票を作成する。献立計画から調理までの給食サービス提供を適切に運営することによって、衛生的で栄養的な食事を喫食者の嗜好性を考慮しながら、経済的に提供するための方法を学ぶ。衛生管理では、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた具体的な内容を学ぶ。 （授業目標） 大量調理施設の衛生管理について熟知し、安全な給食を提供するための方法と心構えを理解する。給食関連業務で必要な書類の作成方法を演習し、栄養士業務を理解する。 ○C：大量調理の特性を理解し、安全な給食を提供するための方法を説明することができる。 ◎D：給食運営における献立計画の流れを理解し、使用する帳票とあわせて説明することができる。		
授業計画	1	大量調理の衛生管理（演習：学内給食実習室見取り図の作成） 学内給食実習室内の作業区域について見取り図を作成しながら学ぶ。 大量調理における具体的な衛生管理を学ぶ。	
	2	予定献立表の作成条件(演習：作業工程表の作成) 給食施設内における大量調理業務の流れを知る。	
	3	大量調理の基本知識（演習：発注と調味パーセントの計算） 発注計画の流れを知る。 調味パーセントの計算を学ぶ。 家庭などにおける少量の調理と異なる各種調理に関する知識を学ぶ。	
	4	給食の基本計画（演習：荷重平均栄養成分表の作成） 食品構成表の作成手順を学び、荷重平均栄養成分表を作成をする。 予定献立表の作成方法を知る。	
	5	大量調理に使用する調理機器と器具類について（実習：調理、試食） 大量調理に使用する調理機器と器具類の特徴を学ぶ。 調理工程に沿った調理機器の活用方法を知る。	
	6	給食の施設別実践について①病院 病院給食の種類と役割を知る。 病院での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。	
	7	給食の施設別実践について②高齢者介護福祉施設 高齢者介護福祉施設給食の種類と役割を知る。 高齢者介護福祉施設での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。	
	8	給食の施設別実践について③児童福祉施設 児童福祉施設給食給食の種類と役割を知る。 児童福祉施設での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。	
	9	給食の施設別実践について④学校 学校給食の種類と役割を知る。 学校での献立作成要件を確認し、食品構成と献立を知る。	
	10	給食の施設別実践について⑤事業所（実習：調理、試食） 事業所給食の種類と役割を知る。 事業所での献立作成要件を確認し、献立を知る。 事業所給食で利用される食材の扱い方を学ぶ。	
	11	献立の栄養評価①（演習：栄養比率の計算） 栄養バランスの適正を判断するため、栄養比率を用いて評価する方法を学ぶ。 栄養比率はPFC比率、穀類エネルギー比、動物性たんぱく質比等を計算する。	
	12	献立の栄養評価②（演習：栄養出納表の作成） 給食の評価に用いる栄養出納表について学び、実際に作成をする。	
	13	レシピの作成（演習：作業指示書の作成） 予定献立表に基づいた作業指示書を知り、実際に作成をする。	
	14	給食運営における栄養士の役割について（グループワーク） 授業で学んだ献立計画から提供までの流れを総合し、給食提供の場で必要となる技術や知識についてグループ討議を行う。	
	15	栄養教育（プレゼンテーション） 給食業務における栄養教育の役割、またその種類について学ぶ。 予定献立表を栄養教育教材とし、グループ討議で選ばれたグループの代表者がプレゼンテーションを行う。	
学習成果・到達目標・基準	○C：大量調理の基礎的な衛生管理について知り、施設・設備に配慮した作業の方法を説明することができる。 ◎D：給食運営における献立計画作成の手順と使用する帳票を関連付けることができる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、これまでに修得した専門基礎分		

	野の復習とあわせてまとめておくこと。(15分程度) 事後学習：レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめを作成しファイルに綴じておくこと。特に、事後学習が大切である。(30分程度)
指導方法	内容を説明した後、実際に献立を作成したり、帳票を作成したりする。内容に応じて、グループワークを行い、プロジェクター、配布資料等を利用して重要な点を示しながら説明をする。内容により、給食経営管理実習室、実習食堂で作業もおこなう。 フィードバックの仕方：①課題提出、②評価し採点后返却、③授業後に課題内容についての質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：レポート課題、グループワークの貢献度を評価する。 D：小テストを評価する。 レポート課題50%、小テスト30%、グループワークの貢献度（授業への貢献度、積極性を含む）20% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する
テキスト	・「改訂給食のための基礎からの献立作成大量調理の基本から評価まで」上地加容子・片山直美編著 株式会社建帛社 2021年
参考書	・「八訂準拠ビジュアル 食品成分表」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2021年 ・「調理のためのベーシックデータ 第5版」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2018年 その他は授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	全ての書類は流れがあり、関連性があります。欠席をすると内容や帳票類の書き方がわからなくなり、それ以降の書類作成や実習の進行に影響します。体調管理をしっかりとして下さい。 栄養士として欠かせない技術を身に付けます。事前・事後学習も力を入れ、積極的に授業で発言してください。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	食専：栄必修
担当教員			
狩野恭子			
ナンバリング：N17C29	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	特定給食施設（特定多数の人に対し、断続的に食事を提供する施設）では、対象の目的に応じた栄養管理が必要になる。本科目では、給食の意義、目的、特性を学び、給食における栄養士の役割を理解し、給食を運営する上で必要な各管理の目的、方法、評価などについて講義する。 栄養士としての実践の場に役立つよう、栄養面、安全面、経済面全般を配慮した給食のあり方について学ぶ。 （授業目標） 2年次給食管理実習（学内・学外）に向け、給食の運営を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの知識を身に付ける。 ◎D：給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、根拠法令を把握し、概要と実際について理解している。		
授業計画	1	給食の概念・給食の目的 給食の意義と役割、特定給食施設の概要を知る。 料理を失敗せず、おいしく仕上げるデータを知る。	
	2	給食における栄養・食事管理の概要 日本人の食事摂取基準を知り、指標の種類を理解する。 対象者の把握をし、給与栄養目標量の設定方法を知る。 献立作成基準を知る。	
	3	献立計画 各種給食における献立を知り、おいしく仕上げるためのデータを理解する。 食品群の分類を知り、食品構成表や食品群別荷重平均成分表を理解する。 自らの食事を知り、正しい食生活について考える。	
	4	給食における安全・衛生管理① 特定給食施設における関連法規を理解する。	
	5	給食における安全・衛生管理②（ICT:Classroom） HACCPシステム、事故・災害時対策を理解する。	
	6	食材料管理（ICT:Classroom） 給食における購入計画、方法、評価を理解する。	
	7	品質管理（ICT:Classroom） 大量調理の特徴と品質を理解する。 新調理システムを知る。	
	8	調理作業管理（ICT:Classroom） 大量調理と少量調理の違いを確認し、作業の標準化を理解する。	
	9	施設・設備管理 施設・設備の特性、計画、日常の保守管理を知る。	
	10	給食の組織・原価管理（ICT:Classroom） 組織の原則を知り、給食組織と関連分野との連携を理解する。 給食原価の構成、計画的な原価管理を理解する。	
	11	給食経営の実際①（グループワーク） 給食の業務委託について知る。 学校給食の特徴を理解する。 給食の現状についてグループ討議を行い、代表者が発表する。	
	12	給食経営の実際②（ICT:Classroom） 病院給食の特徴を理解する。	
	13	給食経営の実際③ 社会福祉施設給食を理解する。	
	14	給食経営の実際④ 事業所給食を理解する。	
	15	特定給食施設における栄養士の役割（グループワーク、プレゼンテーション） 給食管理におけるこれからの課題、給食サービスの提供についてグループ討議を行い、代表者が発表する。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、根拠法令を把握し、栄養士が働いている現場について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容のポイントをまとめ、事前にプリントを配布する。受講前に配布したプリントの内容については、Classroomを確認して事前学習を進めること。（60分程度） 事後学習：重要単語や重要事項をまとめること。配布プリントの見直しをすること。（120分程度）		
指導方法	・教科書を中心とした講義形式で行う。授業ポイントをまとめたプリントを配布したり、パワーポイントを使用して解説する。		

	・項目ごとに栄養士実力認定試験の過去問題に沿って小テストを行う。理解度を確認しながら授業を進めていく。 ・事前学習用の授業資料は、Classroomで配信する。 フィードバックの仕方：小テスト①小テスト実施、②小テスト採点、③授業後による採点についての質疑応答。 提出物①課題の提示、②評価のうえ返却、③授業後による採点についての質疑応答。 プレゼンテーションの評価①ワークシートを使用して学生間で評価する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、小テスト、提出物、プレゼンテーションを評価する。 定期試験70%、小テスト20%、提出物・プレゼンテーション 10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	・「Nブックス 改訂給食の運営－栄養管理・経営管理－」 逸見幾代，平林真弓編著 建帛社 2020年 ・「調理のためのベーシックデータ 第5版」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2018年
参考書	・「八訂準拠ビジュアル 食品成分表」 新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2021年 ・その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	項目ごとに「栄養士実力認定試験」を意識した小テストを行います。テストを行う授業日は前もって連絡をします。何らかの事情で欠席する場合は事前に連絡してください。配布プリント、授業中に行う小テストの内容は定期試験の範囲に含まれます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：栄選択必修
担当教員			
狩野恭子			
ナンバリング：N27C34	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	15回の授業を3分割し、ブロックごとに授業方法・内容を変え、実践的・具体的に理解を深める。初回はガイダンス、2～6回は全体会で、各特定給食施設の特徴やそこで求められる栄養士の役割などを学ぶ。7～11回は5つの履修モデルに分かれた授業で、各分野で活躍する方を招いての講演や、それぞれの分野で必要な知識や技術を演習や実習などで学ぶ。12～15回は給食管理実習（学外）につなげる授業を分野別に行う。 （授業目標） 栄養や食品についての専門知識を活かせる職場は、病院・福祉施設・事業所・学校・保育園・外食産業・フードビジネスなど多岐にわたり、その仕事内容も業種により異なる特徴がみられる。この科目では身につけた専門知識や技術を社会に還元する方策を見出すために、栄養士業務や食品業界などについて、多角的、実践的、具体的に学び、自己の将来像へとつなげる。 ◎D：履修モデルに即した基礎知識を学び、主体的に演習や課題に取り組むことで技術の向上を図り、実践に移すことができる。 ○E：それぞれの履修モデルや特定給食施設の特徴を学ぶことで、自己の将来像や果たすべき役割・目的などを見極め、社会に向けて発信、表現することができる。		
授業計画	1	ガイダンス（西山・井部・高橋・未定・未定）：全体会 本授業の目的、授業方法、授業を受ける際のルールなどを学ぶ。授業担当者全員より、それぞれの担当する分野や授業内容などについて説明を受ける。	
	2	特定給食施設の種類と特徴①：全体会 特定給食施設（事業所）の種類と特徴について学ぶ。（担当：高橋）	
	3	特定給食施設の種類と特徴②：全体会 特定給食施設（病院）の種類と特徴について学ぶ。（担当：井部）	
	4	特定給食施設の種類と特徴③：全体会 特定給食施設（保育園）の種類と特徴について学ぶ。（担当：西山）	
	5	特定給食施設の種類と特徴④：全体会 特定給食施設（高齢者福祉施設）の種類と特徴について学ぶ。（担当：未定）	
	6	特定給食施設の種類と特徴⑤：全体会 特定給食施設（学校）の種類と特徴について学ぶ。（担当：未定）	
	7	履修モデル別講座①：分科会（モデル別：病院・福祉）（ICT:Classroom） 病院に勤務する管理栄養士の仕事内容について学ぶ。病態別の食事について理解を深め、NSTでの管理栄養士の役割について学ぶ。	
	8	履修モデル別講座②：分科会（モデル別：病院・福祉）（ICT:Classroom） 高齢者施設給食の管理栄養士の仕事内容について学ぶ。高齢者施設給食の実際、高齢者の身体的特性などについて理解を深める。	
	9	履修モデル別講座③：分科会（モデル別：病院・福祉）（ICT:Classroom） 委託給食会社に勤務し、病院に配属された栄養士の事例を紹介し、委託給食会社栄養士の仕事内容について理解を深める。また病院の職員としての栄養士との仕事内容の違いについて学ぶ。	
	10	履修モデル別講座④：分科会（モデル別）（グループワーク）（ICT:Classroom） 食形態について学ぶ。咀嚼や嚥下が困難な人のための食事について理解を深める。とろみ剤を用いて嚥下の状況に合わせた飲み物の調整を行う。	
	11	履修モデル別講座⑤：分科会（モデル別）（グループワーク）（ICT:Classroom） 病院事例、高齢者福祉施設の事例より症例検討を行い、各事例に適した栄養面のアプローチ法についてディスカッションを行う。	
	12	学外実習分野別講座①：分科会（実習分野別）（グループワーク）（ICT:Classroom） 全体講義で学外実習ノート、関連プリントを配布。学外実習中の注意事項に関して説明（健康管理、連絡方法、身だしなみなど。（担当：各実習分野担当教員） 分野別に分かれたのち 1. 研究テーマ立案 2. 用具貸出 3. その他：食事の特性などの説明	
	13	学外実習分野別講座②：分科会（実習分野別）（グループワーク）（ICT:Classroom） 分野別に集合し、1. 前回立案した研究テーマのブラッシュアップ 2. 身だしなみチェック 3. 高齢者栄養に関してミニレクチャーを行う。（担当：各実習分野担当教員）	
	14	学外実習分野別講座③：分科会（実習分野別）（グループワーク）（ICT:Classroom） 全体講義で 1. 細菌検査に関する説明 2. 実習日程説明 3. 報告会関連の説明を受ける。 分科会に分かれたのち、1. 実習先オリエンテーションの説明 2. グループごとのリーダー決定 3. 報告会用データ提出を行う。（担当：各実習分野担当教員）	
	15	学外実習分野別講座④：分科会（実習分野別）（グループワーク・プレゼンテーション）（ICT:Classroom） 分野別に集合し、 1. オリエンテーションの確認 2. 研究テーマ完成 3. 用具貸出 4. その他必要事項の説明を行う。（担当：各実習分野担当教員）	
学習成果・到達目標・基準	◎D：それぞれに必要な基礎知識を学び、課題をまとめることができる。 ○E：それぞれの業種や分野において果たすべき業務を遂行でき、社会に貢献できる。		

事前・事後学習	事前学習：事前に配布されたプリント、資料等を熟読し、専門基礎分野の予習を十分に行っておくこと。また日頃から栄養や食品に関わる情報についての興味、関心を持ち、積極的に調べたり記録しておくこと。（15分） 事後学習：各自、レポート課題の作成を行うことで理解を深め、それぞれの業種や特定給食施設等の特徴をまとめること。（30分）
指導方法	・全体会（6回）：分野別担当教員により、特定給食施設の特徴、栄養士の役割、基礎知識を学ぶ。 ・分科会（履修モデル別、5回）：外部からの特別講師を招いたり、実際の社会現場に即した知識・技術を学べるよう演習や実習を中心に実施する。 ・分科会（実習分野別、4回）：給食管理実習（学外）に向けて、演習や課題を中心に学び、研究テーマ指導を行う。 ・パソコン、クリッカーやプロジェクターなどを利用した演習や、栄養教材・栄養指導媒体などを活用することにより、実践的かつ円滑な指導を行う。 フィードバックの仕方：①演習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後の質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：全体のレポート課題、履修モデル別・実習分野別での課題、提出物で評価する。 E：履修モデル別・実習分野別の課題、提出物で評価する。 配点は 研究課題 40% 提出物 40% 授業貢献度 10% 授業態度 10%の比率で行い、成績はルーブリックの基準に基づいて評価を行う
テキスト	「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」 学建書院 「給食管理実習の手引き」「臨地実習ノート」（適宜、プリント資料配布）
参考書	「新ビジュアル食品成分表[八訂版]」大修館書店 「栄養士必携」「糖尿病食事療法のための食品交換表」「日本人の食事摂取基準（2020年版）」「日本人の食事摂取基準(2020年版)の実践・運用」
履修上の注意	この授業は、学外から特別講師を招いて講義を行うため、社会人としてそぐわない行動は避け、主体的で積極的な授業態度が必要である。また、給食管理実習（学外）につなげる授業でもあるため、遅刻や無断欠席は厳禁とし、授業中の不必要な退室、私語、携帯電話操作、居眠りなどは厳しく対処するので注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
川嶋比野（契約講師：齋藤訓之）			
ナンバリング：N17C39	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食品は、必要ととき、必要な場所に、必要な物を、必要な量と状態でそろえ、適切な価格で提供されることで、初めてそのおいしさなり栄養なり喜びなりを生活者に手渡すことができる。食の専門家（フードスペシャリスト）、とくに食品メーカー、事業所給食を含む外食産業、小売業等で商品開発や購買の仕事に携わる人には、これを実現するためのトータルな知識・情報・手腕が求められる。本講座では、その実務に就く以前に学ぶことができる知識と考え方を身につける。 (授業目標) ○C：現代の食品産業にどのような課題があるかを自分で見付け、改善案、解決策を独自に考えることができる。 ◎D：現代の食品の需要と供給の全体像を、生活者としてではなく供給者としての立場に立って理解し、食ビジネスの専門家として説明できる。		
授業計画	1	食産業の歩みと将来像（ICT：Classroom） 授業で扱う事柄の全体像を理解し、学修の方法とゴールを確認する。	
	2	食市場の変化（１）社会と食産業（ICT：Classroom） 食品産業の発達プロセスと今日の活動、食の外部化の進展を中心に現代の食産業の役割と構成を理解する。	
	3	食市場の変化（２）現代の食生活の特徴（ICT：Classroom） 新しい家族のあり方、少子高齢社会、食情報の多様化、健康志向への対応を中心に現代の生活者の食生活を理解する。	
	4	食品の流通（１）卸売（ICT：Classroom） 流通業のうち、卸売業（卸売市場、問屋、商社等）の役割と活動を理解する。	
	5	食品の流通（２）小売（ICT：Classroom） 食品小売業の業種・業態を押さえ、それらの役割と活動を理解する。	
	6	外食・中食産業（ICT：Classroom） 外食産業の業種・業態を押さえ、それらの役割と活動を理解する。	
	7	食品の分類と流通の特性（ICT：Classroom） 食品の各種の分類を理解する。また各種の物流の仕組みを理解する。	
	8	主要食品の流通（１）穀類・野菜（ICT：Classroom） 食品の流通について、主に穀物と野菜等の農産物の現状と課題を理解する。	
	9	主要食品の流通（２）水産・畜産（ICT：Classroom） 食品の流通について、主に畜産・酪農ならびに水産の現状と課題を理解する。	
	10	主要食品の流通（３）飲料・菓子・その他（ICT：Classroom） 食品の流通について、主に調味料・飲料・菓子等の現状と課題を理解する。	
	11	マーケティング（１）古典的考え方（ICT：Classroom） 食品で行われるマーケティングについて、古典的考え方から基礎理論までを理解する。	
	12	マーケティング（２）比較的新しい考え方（ICT：Classroom） 食品で行われるマーケティングについて、今日行われている新しい方法を理解する。	
	13	消費・流通の課題（１）量の安定と安全（ICT：Classroom） 食品産業に求められる安全確保、環境への対応、その他の社会的責任を理解する。	
	14	消費・流通の課題（２）環境・SDGs（ICT：Classroom） 食品の生産、製造、物流、そして消費の現場に発生している諸問題を概観し、解決の道筋を考える。	
	15	ブランド創り・ブランド管理（ICT：Classroom） 食関連企業でのブランド管理の考え方を軸におきながら、学んだことを振り返り、理解を深める。	
学習成果・到達目標・基準	○C：現代の食品産業が解決すべき課題を複数指摘することができる。 ◎D：教科書が扱う生産・流通・消費に関する主要な用語を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：教科書の次回講義予定範囲を読み、次回講義分の講義資料も使いながら、内容を整理しておく。また、毎回、次回講義の予習のための話題、材料をClassroomで提供するので、それを手がかりに自習を行うこと。（70分程度）。 事後学習：教科書で扱う主要な用語とくに索引にリストアップされている用語とその意味を単語帳やノートを作るなどして覚える。Classroomで出題する課題（ドリル、ポイントを整理するためのフォーム等）に遅滞なく取り組む（90分程度）。 授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄はメモする（日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う）。		

指導方法	Google Classroomで講義動画、その他資料動画、講義資料ファイル、その他資料ファイルを共有する。講義動画、資料ファイルでは、教科書の記述と併せて学修を進められるように、教科書該当箇所を適宜指定する。また、理解を深めるための考察、観察、調査を適宜提示する。 講義回ごとに、講義内容の理解を確認するためのドリルをGoogle Classroomで展開する。また、学生が学修内容を整理し、考察内容を書き出すための課題フォームも展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	以下の各項によって評価を行う。アルファベットはディプロマポリシーの該当項目を指す。（ ）内のパーセンテージは配点を示す。 【授業ごとのClassroom活用と小課題】 C：授業ごとにその授業で学んだポイントを列挙し、自分にとっての重要点と所感を記述し、Classroomを使って提出する。授業ごとのClassroom活用実績（資料閲覧歴等）がある（30%）。 D：用語の理解のためのドリル課題の取り組み実績（60%）。 【レポート課題】 CD：重要語句確認のための振り返りドリル課題の取り組み実績／講義期間終盤に一度実施する（10%）
テキスト	日本フードスペシャリスト協会2000年『四訂 食品の消費と流通』建帛社
参考書	
履修上の注意	学生は講師が用意する動画、資料等を指定期間内に視聴、閲覧、利用し、定期的な質疑応答時間までに質問を準備して積極的に質問し、自身の理解を深めるように努めること。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：選択
担当教員			
川嶋比野（契約講師：齋藤訓之）			
ナンバリング：N28C45	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	各種の食品、飲料、菓子、外食産業（レストラン、ホテル、カフェ、そうざいを含む）の商品など、ビジネスとして扱われる食について、商品開発の基本的なプロセス、市場の捉え方、ターゲティング、各種の情報の集め方と発想法を学ぶ。 これまでにあった事例を紹介した上で、現在から将来にはどのような商品開発が可能か、また、求められるかを各自が考察することを促す。また、その全体のなかで、食品についての、栄養、衛生、調理、検査等、科学的・技術的な知識と技能が、ビジネスの現場ではどのように活かされているか、また活かす得るのかを理解し、総合的な思考力・判断力を伸ばすことを狙う。 （授業目標） ◎D：広く知られている商品、社会に大きな影響を与えた商品について、どのような経緯から開発され、市場に投入され、社会に受け入れられたのかを理解し、それらの技術的背景や社会的意義も併せて説明できる。 ◎C：先人たちが行った活動への理解と、自らが身に付けている食に関する知識と技能を有機的に組み合わせ、独創的な商品の開発や提案ができる。		
授業計画	1	びん詰、缶詰、レトルトが変えた食ビジネスと食生活（ICT：Classroom） 熱殺菌と密閉・密封という考え方は共通。そしてそれは保存方法だけでなく、新しい調理方式でもあった。	
	2	海を越えながら変わり続けたチョコレート（ICT：Classroom） ネスレ（ヨーロッパ）、ハーシー（アメリカ）、そして日本の老舗メーカーと新興メーカー、それぞれが取り組んだこと。	
	3	冷蔵、冷凍によって開けた新しい食提供（ICT：Classroom） 冷蔵・冷凍機器、瞬間凍結の発明によって登場した新しい食品。革新が続く冷凍食品。	
	4	アイスクリーム類と氷菓（ICT：Classroom） 氷菓やアイスクリーム類の誕生と普及。価値観を変えた、今も人気の二大商品。	
	5	水と酒（ICT：Classroom） 自然災害と圧政に抗ったワイン、ブランデー、ウイスキー。欧米、そして日本の多様な水とその商品化。そして他の食・飲料への影響。	
	6	茶ビジネス、コーヒービジネス（ICT：Classroom） 世界と日本の、茶・コーヒー類の扱われ方、楽しまれ方の違い。コーヒービジネスの魅力。	
	7	ソフトドリンクビジネスの発祥と攻防（ICT：Classroom） コカ・コーラのビッグビジネス化の過程。日本国内の飲料産業の誕生とコカ・コーラ上陸後の変容。	
	8	スナック菓子ヒットと信頼確保の取り組み（ICT：Classroom） スナック菓子が作られたきっかけ、売れ始めた理由、売れ続けるための秘密。	
	9	外食の商品開発1（ICT：Classroom） エスコフィエが始めたレストランビジネスの科学的管理。ヌーベルキュイジーヌが示した小規模店経営の要諦。	
	10	外食の商品開発2（ICT：Classroom） マクドナルドによる外食の工業化。KFCのライセンス戦略。日本のファミリーレストランのヒット商品。	
	11	マーチャндаイジングと5right（ICT：Classroom） 売れる商品を的確に品揃えするマーチャндаイジングの考え方とその実際。	
	12	クリエイティビティと標準化（ICT：Classroom） 食産業に必要な独創的な開発力と、一定のものを生産し続ける標準化という、相異なるものを統合する考え方。	
	13	ICTとロボティクスの向こうにある食（ICT：Classroom） ICTとロボティクスの発達によって、ライフスタイル、店舗、商品がどう変わるか。何が求められるか。	
	14	メディア戦略の今昔（ICT：Classroom） クチコミ、紙メディア、音声・映像メディアの時代を経て、現代・将来のメディアと食ビジネスの変化。	
	15	ブランドの創造、評価、管理（ICT：Classroom） 食ビジネスのブランド戦略の実際と考え方。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：授業で扱う身近なヒット商品について、開発経緯や、その商品の優れた点などの特徴を説明できる。 ◎C：食について消費者としてではなくビジネスパーソンとしての視点を持ち、新商品や話題の商品について商業上の長所・短所等を的確に理解し、論評できる。		

事前・事後学習	事前学習：教科書の次回講義予定範囲を読み、次回講義分の講義資料も使いながら、内容を整理しておく。また、毎回、次回講義の予習のための話題、材料をClassroomで提供するので、それを手がかりに自習を行うこと。（70分程度）。 事後学習：教科書で扱う主要な用語とくに索引にリストアップされている用語とその意味を単語帳やノートを作るなどして覚える。Classroomで出題する課題（ドリル、ポイントを整理するためのフォーム等）に遅滞なく取り組む（90分程度）。 授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄はメモする（日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う）。
指導方法	Google Classroomで講義動画、その他資料動画、講義資料ファイル、その他資料ファイルを共有する。講義動画、資料ファイルでは、教科書の記述と併せて学修を進められるように、教科書該当箇所を適宜指定する。また、理解を深めるための考察、観察、調査を適宜提示する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	以下の各項によって評価を行う。アルファベットはディプロマポリシーの該当項目を指す。（ ）内のパーセンテージは配点を示す。 【授業ごとのClassroom活用と小課題】 C：授業ごとにその授業で学んだポイントを列挙し、自分にとっての重要点と所感を記述し、Classroomを使って提出する。授業ごとのClassroom活用実績（資料閲覧履歴等）がある（30%）。 D：用語の理解のためのドリル課題の取り組み実績（60%）。 【レポート課題】 CD：重要なポイントを確認するための振り返りドリル課題の取り組み実績／講義期間終盤に一度実施する（10%）
テキスト	本授業専用資料をClassroomで提示・配布する。
参考書	
履修上の注意	学生は講師が用意する動画、資料等を指定期間内に視聴、閲覧、利用し、定期的な質疑応答時間までに質問を準備して積極的に質問し、自身の理解を深めるように努めること。
アクティブ・ラーニング	

講義科目名称： 調理学実験

授業コード： 3401 3402 3403 3404

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：栄必修
担当教員			
大野治美			
ナンバリング：N17C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食材が調理によって変化する現象を理解する。実験を通して調理に伴う現象を的確につかみ、それを意識化・数量化し、調理のコツや再現性を確認する。また、調理学実習との関連性を考えつつ、実践に役立つ理論、考察力を養うことができる。実験や調理の基礎的な技術が修得出来る様な授業内容である。 (授業目標) 調理を行う際に必要となる調理操作、調理工程、衛生面や安全性を遵守することも栄養士にとって大切な技術である。毎回の実験を通して確認する。 ◎B：実験を通して、協調性・コミュニケーション力を養うことができる。 ○D：実験で学んだ知識を、その他の調理へ応用展開できる。 E：実験で得られた結果を分析し、調理の理論とコツを論理的にプレゼンテーションできる。		
授業計画	1	オリエンテーション ①調理の意義・目的、実験の心得、レポートの書き方など ②食品の目安量の把握、目ばかり・手ばかり	
	2, 3	五感を鍛える実験、電子レンジの実験 ①味覚の識別体験、官能評価について ②電子レンジの特徴・電子レンジの調理	
	4, 5	小麦粉の実験 クッキーの性状に及ぼす材料配合の影響	
	6, 7	砂糖の実験 砂糖溶液の加熱変化と性状、砂糖衣、フォンダン	
	8, 9	野菜の実験 生野菜の吸水と放水、野菜の色とpH	
	10, 11	果物の実験 ゲル化剤の調理特性、たんぱく質分解酵素による影響	
	12, 13	肉の実験 ハンバーグステーキに加える副材料の影響	
	14, 15	卵の実験 ①卵の熱凝固性、希釈卵液のゲル化とテクスチャー ②卵黄の乳化性とマヨネーズの調製	
学習成果・到達目標・基準	◎B：班員と協力しながら、実験を的確に実行できる。 ○D：調理の様々な現象を科学的に捉え、原理・原則が理解できる。 E：調理のコツを理解し、自らの表現で、相手に分かりやすいプレゼンテーションができる。		
事前・事後学習	事前学習：あらかじめ授業計画を確認し、調理学や食品学等の教科書に目を通しておくこと。また、実験手順を確認しておくこと(30分)。 事後学習：実験レポート作成において、図書館などで資料を調べた上で、参考文献を明記すること(60分)。 インターネットなどの引用は認めない。		
指導方法	・基本的な調理方法や実験器具の取り扱い方、濃度の求め方など、その都度確認しながら授業を進める。 ・Classroomに予習動画を配信する場合がある。事前に予習し、実験手順を確認しておくこと。 ・授業の目的に沿ってグループごとに実験・実習を行う。 ・実験結果に基づいて、各自考察を加えた実験レポートを提出し、理解度を確認する。 ・授業内で行う確認テストによりクラス全体の理解度を確認しながら指導をする。 フィードバックの仕方：①レポート提出②レポート評価およびコメント③授業内および授業外での質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：受講態度やグループ内での授業貢献度を評価する。 D：レポートや小テスト、発表内容から理解度を評価する。 E：グループワーク・発表での発言等、積極性を評価する。 *授業への貢献度・積極性 20%、実験レポート60%、確認テスト20%をルーブリックに沿って総合的に評価する		
テキスト	NEW 調理と理論 第二版 ISBN978-4-8103-1507-3 同文書院		
参考書	食品成分表、調理のためのベーシックデータ、『調理学』全般		

履修上の注意	・計算作業を行うので、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 ・授業中は、携帯電話の使用は禁止する。ただし、実験結果の写真を撮りたい場合は、教員に申し出ること。必要に応じて、携帯の使用を認める。 ・コロナ感染予防のマニュアルを遵守し、実験・試食をすること。原則マスクを着用し、手指消毒などの衛生管理を徹底する。 ・実験・実習中は指定された身なりを整え、爪は短く切り、マニキュアはしない。 ・ピアス、ネックレス、指輪、つけまつげ等はすべて外すこと。 ・包丁などの刃物や火の取り扱いには十分に気をつけ、担当者の指示に従い安全に留意すること。 ・包丁が必要な回には包丁を持参する。 ・食物アレルギーの有無については、授業前の調査に基づき対応する。アレルギーの程度によって調理担当変更、見学、試食を避けるなど、各自で判断する。欠席などの対応については、事前に教員に申し出ること。
アクティブ・ラーニング	実験、グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
ナンバリング：N28C52	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	学校や社会で学んだ知識や技術を活かして、社会で自立して生きる具体的な方法の一つである「飲食店経営の開店計画」をテーマに、個性を活かした集客力ある飲食店の空間デザインのコツを学びます。食空間をミクロ（お皿の上）からマクロ（店舗全体の空間）まで引き伸ばし、共通した強いコンセプトを持ってデザインすることを学びます。 フードコーディネーター資格取得の学修にも対応した内容の授業です。 （授業目標） 飲食店開店に向けた具体的な企画能力を、模型作成を通じ総合的に身につける。 ○C：授業を通して学んだ食の世界の知識や技術を、自らの言葉に置きかえてまとめることが出来る。また飲食店経営の実現に際し、飲食店のアドバイザーとして活躍するときに役立つ、繁盛する食空間づくりの基本的なセオリーを文章で伝えることが出来る。 ◎E：自分のアイデアを概要図面や模型という具体的な視覚的表現で構成して提案・検討出来る能力を身につける。		
授業計画	1	自宅兼用飲食店・マイショップ経営の魅力 自立する生き方を実現できるマイショップの魅力について マイショップで成功した人々から学ぶ開業のコツ あなたの好きなこと、興味あることから発想する	
	2	成功する個性的な飲食店づくり（実習） イメージボードの作成 経営テーマの決定 テーマを具体化させる店舗コンセプトづくり イメージの収集	
	3	空間計画のコツ①（実習） 空間構成配置を考える	
	4	空間計画のコツ②（実習） 顧客導線と働き手の動線計画	
	5	立体で考える①（実習） 図面をトレースして床を作る	
	6	立体で考える②（実習） 壁面デザインを作る 窓を作る	
	7	立体で考える③（実習） 家具のデザイン 家具を作る	
	8	立体で考える④（実習） 機器類のデザイン 機器類を作る	
	9	立体で考える⑤（実習） 色彩計画 インテリアデコレーション計画の作成 全体の色彩を考える	
	10	立体で考える⑥（実習） 色彩計画 空間着彩	
	11	立体で考える⑦（実習） 色彩計画 家具・機器着彩	
	12	立体で考える⑧（実習） 外部と看板デザイン 店名を考え看板を作る	
	13	模型組立（実習） 壁や家具などを仕上げ、配置し、組み立てる	
	14	装飾物のデザイン（実習） 模型の仕上げ... 壁面に装飾物を取り付ける 模型の手直し、ブラッシュアップ	
	15	発表、講評（プレゼンテーション） 最終授業日に課題成果物の最終調整と、発表・授業内展示および講評を行い、個性表現の無限の魅力と効果を確認します。	
学習成果・到達目標・基準	○C：授業から学んだことを自分のコンセプトとしてまとめ、正確に伝えることが出来る。 ◎E：自分のアイデアを実現するために何を、どのように、どんな空間で提供していくのか、発想から開店までを、具体的に食空間模型づくりを通して表現することが出来る。		

事前・事後学習	事前学習：授業計画や自分の学習進度を確認しながら授業内容に即した情報を、図書やインターネット等でチェックする(45分)。 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめておく(45分)。
指導方法	毎回の対面授業をzoomでライブ中継するので、オンライン授業の回はそちらで受ける事。 授業では、サンプル模型や映画や写真などの視覚教材を多用して、発想力を高めます。 各自の個性表現を大切に、一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力と具現化力を培う指導を行います。 フィードバックの仕方：①毎回授業の終わりで質疑応答の時間を設ける。②最終作品を各自に講評する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	学んだ知識や技術を活かして、実際に計画できることを目標にしていますので、試験は行いません。 C：受講態度を評価する。(20%) C：授業内容についてのレポートを評価する。(10%) E：最終提出物の模型、プレゼンテーションを評価する。(70%)
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	個人のセンスや技能を活かしたマイショップ経営の計画を体験しながら、自由に生きる力を身につけていきます。 既成概念にとらわれずに頭を柔らかくして、授業を楽しみながら自分の隠れた才能やセンスを発見して自立の自信をつけましょう。 資格取得へのチャレンジを積極的に応援します。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
ナンバリング：N28C54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人を喜ばせる“おもてなし”。「飲食」のおもてなしを楽しく演出・構成するツールとして見直し、多角的にデザインします。 オリジナルの「パーティー」を作り上げることをテーマとし、創作料理と盛り付けデザイン、テーブルコーディネートとテーブル周りの演出、オリジナルのお菓子やデザート調理、招待状作成等、優れた参考事例を元に、総合エンターテインメント体験としてのフードデザインを身につけていきます。 フードコーディネーター資格取得のための学修にも対応した内容の授業です。 (授業目標) 人が集い、飲食を楽しむ「おもてなしのデザイン」について、その発想のコツと具体的で楽しい企画書のまとめ方を身につける。 ○C：自らテーマを発想してコンセプトをまとめ、それを具現化するための計画を考えることができる。 ◎E：自分の考えを解り易く視覚的に表現する、訴求効果の高いビジュアルプレゼンテーション出来る能力を身につける。		
授業計画	1	楽しく美しいフードエンターテインメントの世界 パーティーの実例から学ぶ「おもてなし」の表現。 テーマと表現。	
	2	パーティー計画①（課題解決型学習） イメージボード作りで計画立案。 イメージおよび資料の収集。	
	3	パーティー計画②（課題解決型学習） イメージボード、コンセプト作り。 空間からの具体的なイメージ発想を文字で書く。	
	4	パーティー計画③（課題解決型学習） 招待状づくり。	
	5	パーティー計画④（課題解決型学習） メニューづくり。	
	6	パーティー計画⑤（課題解決型学習） 具体的な料理のデザイン。	
	7	パーティー計画⑥（課題解決型学習） 料理の盛り付けデザイン。	
	8	パーティー計画⑦（課題解決型学習） デザート現物づくり。 現物の撮影。	
	9	パーティー計画⑧（課題解決型学習） テーブルコーディネーション計画：アイデア。	
	10	パーティー計画⑨（課題解決型学習） テーブルコーディネーション計画：配置。	
	11	パーティー計画⑩（課題解決型学習） テーブルコーディネーション計画：描画。	
	12	パーティー計画⑪（課題解決型学習） 会場デザイン描画。	
	13	ビジュアルプレゼンテーションシートづくり①（課題解決型学習） ビジュアルシートのレイアウト。	
	14	ビジュアルプレゼンテーションシートづくり②（課題解決型学習） プレゼンテーションの文章づくり。	
	15	発表、講評（課題解決型学習、プレゼンテーション） ビジュアルプレゼンテーションシートの最終調整と発表および講評。	
学習成果・到達目標・基準	○C：自分のコンセプトをまとめ、正確に伝えることができる。 ◎E：就職活動や社会で働き出してから役に立つ、企画書表現としてのビジュアルプレゼンテーションをまとめ、発表することが出来る。		
事前・事後学習	事前学習：他の授業で使用しているフードコーディネーター資格取得対応教科書の中から、この授業に役立つ項目を熟読しておくこと。また、事前に図書やインターネットで資料を良く見ておくこと。（90分） 事後学習：授業で説明した内容、事例を良く反復学習してください。（90分）		
指導方法	Classroomを用いて行うオンデマンド授業です。 授業では、映画や写真や現物による視覚教材を多用して、センスと発想力を高めるための基本的な知識を学ぶ講義と、各自が発想した計画を視覚表現する技術を修得する演習を複合して進めます。 一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力を培う指導を行います。		

	す。 フィードバックの仕方：①Classroomまたはメールにて質疑応答。 ②「パーティーの企画書」の作品について講評を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	学んだ知識や技術を活かして、実際に計画できることを目標にしていますので、試験は行いません。 C：受講態度を評価する。(20%) C：授業内容についてのレポートを評価する。(10%) E：最終提出物のプレゼンテーションを評価する。(70%)
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	資格とセンスを活かして、組織内でプロジェクトリーダーとして仕事を推進出来る、あるいは、独立して仕事をする女性が増えてきました。社会で自立して自由に生きる力を身につけるために、既成概念にとらわれずに、頭を柔らかくして授業を楽しんでください。 積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
ナンバリング：N28C53	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	フードスタイリングをする上で必要なセッティングの基本（洋食・和食）、食文化、国内外の歳時記を学び、実習を通して食空間プロデュース、フードスタイリングを身に付ける。 (授業目標) セッティングの基礎知識、マナー、食文化を理解し食空間プロデュースをする企画力、フードスタイリングの技術を知る B：グループワークでのプレゼンテーションで各々の役割を分担、協力する事でより良い発表ができる。 ◎D：食文化、国内外の歳時記を知り現代の食生活、食のイベントに対して理解を深めることができる。 ○E：自分の考えをまとめ、課題に対して表現する技術を習得し、ビジュアル的にプレゼンテーションできる。フードビジネス（ホテル、レストラン）の商品開発、企画案作成ができる。		
授業計画	1	フードスタイリング概論 フードスタイリングについての概要と必要性について学ぶ。	
	2	食空間プロデュース概論（実習） 食空間プロデュースとはどのような事をするのか、またその効果と必要性について学ぶ。 テーブルセッティングの基本の実習。	
	3	洋の歳時記を学ぶ 洋の歳時記を知り、企画書を作成する。	
	4	季節のイベントテーブルを作成（グループワーク、実習テーブルセッティング、プレゼンテーション） ハロウィン、サンクスギビングなど、季節のテーブルの企画書作成、テーブルを作製、発表 写真撮影、 テーブルセッティングの実習。 学生評価も加味したうえで学園祭出展作品を選定する。	
	5	テーブルウェアについて テーブルウェアとは何か。洋食器の基本知識。 食卓装飾品について学び、その活用法を知る。	
	6	センターピースについて（実習） センターピースの役割とは。 それぞれが生花を使用して、センターピースアレンジメントを作る。 実際のテーブルに置いて写真撮り。 各自作品をテーブルに配置する。	
	7	料理とサービス、プロトコール 料理メニューの書き方、サービスの仕方。 プロトコールの基本を学ぶ。	
	8	日本の食卓の基本 和食の成り立ちと和食の形態を知る。 本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。	
	9	和の歳時記と行事食 五節句の行事食とコーディネート学ぶ。 四季の折々の特徴的料理を調べる。	
	10	正月祝い膳 日本人にとっての正月祝い膳の意味を考える。 全国のお雑煮のレポート、お正月、おせち料理のレポート。	
	11	クリスマスとパーティプロデュース パーティの基本的考え方と企画の立て方。 クリスマス市場のリサーチ（今年のクリスマスケーキの特徴、売れ筋）レポート提出。	
	12	クリスマステーブル作製（グループワーク、実習、プレゼンテーション） クリスマステーブル作製、発表、写真撮影、企画書提出。 パーティープラン発表。 テーブルセッティングの実習。 学生評価も加味したうえでクリスマス展示テーブルの選定をする。	
	13	ティーテーブルとおもてなしの仕方 英国紅茶のセッティングとおもてなし方法を実習体験する。 セッティングされたテーブルの中より各自、スタイリング写真を撮る。 バレンタインデーの意味を知る。	
	14	バレンタインのテーブル作製（グループワーク、実習、プレゼンテーション） バレンタインテーブル作製、発表、写真撮り。 バレンタインの意味を理解したうえで、各自チョコレートフードスタイリングを考える。	
	15	バレンタインの企画書を完成（プレゼンテーション） バレンタイン企画の企画力、（チョコレート販売の企画書）プレゼンテーション能力を問う。	

	各自の発表、最優秀者によるプレゼンテーション発表を行う。 学生評価も加味して最優秀者を選定する。
学習成果・ 到達目標・基準	B：グループワークでの発表により各々が役割、分担を理解して協力、グループでの成果を上げる事ができる。 ◎D：食文化、国内外の歳時記を知ることが出来、現代の食生活を理解できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。また、基本のテーブルセッティングができるようになる。
事前・事後学習	事前学習：実習演習に向けてイメージを形に表す写真などをスクラップしてまとめ、企画書の課題に取り組む（30分）。 事後学習：授業で関心を持った情報をインターネットや雑誌等で調べる。授業内容をまとめる。撮影した授業写真をレジюмеに添付するなど、実践で生かせるように復習する（30分）。指示された課題やレポートに取り組む（30分）。
指導方法	講義と実習 テキスト、レジюмеパワーポイントを使用して講義。 講義で理論を理解した上で実習を行い、知識の定着を行う。 レポートを提出を行い、企画力、知識の理解度を確認する。 テーブル展示を行いプレゼンテーション能力を促す フィードバックの仕方：①レポートを確認 ②評価し返却 ③実習ではその場で指導コメントを行い、今後の授業への関心を深め知識の定着を促す。④授業後に質疑応答を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：グループワークにおける、発表の役割、協力態度を評価する。 D：提出レポート、企画書进行评估する。（課題についてよく学び、調べ考察されているか。） E：実習作品発表での企画書、作品、プレゼンテーションを評価する。 授業態度 20% 制作作品 80%（レポート、企画書 50% 作品 30%）
テキスト	TALK食空間コーディネーター3級 NPO法人食空間コーディネート協会著 株式会社優しい食卓
参考書	料理を美味しく演出する「盛り付け&セッティング」 メイツ出版
履修上の注意	講義と実習と交互に行いますので、欠席が多いと最終作品に大きく影響が出るので欠席しないこと。 グループでの発表に対して、グループの一員としての責任感と協調性をもって臨んでください。 企画書の提出、リサーチレポート提出など3～4回あります。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、プレゼンテーション、実習（テーブルセッティング・フードスタイリングパーティー演出）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
ナンバリング：N18C51	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食空間をコーディネートする上で必要な知識、技術を身につける。コーディネート、セッティングの基本・食文化・花・色彩・歳時記、マナーなどを学び、実習を交えて技術の習得と共に食空間コーディネーターを目指す。 (授業目標) 食空間コーディネーターとしての幅広い知識と技術を習得しキャリアアップにつながるように学びます。 A：課題に積極的に臨み、チームワークは話し合いを通じて考えをまとめ、責任を持って発表することができる。 B：グループワークでは、仲間の考えも理解すると共に自分の考えも伝え協力し合ってまとめることができる。 ◎D：食空間コーディネートに必要な基礎理論、器の知識、和食、世界の料理、卓育を知り理解することができる。 ○E：学んだ知識で自分の考えをまとめ、テーブルコーディネートが正しく表現できる。		
授業計画	1	食空間コーディネートとは 食空間コーディネートの基本理論について学ぶ。 食空間のありかたについて。	
	2	テーブルコーディネートの基本 テーブルコーディネート、テーブルセッティングの違いを理解し、プランニングの基本を学ぶ。	
	3	洋のテーブルセッティングについて（実習） 洋食の基本セッティングを実習で学ぶ。 各自がセッティングした状態を撮影、ファイルする。	
	4	パーティープランニング 身近な物語などをテーマに、パーティー企画を考え、コーディネートの知識の実践。 セッティングすることを試みる。 楽しいコーディネートの演出を学ぶ。	
	5	センターピース、フラワーアレンジメント（実習） テーブルでのセンターピースの役割を学び、生花を使用してアレンジメントを作成する。 出来上がった各自の作品をテーブルに置いて撮影する。 センターピースの効果、役割を確認する。	
	6	外国の行事や歳時 外国の行事、歳時の意味を知り、テーマに合わせたテーブルコーディネートを企画する。 其々の国の文化の歴史、食文化にも触れて考える。	
	7	外国の行事のセッティング（実習） 外国の行事を具体的にテーブルの上で表現する。 グループで考え企画書を作成、セッティングしたテーブルをプレゼンテーションする。	
	8	食育基本法について 卓育基本法の中の卓育について学ぶ。 ～心を育む食卓のちから～、を理解する。	
	9	卓育実習・卓育の役割 卓育とは、子どものお誕生日パーティーを実習。 子どもにとってのお誕生日は、大切な行事であること意識する。 心に残るお誕生日を企画する。	
	10	ティーについて 紅茶の歴史、食卓文化、マナーについて学ぶ。 ティータイムについてその成り立ち、現在のあり方を知る。、	
	11	ティーパーティー（実習） アフタヌーンティーパーティーを実習体験することで、講義で学んだことを理解すると共に、メニュー、マナーについても学ぶ。	
	12	洋食器について テーブルウェアとは何か。 具体的に器を見ながら、基礎知識を学ぶ。 洋食器の種類、活用法を知る。	
	13	カトラリー・箸・道具について 食事をする為に使用するカトラリーの基礎知識、日本人にとっての箸とは。 その他の道具についても学ぶ。	
	14	日本の行事について 暮らしの中で長く行われている行事、行事食について学び、日本人の食卓を考える。	
	15	おもてなし料理 おもてなしについて、料理、食卓演出、決まりを学ぶ。 テーブル演出から、もてなしの心の演出方法を理解し、もてなし上手を目指す。	

学習成果・到達目標・基準	A: プレゼンテーションの役割を決め、自身を持って説明できる。 B: グループワークでは、話し合い、協力することでより良い発表ができる。 ◎D: コーディネートの知識を知る事が出来、食での演出が理解ができる。 ○E: 自分の考えをまとめ、テーブルセッティングしてプレゼンテーションすることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、課題に取り組む。実習演習に向けて調べ、企画書をまとめる（20分）。 事後学習：授業内容をまとめる。撮影した写真は説明を加え、レジュメに添付ファイルする（20分）。また、関心を持った事柄をインターネット、雑誌などで調べ知識の幅を広げる。（20分）指示された課題、レポートに取り組む（30分）。
指導方法	講義と実習 テキスト、レジュメ、パワーポイントを使用して講義。必要に応じて資料を配布する。 講義で理論を説明した上で、実習を行い知識と技術の定着を行う。グループワーク発表、各自の発表を積極的に行う。発表作品を、直接評価すると共に修正により変化を確認し、違いを理解する。 レポート提出を行い、企画力、知識の理解度を確認する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A: 課題に積極的に取り組み、チームワークに責任感をもって臨むことを評価する。 B: グループワークにおける、役割分担、協力姿勢を評価する。 D: 提出レポート、企画書（課題について学び、調べ考察されているか）・チェックシートの解答を評価する。 E: 実習作品の企画書、作品、プレゼンテーションを評価する。 授業態度 20% 制作作品 50%（レポート、企画書 30% 作品 20%）チェックシート 30% *資格認定チェックシートは知識の着床を目指して行う。
テキスト	TALK食空間コーディネーターテキスト3級 NPO法人食空間コーディネート協会著 株式会社優しい食卓
参考書	
履修上の注意	資格取得については、欠席が多いと取得に影響が出るので欠席しないこと。 講義と実習を交互に行いますので、講義をよく理解して実習に臨んで下さい。 グループでの発表に際しては、グループの一員としての責任感と協調性もってを行うこと。 企画書の提出、レポート提出（3～4回）、まとめとしてチェックシートによる復習を行います。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、実習（テーブルセッティング・パーティーコーディネート）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：選択
担当教員			
武田旭由			
ナンバリング：N28C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	握り寿司以外にも巻き寿司、稲荷寿司、ちらし寿司等、様々な「すし」、「日本料理」の実習を通して、その由来や歴史、魚の扱い、衛生管理の徹底等を総合的に学ぶ。 (授業目標) すしのあらゆる基本技術の修得と共に、飲食業に携わるプロとしての意識を高める。 A：班における自分の役割を理解し適切な調理作業で衛生的にかつ安全に実習をやり遂げることができる。 ◎D：食材、調理器具の扱い方を理解し、正しく安全に調理作業をすることができる。 ○E：デモンストレーションの内容を理解し、食べる人のことを意識した調理作業、盛り付けができる。		
授業計画	1	ガイドダンス 実習の心得と注意事項をよく聞き、実行できるようになる。 衛生管理の基本について理解する。 授業の受け方やレポートの提出方法、評価等について理解する。	
	2, 3	稲荷寿司（実習） メニュー：稲荷寿司 すしの歴史について 米の炊飯、すし飯の作り方 和包丁と洋包丁の扱い方の違い 油揚げの炊き方 器具の扱い方	
	4, 5	魚の卸し方①（実習） メニュー：鰹梅香寿司、鰹のつみれ汁	
	6, 7	鰹の下処理、卸し方 器具の扱い方 巻き寿司（実習） メニュー：太巻き寿司、海老真薯椀 厚焼き玉子の焼き方 蒸し器の扱い方 合わせ出汁の引き方（うま味の相乗効果について） 巻き寿司の巻き方	
	8, 9	握り寿司①（実習） メニュー：握り寿司（鮪・鯛・海老） 鯛の卸し方 ネタの切り付け 海老の下処理 握り寿司の握り方	
	10, 11	魚の卸し方②（実習） メニュー：鰹の炊き込みご飯、鰹の南蛮漬 鰹の下処理、卸し方 揚げ物調理における温度管理 器具の扱い方	
	12, 13	ちらし寿司（実習） メニュー：飾りちらし寿司、蛤の吸い物 蛤出汁の取り方 盛り付けの工夫について	
	14, 15	握り寿司②（実習） メニュー：握り寿司（鮪、鯛、サーモン、烏賊、ワラサ、海老、細巻き） ネタの切り付け、握り寿司の握り方 復習 細巻きの巻き方	
学習成果・到達目標・基準	A：協調性を持って、衛生的にかつ安全に実習をやり遂げることができる。 ◎D：食材、調理器具の扱い方を理解し、安全に調理作業をすることができる。 ○E：デモンストレーションの内容を理解し、調理作業、盛り付けができる。		
事前・事後学習	事前学習：予定表で献立を確認し、料理について調査すると良い。（30分） 事後学習：実習後は授業内容をレシピとしてノートにまとめ、もう一度調理や練習をし復習をしておくが良い。（60分）		
指導方法	・デモンストレーション⇒4人のグループ別に調理⇒盛りつけ⇒評価⇒試食⇒片付け ・調理の基本である安全面・衛生面の徹底 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価およびコメントして返却、④授業中および授業後の質疑対応		

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：筆記試験は行わず、授業態度、グループ内での授業貢献度を評価する。 D，E：実習時の調理作品、実技試験で評価する。 受講態度50%、 レポート提出25%、 実技試験25%の配分でルーブリックに沿って評価する。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
履修上の注意	衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動すること。新型コロナウイルス感染予防のマニュアルを遵守し、調理・試食すること。 食品アレルギー等がある場合は事前に申告すること。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子			
ナンバリング：N25C19	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ヒトの一生はライフステージ別に、妊娠期・授乳期、離乳期、幼児期、学童期、思春期、成人期（青年期・壮年期・実年期）高齢期に分けられる。それぞれの時期における身体的特性や栄養学的問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、栄養ケアとマネジメントについて学ぶ。また、特殊環境下、スポーツ活動時における栄養管理についても学ぶ。 （授業目標） 対象者のライフステージに合わせた栄養マネジメント力を身に付け、食のプロフェッショナルとして、食を通じた健康維持・増進に関わる力を身に付ける。 ○C：知識の丸暗記ではなく、新たな事柄に関し判断したり、推測したりする力を身に付ける。 ◎D：ライフステージごとの身体特性と、それぞれのステージで食事摂取基準が定められている理由が理解できる。それを基礎に各ステージでの、食生活における問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方が理解できる。また、特殊環境下やスポーツ活動時の身体状況の変化について理解し、栄養学的対応方法についても理解できる。		
授業計画	1	成長・発達・加齢(老化) (ICT：Classroom)	応用栄養学の基礎となるヒトにおける生命現象の流れ（ライフサイクル）を学ぶ。成長・発達・加齢さらに老化の定義を学び、ライフステージ別栄養学理解のための基礎を学ぶ。
	2	栄養必要量の科学的根拠 (ICT：Classroom)	食事摂取基準策定の歴史、概要について学ぶ。2020年版における、各栄養素ごとの策定の根拠について学ぶ。
	3	栄養マネジメント (ICT：Classroom)	栄養スクリーニング、栄養アセスメントの実際とその手順について学ぶ。栄養プログラムの目標設定、立案、実施と評価方法と、評価のフィードバックに関しても併せて学ぶ。
	4	妊娠期の栄養 (ICT：Classroom)	妊娠期の母体と胎児の生理学的特徴を学び、妊娠期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法について学ぶ。
	5	授乳期の栄養 (ICT：Classroom)	授乳期の女性の生理学的特徴、母乳分泌の機序、授乳婦に起こりやすい栄養学的問題に関して学ぶ。授乳期の栄養ケアについて併せて学ぶ。
	6	乳児期の栄養 (ICT：Classroom)	乳児期の発育・発達、生理的特徴と、乳児に関する栄養アセスメント法について学ぶ。出生時・乳児期に起こりやすい栄養学的問題に関し学ぶ。母乳と人工栄養の特徴、調乳方法、乳児期の栄養補給法に関して学ぶ。乳児期の食事摂取基準を学び、離乳の目的、離乳の進め方について学ぶ。
	7	幼児期の栄養 (ICT：Classroom)	幼児期の発育・発達とその評価法を学ぶ。幼児期に起こりやすい栄養学的問題として特に発育障害とアレルギーについて学ぶ。幼児期の食事摂取基準について学ぶ。
	8	学童期の栄養 (ICT：Classroom)	学童期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。小児期生活習慣病に関する理解を深める。
	9	思春期の栄養 (ICT：Classroom)	思春期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。スパートの時期の栄養に関して考える。
	10	成人期の栄養 (ICT：Classroom)	成人期（青年期・壮年期・実年期）の身体的特性、食生活の特徴から生活習慣病のリスクに関して学ぶ。生活習慣病の現状について学び、その予防・対策に関して考える。
	11	更年期の栄養 (ICT：Classroom)	更年期の生理学的特徴とそれに伴う栄養学的問題について学び、栄養ケアのあり方に関して考える。
	12	高齢期の栄養 (ICT：Classroom)	高齢期の加齢・老化に伴う生理学的特徴を学び、アセスメント法、高齢期に多い栄養学的問題に関して学ぶ。さらに、食事摂取基準、栄養ケアに関して学ぶ。
	13	障がい者と栄養 (ICT：Classroom)	障がい者の栄養学的特徴、必要な配慮について学び、さらに障がいを持つ人に食事を提供する際の栄養ケアのあり方を学ぶ。
	14	運動・スポーツと栄養 (ICT：Classroom)	運動時の生体反応について学び、一般人・アスリートにおける運動と栄養との関係について学ぶ。
	15	環境と栄養 (ICT：Classroom)	高温・低温、高圧・低圧等、特殊環境下におけるヒトの生理学的状態を学び、栄養学的対応を考える。

学習成果・到達目標・基準	○C:生体反応と栄養ケアの必要性の関連を理解できる。 ◎D: ライフステージごとの適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、特殊環境下やスポーツ活動時の身体変化を理解できる。
事前・事後学習	事前学習: 各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。(60分) 事後学習: 授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。(120分)
指導方法	・教科書を中心とした講義形式で行う。授業ポイントをまとめたプリントを配布したり、パワーポイントを使用して解説する。 ・項目ごとに栄養士実力認定試験の過去問題に沿って小テストを行う。理解度を確認しながら授業を進めていく。 ・フィードバックの仕方: 小テスト①小テスト実施、②小テスト採点、③授業後による採点についての質疑応答。 提出物①課題の提示、②評価のうえ返却、③授業後による採点についての質疑応答。 プレゼンテーションの評価①ワークシートを使用して学生間で評価する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C: プレゼンテーション・小テスト、定期試験により評価する。 D: 小テスト、定期試験により評価する。 定期試験 70%、小テスト 20%、提出物・プレゼンテーション10% 成績評価は上記の配分で行い、それぞれのルーブリックに基づいて配点する。
テキスト	「Nブックス 応用栄養学概論」渡邊早苗・松田早苗・真野由紀子編 建帛社 2021年
参考書	栄養士実力認定試験過去問題集: 全国栄養士養成施設協会編、建帛社
履修上の注意	項目ごとに「栄養士実力認定試験」を意識した小テストを行います。テストを行う授業日は前もって連絡をします。何らかの事情で欠席する場合は事前に連絡してください。配布プリント、授業中に行う小テストの内容は定期試験の範囲に含まれます。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
篠原暁子			
ナンバリング：N12A02	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Public Healthから「公衆衛生」となったが、「みんなの健康」を意味している。個々の人々が健康であるためには、単に病気にならないための対策だけでなく、早期発見や社会復帰も必要であり、それぞれの生命の質（Quality of Life:QOL）が大切である。広い視野から栄養士としての役割を認識できるよう、身近な問題を扱い講義する。 (授業目標) ◎D：公衆衛生学を理解し、将来栄養士として学び続けるための礎を身に付ける。 日本および世界の人口問題、それぞれのライフステージにおける保健についての知識を身に付ける。 環境問題、保健行政についての知識を身に付ける。		
授業計画	1	社会と健康 公衆衛生学という学問についてを知り、健康の概念、予防医学としての役割を学ぶ。	
	2	健康に関する統計資料 世界および日本の人口動態および人口動態、統計調査、保健指標について学ぶ。	
	3	疫学（１） 疫学で用いられる指標について学ぶ。	
	4	疫学（２） 疫学の役割について学ぶ。	
	5	感染症予防（１） 感染症とは何かを学ぶ。	
	6	感染症予防（２） 感染症の種類、感染症の現状について学ぶ。	
	7	環境と健康（１） 生態系、環境汚染・公害の及ぼす健康への影響およびその予防策の取り組みについて学ぶ。	
	8	環境と健康（２） 環境に影響をおよぼす空気と水の健康について学ぶ。	
	9	母子保健 妊娠・出産における社会環境、母子保健の現状、母子保健対策について学ぶ。	
	10	学校保健 学校保健活動、学齢期の健康状況について学ぶ。	
	11	産業保健 職場環境における健康障害およびその対策について学ぶ。	
	12	生活習慣と疾病（１） 健康日本21を中心に日本における政策を学ぶ。	
	13	生活習慣と疾病（２） 生活習慣病、メタボリックシンドロームにおける予防対策について学ぶ。	
	14	精神保健 精神障害の特徴、精神保健対策などについて学ぶ。	
	15	保健・医療・福祉の制度と法規 地域の医療・保健・福祉に取り組む行政の仕組みと制度および国際保健について学ぶ。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：人間の健康に関わる様々な問題点を様々な観点から分析することによって、将来的に疾病を予防し、健康保持・増進を図ることができる。また環境問題や保健行政について説明することができる。		
事前・事後学習	事前学習：各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。（60分） 事後学習：授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。（120分）		
指導方法	・教科書を中心に、パワーポイント、および資料を配布して授業を行う。 ・小テストを行い、理解度を確認する。 ・演習、まとめを通じて理解を深めることができるよう指導する。 フィードバックの仕方：①資料を配布②小テスト③演習④評価・コメント⑤授業内外での質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験と授業への貢献度で評価する。 ・定期試験 80％ ・授業への貢献度 20％		

テキスト	『わかりやすい公衆衛生学（第6版）』（三共出版）
参考書	国民衛生の動向（廣済堂） Nブックスシリーズ 公衆衛生学（建帛社） シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）
履修上の注意	・授業中は他の人の迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 ・携帯電話を授業に関係のない目的で使用的場合、減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
篠原暁子			
ナンバリング：N16C28	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	公衆栄養学は、集団の健康の維持・増進、疾病の予防、そして栄養・食に関わるさまざまな問題を、地域・国レベルの広い視点から捉えなければならない。授業では、わが国の健康・栄養問題の現状と課題から、栄養・食料に関する問題点、栄養疫学評価、そしてわが国の公衆栄養活動に関する行政・地域の取り組みなど、健康増進・疾病予防に関わる栄養学を公衆栄養学的視点から修得できるよう講義する。 (授業目標) ◎C：日本および世界における健康問題・栄養問題を的確に捉え、人々の健康増進について公衆栄養学的なアプローチを考察できる。 ○D：公衆栄養活動の理念を理解する。公衆栄養活動に関する健康施策を担当する行政や法規について理解する。栄養疫学調査の必要性和意義を理解し、栄養疫学的评价ができる知識を身につける。		
授業計画	1	公衆栄養学の概念1（ICT：Classroom） 公衆栄養の意義と目的について学ぶ。	
	2	公衆栄養学の概念2（ICT：Classroom） 公衆栄養の歴史、公衆栄養活動について学ぶ。	
	3	公衆栄養マネジメント1（ICT：Classroom） 公衆栄養マネジメントの考え方・重要性、公衆栄養アセスメントの特徴について学ぶ。	
	4	公衆栄養マネジメント2（ICT：Classroom） 公衆栄養プログラムの計画の策定、目標の設定、実施と評価について学ぶ。	
	5	栄養疫学1（ICT：Classroom） 栄養疫学の役割、公衆栄養活動への応用について学ぶ。	
	6	栄養疫学2（ICT：Classroom） 食事調査方法の種類と特徴、食事摂取量の測定方法・評価方法について学ぶ。	
	7	健康・栄養問題の現状と課題1（ICT：Classroom）（課題解決型学習） わが国の少子高齢化社会と健康・栄養問題の現状および変化について学び、今後どのような公衆栄養活動を行う必要があるか考える。	
	8	健康・栄養問題の現状と課題2（ICT：Classroom）（課題解決型学習） わが国の食生活の変化、食環境の現状および変化について学び、今後どのような公衆栄養活動を行う必要があるか考える。	
	9	健康・栄養問題の現状と課題3（ICT：Classroom） わが国の食料自給率、食品ロスにおける現状および課題について学ぶ。	
	10	栄養政策1（ICT：Classroom） 公衆栄養関連法規、わが国の公衆栄養活動について学ぶ。	
	11	栄養政策2（ICT：Classroom） 国民健康・栄養調査、食生活および健康に関連する指針、ツールについて学ぶ。	
	12	栄養政策3（ICT：Classroom） 健康日本21（第二次）、健康増進計画、食育推進基本計画について学ぶ。	
	13	地域集団の特性別プログラムの展開（ICT：Classroom） 地域特性・ライフステージに対応したプログラムの展開について学ぶ。	
	14	食環境整備のためのプログラムの展開（ICT：Classroom） 健康・食生活の危機管理と食支援、特別用途食品・保健機能食品について学ぶ。	
	15	諸外国の健康・栄養政策（ICT：Classroom） 公衆栄養活動に関係する国際的な栄養行政組織、諸外国の栄養状況と施策について学ぶ。	
学習成果・到達目標・基準	◎C：日本および世界における健康問題・栄養問題を的確に捉え問題点を考えることができる。 ○D：公衆栄養活動が社会に果たす役割を説明できる。公衆栄養活動に関する健康施策を担当する行政と法規について関連づけることができる。栄養疫学調査の必要性を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。（60分） 事後学習：授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。（120分）		
指導方法	・教科書を中心に、パワーポイント、および資料を配布して授業を行う。 ・小テストを行い、理解度を確認する。 ・演習、課題作成を通じて理解を深めることができるよう指導する。 フィードバックの仕方：①資料を配布②小テスト③課題作成④評価・コメント⑤授業内外での質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題提出・小テスト、定期試験により評価する。 D：課題提出・小テスト、定期試験により評価する。 定期試験 70%、課題・小テスト 15%、受講態度 15%		

テキスト	「サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆栄養学」 井上浩一、草間かおる、村山信子 著 （第一出版）
参考書	国民健康・栄養の現状（第一出版） 日本人の食事摂取基準（2020年版）（第一出版）
履修上の注意	・授業中は他の人の迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 ・携帯電話を授業に関係のない目的で使用的場合、減点対象とする。 ・課題の提出期限を守らない場合、減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
篠原暁子			
ナンバリング：N23C07	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	身体運動の生理的機能について、「一過性の運動、およびトレーニングによっておこる生体の生理的適応のメカニズム」について理解する。その理論を応用し、健康づくりのための運動、1) 運動処方の実際（運動の種類、運動量の選択）、2) ライフステージ別（子供、高齢者、女性）、および生活習慣病を有する人の運動処方についての理解を深める。 (授業目標) 運動生理学の基礎知識を学び、食事と関連させて、健康づくりのための運動を生活の中に取り入れることができるようになる。 ◎D：運動に伴う生理的機能の適応のメカニズムを学び、運動処方の実際に応用できる。 ○E：生活習慣病別の運動の種類（有酸素運動、無酸素運動）、運動量（強度・時間・頻度・期間）の選定ができる。ライフステージ別の運動について説明できる。		
授業計画	1	健康と運動（ICT:Classroom）	なぜ運動が必要か。運動生理学の必要性。そして運動生理学と栄養学の関わりについて理解する。
	2	筋収縮とエネルギー供給系（ICT:Classroom）	骨格筋の構造と筋収縮のしくみを学び、特に、筋活動におけるCaイオンの働きと食事におけるCa必要量の関連を理解する。筋収縮のためのエネルギー（ATP）再合成のための3つのエネルギー供給機構の特徴を学ぶ。
	3	筋線維の種類とその特徴（ICT:Classroom）	1) 運動強度、および運動時間とエネルギー供給機構利用の関係、2) 運動強度、および運動時間とエネルギー減利用の関係を理解すると共に、有酸素運動で特に脂質の利用を促進する運動内容を知る
	4	神経系の役割（ICT:Classroom）	筋力発揮の調節を神経系の役割から理解する。
	5	筋の収縮様式と筋力（ICT:Classroom）	トレーニングによる筋力増強のメカニズムについて学ぶ
	6	運動と循環（ICT:Classroom）	一過性の運動（最大運動）における循環器系の応答（心拍出量、心拍数、酸素摂取量）、および血圧の変化を理解する 有酸素的トレーニングによる呼吸循環器系機能の適応について理解するとともに、有酸素運動が生活習慣病を予防する理由を学ぶ
	7	運動と呼吸（ICT:Classroom）	呼吸運動の調節について理解し、運動に伴う肺換気量の変化を学ぶ。肺胞におけるガス交換、血液による酸素、二酸化炭素の運搬について学び、酸素利用のメカニズム理解する
	8	運動とホルモン（ICT:、Classroom）	心臓の構造と機能、および内分泌系の働きによる心臓の調節機構を理解する
	9	筋疲労の要因（ICT:Classroom）	筋疲労のメカニズムとその予防方法について学ぶ
	10	運動と体温調節（ICT:、Classroom）	運動中の体温調節を学び、熱中症予防の方法を理解する。
	11	運動と栄養（ICT:Classroom）	一般人、アスリートに必要な栄養について学ぶ。
	12	身体組成と肥満（ICT:Classroom）	生活習慣病のリスクを高める肥満の状態を学び、肥満解消のための運動について理解する。
	13	運動処方（ICT:、Classroom）	運動処方とはトレーニングの効果を高めるための原理・原則を理解し、運動の種類、および運動量（運動強度・時間・頻度）の選択について理解する 運動強度の指標となる酸素摂取量、心拍数、METSを用いて、運動強度、エネルギー消費量の計算方法を理解する
	14	運動と生活習慣病（ICT:Classroom）	生活習慣病の病態を学び、代表的な生活習慣病に対する運動療法について理解する。
	15	老化に伴う身体機能の変化（ICT:Classroom）	高齢者の生理的機能の特徴を学び、高齢者にとって安全で効果のある運動を理解する。
学習成果・到達目標・基準	◎D：運動に伴うエネルギー供給機構、およびエネルギー源の利用について説明できる。 一過性運動、およびトレーニングに伴う骨格筋、呼吸循環系機能の適応を説明できる。 運動が生活習慣病を予防・回復する理由を説明できる。 ○E：安全で効果のある健康づくりのための運動（運動の種類、運動量）を説明できる		

事前・事後学習	事前学習：各回の内容について、教科書を事前に読んでくる。（60分） 事後学習：授業で提示された課題に取り組み、理解を深める。（120分）
指導方法	・教科書を中心に、パワーポイント、および資料を配布して授業を行う。 ・小テストを行い、理解度を確認する。 ・課題作成を通じて理解を深めることができるよう指導する。 フィードバックの仕方：①資料を配布②小テスト③課題作成④次週の講義開始時に課題の解説④授業内外での質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：小テスト、定期試験により評価する。 E：小テスト、定期試験により評価する。 定期試験 70% 小テスト 15% 受講態度 15%
テキスト	「入門運動生理学 第4版」 編著：勝田茂 著：和田正信 松永智 （杏林書院）
参考書	栄養士実力認定試験過去問題集：全国栄養士養成施設協会編、建帛社
履修上の注意	・運動生理学の理論をより理解するためにも解剖生理学の復習をしておくことが望ましい。 ・授業中は他の人の迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 ・携帯電話を授業に関係のない目的で使用した場合、減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：栄必修
担当教員			
福岡敦子			
ナンバリング：N25C23	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	治療食をよく理解し、献立作成をし、実際に調理ができるようになることを目標とする。経口摂取による食形態を中心に、治療食献立を個人で作成し、実際に調理実習を行い、試食をする。献立を作成するためには、疾患についての知識が必須であり、調理実習はグループで行なうのでコミュニケーションが必要である。ここでは、この一環の流れや、実際に患者の食事を作り、試食をして治療食の特色を学び取り、さらに何が必要であるかを指導する。 ○A：治療食の基礎、献立作成、調理方法を理解し、グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付ける。 D：臨床栄養学で習う各疾患に対する食事療法の実践を学び、治療食の基礎を身に付ける。 ◎E：代表的な疾患の治療食の献立作成、調理ができる。		
授業計画	1	食事療法について、手指洗浄の仕方、献立の立て方、患者さんの要求すること 食事療法の必要性 献立の立て方 また、患者さんが病院食についてどのような要望があるかを理解する。	
	2, 3	ミニ講義・一般治療食 展開食について 粥食の献立 基礎となる一般治療食（常食）をもとに粥食に展開することを身につけ、粥食の献立を作成する。	
	4, 5	一般治療食（粥食） 調理実習 前回作成した一般常食（粥食）の調理実習を行ない、試食することから、粥食と普通食との違いを学ぶ。	
	6, 7	糖尿病食 献立作成 糖尿病の基本を理解し、糖尿病食品交換表の使い方を学び、糖尿病の献立を作成することを身につける。	
	8, 9	腎臓病食 献立作成 腎臓病食の基本を理解し、腎臓病食品交換表の使い方を学び、腎臓病の献立を作成することを身につける。	
	10, 11	腎臓病食 調理実習 たんぱく質量の異なる治療食の実習を行ない、試食し、腎臓病食の特徴を学ぶ。」	
	12, 13	膵炎食 調理実習 脂質量の異なる治療食の実習を行ない、試食し、膵炎食の特徴を学ぶ。	
	14, 15	摂食・嚥下障害食 調理実習 摂食・嚥下障害食の実習を行ない、試食し、摂食・嚥下障害食の特徴を学ぶ。	
	15		
学習成果・到達目標・基準	○A：治療食の基礎、献立作成、調理方法を理解し、グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付けることから、協力し、コミュニケーションの重要性を学ぶ。 D：臨床栄養学で習う各疾患に対する食事療法の実践を学び、治療食の基礎を身に付けることから、栄養学の必要性と疾病についての知識を身につける。 ◎E：代表的な疾患の治療食の献立作成、調理ができることから、実際に具体的な栄養療法を身につける。		
事前・事後学習	事前学習：『臨床栄養学』で学んだ知識は必須。どのような手順で行なうべきか考えてくる。配膳するときの食器具の配置や種類についても考え、絵に描いておくこと（45分）。 事後学習：治療食について献立表を見直したり、試食したときは感想を書いておくこと（45分）		
指導方法	特別治療食献立の立て方、調理方法を指導する。また、献立に対し意見交換を行なう。 フィードバックの方法：実習後やメールにて質疑応答		

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：治療食の基礎、献立作成、調理方法を理解し、グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付ける：コミュニケーション性 D：臨床栄養学で習う各疾患に対する食事療法の実際を学び、治療食の基礎を身に付ける：疾病の治療食としての適切か E：代表的な疾患の治療食の献立作成、調理ができる：疾病の治療食としての適切か 実習科目のため筆記試験は行なわない。 授業への積極的な態度（出席・献立の正確性・献立への意見交換）50% 実習中の態度（協力度・できあがった料理への評価）50%
テキスト	・ 食品成分表 女子栄養大学出版 ・ 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編 文光堂 ・ 「腎臓病食品交換表」黒川清監修 医歯薬出版株式会社 ・ ビジュアル治療食300 医歯薬出版
参考書	
履修上の注意	1：成分表、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 2：実習の時は衛生に注意する（爪を切る、髪の毛を防止から出さないこと）。 3：けがをしないように注意すること。 4：マニキュア、ピアス、イヤリング、指輪、腕時計の装着はしない。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：栄必修
担当教員			
福岡敦子			
ナンバリング：N25C21	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	病院栄養士としての実践経験を活かし、臨床栄養学に対する基礎的な知識を習得し、傷病者への適切な栄養療法を選択できることを指導する。実際、臨床において患者の疾患状態や栄養状況、薬剤の服用状況を客観的に判断できるようにならなければならない。具体的には、臨床栄養学の意義と目的や傷病などの栄養管理が重要になった社会的背景から進み、臨床栄養管理の考え方について指導を行なう。 (授業目標) 1. 傷病者への適切な栄養管理を実施するための疾病の基本的な知識を習得する。2. 栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理の考え方を習得する。 ○A：能動的に授業に参加し、疑問があるときは質問することができる。 ◎D：各疾患の基本的な特徴について理解する。 ◎D：それぞれの疾患と、その食事療法とを関連づけることができる。 ◎D：各疾患に対する食事療法の内容について理解する。		
授業計画	1	臨床栄養学の概念 臨床栄養学を学ぶ目的と意義、医療制度、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養について理解をする。	
	2	栄養補給法 栄養補給法の経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法の種類や、選択決定について判断することを身につける。また、合併症についても理解をする。	
	3	薬と食品の相互作用 食品が医薬品に及ぼす影響、医薬品が栄養・食品に及ぼす影響について理解をする。	
	4	代謝疾患1：肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	5	代謝疾患2：脂質異常症、低栄養、るい瘦 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	6	消化器疾患1：上部消化管、下部消化管 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	7	消化器疾患2：膵・胆・肝疾患 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	8	循環器疾患：高血圧、心疾患 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	9	腎疾患 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	10	血液疾患、呼吸器疾患 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	11	内分泌疾患、骨疾患、免疫・アレルギー疾患 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	12	外科：術前・術後 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	13	高齢者疾患1：摂食・嚥下障害、褥瘡 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	14	高齢者疾患2：フレイル、サルコペニア 小児疾患：先天性代謝異常症 疾患の概念を理解し、疾患の栄養療法の必要性を理解し、食事療法を身につけ、食事計画の基本をたてることができるようにする。	
	15	まとめ 栄養ケアマネジメントの演習 これまでのまとめと、栄養ケアマネジメント・栄養ケアプランの演習を行なう。	
学習成果・ 到達目標・基準	○A：能動的に授業に参加する：基本的な学習姿勢 ◎D：各疾患の基本的な特徴について理解する：疾病の概念を把握する ◎D：それぞれの疾患と、その食事療法とを関連づけることができる：栄養療法の必要性 ◎D：各疾患に対する食事療法の内容について理解する：栄養療法の必要性		

事前・事後学習	事前学習：教科書で範囲をよく読んで予習をして授業に臨むこと（90分）。 事後学習：教科書・ノートを見直し復習をすること（90分）。
指導方法	授業は、パワーポイントを用い、教科書を中心に進め黒板に内容を説明をしていく。 フィードバックの方法：授業後やメールにて質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：授業態度や欠席回数を参考とする D：定期考査の成績や、授業における質疑応答においても参考とする。 定期考査90%、受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻、欠席）10%
テキスト	臨床栄養学 第8版 佐藤和人 本間建 小松龍史 医歯薬出版
参考書	日本人の食事摂取基準2020年版
履修上の注意	授業中における友人との雑談、携帯電話をいじることは禁止する。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
永井亮			
ナンバリング：N22A04	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	授業は要所要所で講師の社会福祉現場での実践エピソードを紹介し、また最新のトピックも織り交ぜて進めていく。 ①人間社会において生活の観点から人々をサポートする栄養士として、生活面での「幸せ」を意味する「福祉」の制度や現状を学ぶ。 ②様々な社会問題に関心や当事者意識を持ち、自らの言葉で考察できるようにする。 (授業目標) 社会福祉に関する基本的知識の習得とともに、「食」は人々に対してどのような「生活支援」となり、どのように「幸せ」を保障するのかを考察し、それらを卒業後に「食」の現場で生かせるようにする。 ◎B：現在の人間社会に関する諸問題を理解・考察し、他学生と議論するスキルを身に付ける。 ○D：「生活支援の専門職」としての栄養士の専門的役割を社会福祉の視点から理解する。		
授業計画	1	オープニング「社会福祉とは何か？～栄養士が社会福祉を学ぶということ～」 この科目の目的および学習事項等の説明を聴き、そもそも「社会福祉とは何か」、そして「栄養士が社会福祉を学ぶことの必要性やその意義」について理解し、問題意識を高める。	
	2	家庭の福祉① 「少子高齢化社会」、「政府の少子化対策」、「保育サービス」について理解する。 「保育所」は児童福祉法に定義された「社会福祉施設」である。そこで提供される給食は、子どもたちの健やかな成長、それを見守る身近な大人たちの思い、などにどれだけ大きな意義があるかを考察する。	
	3	家庭の福祉② 「ヤングケアラー」、「ひとり親家庭」、「子どもの貧困」の現状と課題について理解し、問題意識や考察を深める。	
	4	女性の福祉 「ドメスティックバイオレンス」（「デートDV」含む）と「10代の妊娠・出産、望まない妊娠・出産」の現状と課題について、また「DV被害者保護」の制度・福祉サービスについて理解し、問題意識や考察を深める。	
	5	子どもの福祉① 「児童虐待」の現状と課題について、また「虐待を受けた子どもたちを保護・援助する社会福祉施設の種類と専門的役割」について理解し、問題意識や考察を深める。	
	6	子どもの福祉② 虐待を受けた子どもの「心の傷」と「行動特性」について理解し、問題意識や考察を深める。	
	7	子どもの福祉③ 「なぜ虐待が起きるのか?」、「虐待をしてしまう親の心理や社会的状況」、「子どもを虐待から護るための法律・制度」について理解し、問題意識や考察を深める。	
	8	子どもの福祉④ 「児童福祉施設で栄養士が提供する『食』が、虐待を受けた子どもたちへの『心の治療的関わり』の一環となること」について深く理解し、問題意識や考察を深める。	
	9	子どもの福祉⑤ 「親との死別を体験した子どもたち」の現状、心理的課題、について理解した上で、当事者の子どもたちが書いた作文集を読み、問題意識や考察を深める。	
	10	障害児・障害者の福祉 「障害児の定義」、「障害者の定義」、「障害児・障害者福祉に関する法律・制度」、「障害児・障害者への福祉サービス」について理解し、問題意識や考察を深める。	
	11	高齢者の福祉（介護保険制度） 「介護保険制度」の仕組み、「高齢者福祉施設で『食』がいかに入所者の日々の生活を豊かにするか?」について理解し、問題意識や考察を深める。	
	12	司法福祉 非行少年や犯罪者を排除する社会では、排除された彼らは居場所を得られず再び犯罪を犯す可能性は高くなる。誰しもが再び健全な社会の一員として暮らしていける方策について理解し、問題意識や考察を深める。	
	13	社会保障 「年金制度」、「健康保険制度」の仕組みを理解し、特に年金では「老齢年金」「障害年金」「遺族年金」の種別について理解する。人間は誰もが年老い、いつ交通事故などで障害を負うかも分からず、いつ配偶者や親を亡くすか分からない。その際の所得保障としてこれら3種の年金がどれだけの意味を持つかを「当事者目線」で問題意識や考察を深める。	
	14	援助を必要とする人々への人権保障 「ヤングケアラー」、「DV被害者」、「10代の妊娠・出産」、「虐待を受けた子ども」、「障害者」、「高齢者」、等々、いわゆる「社会的弱者」といわれる人々の人権を護る制度とその意義について理解し、問題意識や考察を深める。	
	15	エンディング「社会福祉とは何か？～栄養士が社会福祉を学ぶということ～」再考 全ての講義を終え、「栄養士にとって『社会福祉』がいかに重要な意義を持っているか?」を再考して、今後の自分の栄養士としてのキャリアの中で「福祉（=幸せ）の視点」を取り込んでい	

	けるようにする。
学習成果・到達目標・基準	◎B：様々な社会問題を理解し、栄養士が「食」を通じてどのように問題解決をはかるか？ということについて、自分の考えをまとめることができる。 ○D：様々なメディアを通して情報収集し、考える習慣が概ね身に付いている。
事前・事後学習	事前学習：①ネットや新聞、テレビなどで、人間社会の諸問題や事件についてのニュースをチェックすること ②前回講義資料を再度読み直し、その知識を今回の授業へつなげること（①+②=90分） 事後学習：講義での配布物、板書を読み直すこと。人間や生活に関する諸問題について関心を持つこと（90分）
指導方法	毎回、授業資料を配布し講義する。内容によってはグループディスカッションも取り入れる。 フィードバックの仕方：①リアクションペーパーの重要意見や質問事項へフィードバック、②授業内および授業外での質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：積極的な受講姿勢 D：リアクションペーパー 次の①②により成績評価する。①受講姿勢・リアクションペーパー(30%)、②定期試験(70%)。
テキスト	使用しない。毎回、授業資料を配布する。
参考書	『社会福祉の形成と展開』井村圭壯・今井慶宗編著（勁草書房）2019
履修上の注意	授業資料を綴じるA4判ファイルを用意すること（授業資料は主にA3判なので折ればA4判になり収納できる）。 ※欠席に対して授業資料の「置き置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整すること。
アクティブ・ラーニング	自分の考えを自分の言葉で論述するスキルの習得 グループディスカッション能力の習得

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
小島聖子			
ナンバリング：N14A11	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人間と食べ物の関わりという「食」の基礎について広く学びます。 食品の特性（成分組成やその化学構造、テクスチャー（触感）など）および機能（生体への働き）、食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応と、「保健機能食品」や「いわゆる健康食品」等についても学び、食品の扱い方や食品に対する知識を深めます。 また、食品の歴史的変遷や食物連鎖、環境問題の面からも理解を深めます。 栄養士として必要な知識であり、栄養学や調理学を勉強する上でも基礎となる内容です。 （授業目標） ◎D：①食品中の成分について、その化学構造や機能を理解し、説明出来る。②食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応について理解し、説明出来る。③食品の機能について理解し、「保健機能食品」や「いわゆる健康食品」についての知識も習得する。
授業計画	1 ガイダンス・人間と食物 ガイダンス（講義内容、授業の進め方、成績評価等の説明） 食物連鎖、食料と環境問題、 食品と食物、栄養と栄養素、食品中の成分、食品の機能 2 食品の分類と食品成分表、食品中の成分1 水分 水分の機能、自由水と結合水、水分活性 3 食品中の成分2 炭水化物-1 炭水化物の機能と分類（単糖、オリゴ糖） グルコースの構造 4 食品中の成分2 炭水化物-2 炭水化物の分類（多糖、糖アルコール、食物繊維） 多糖の構造 5 食品中の成分3 脂質-1 脂質の機能と分類 脂肪酸の構造と分類 6 食品中の成分3 脂質-2 必須脂肪酸、必須脂肪酸の代謝 油脂の化学的性質 7 食品中の成分4 たんぱく質-1 たんぱく質の機能 アミノ酸の構造と種類、性質 必須アミノ酸 8 食品中の成分4 たんぱく質-2 たんぱく質の構造と分類、化学的性質（等電点沈殿など） たんぱく質の変性 9 食品中の成分5 無機質（ミネラル） 無機質（ミネラル）の種類と機能 酸性・アルカリ性食品 10 食品中の成分6 ビタミン ビタミンの分類と機能 11 食品中の嗜好成分 色素・香り・味、テクスチャー 12 食品成分の変化1 （1）酸化（油脂、ビタミン） （2）加熱変化（でんぷんの糊化、たんぱく質の熱変性など） 13 食品成分の変化2 （3）酵素による変化（酵素的褐変、うま味成分の変化など） （4）成分間反応（アミノカルボニル反応など） （5）微生物による変化（発酵、腐敗） 14 食品中の生理機能成分 食品の機能 三次機能の評価方法と分類 15 保健機能食品等について 栄養表示基準（栄養表示、強調表示） 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品、特別用途食品、栄養機能食品、健康食品、いわゆる健康食品
学習成果・到達目標・基準	◎D：①食品中の成分について、その化学構造や機能について、教科書やプリントを見ながら説明出来る。②食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応について、教科書やプリントを見ながら説明出来る。③食品の機能について理解し、「保健機能食品」と「いわゆる健康食品」の違いを理解する。

事前・事後学習	事前学習：穴埋めプリントの穴に入る語句を、教科書を見ながら考える（90分程度） 事後学習：教科書を熟読し、頭を整理しながらプリント内容を確認する（90分程度）
指導方法	1. 理解を深められるよう、各テーマごとに穴埋めプリントを配布し、テキストに従い講義を行います。 プリントは予習出来るように、一週前に配布します。 2. 毎回授業の最初に小テストを行い、小テスト解説をしながら、前回の講義内容も簡単に復習し、 新しい内容に入り理解を深めるようにします。 フィードバックの仕方：①小テストの実施・評価 ②小テストの解説 ③授業前後における質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：食品中の成分の化学構造や機能、食品の加工、調理、保存段階の食品成分間反応、「保健機能食品」など について、基礎的な理解度を定期試験で評価する。 定期試験（80%）、授業態度・小テスト（20%）により、総合的に評価する。
テキスト	わかりやすい食物と健康①食品とその成分 吉田勉監修 三共出版
参考書	五訂増補食品成分表
履修上の注意	食品学は広範囲です。予習・復習（事前・事後学習）を心掛けて下さい。 穴埋めプリントに語句を埋めたことだけで、理解出来たと安心せずに、理解が不十分であいまいな所などは、 そのままにしないで積極的に質問しましょう。授業に出席していても、他科目の課題をしていたり、居眠りし ていては、理解出来るはずありません。授業に集中しましょう！ 授業の中で解らないことや、最近の食に関するニュースや興味のあること等、何でも質問してみてください！ きっと食品学が楽しくなると思います。
アクティブ・ラー ニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：選択
担当教員			
小川聖子			
ナンバリング：N12C03	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の食文化の特色を、地理、歴史、気候、社会的・文化的な側面から解説する。さらに、中国、韓国などの日本の隣国、フランスやイタリアなどに代表される欧米の食文化の歴史とを検討し、これらが日本の食文化へ与えている影響を学ぶ。 また、近年注目を集めているユネスコの無形文化遺産である「和食」について、その内容の詳細な解説と問題点を提起する。 (授業目標) 食文化の理解を通じて、食という身近なことへの学術的なアプローチの方法を身につける。さらに将来の日本の食について思考を深める力を身につける。 A：食に関する情報を日々の暮らしの中で積極的に考えることができ、活用することができる。 ○C：現代の食と、歴史上の食とを比較し、食の変遷の様子を述べることができる。 ◎D：文献などをはじめとする資料や、具体的な食事の様子から、食文化について知識を深めることができる。		
授業計画	1	食文化とは何か。その成り立ちと特性について	食事とは、人間が生物として生命を維持するために必至の物である。そのため長らく、食が文化であるという考え方はなされてこなかった。食文化が学術として確立されたのは、今から50年ほど前に過ぎない。これらのことをふまえて、人間にとっての食文化とは何か、他の動物との違いについて、比較しながら考える。
	2	日本人と米	日本の食文化において、もっとも大きな影響を与えている食品は米である。米が重要視されるようになるまでの歴史的な背景について学び考える。また、食文化の記録や伝承は、ケの日である普段の食よりも、行事などのハレの日においてみられることが多い。米に関しても同様で、ハレの日の代表的な食品として餅がある。餅を用いた料理について日本各地の差を考え、その歴史的な背景を学ぶ。
	3	日本の行事食①ー正月・桃の節句（プレゼンテーション）	江戸時代に確立された五節句は、現在の日本においても「行事食」として根付いている。行事食の第一回目として、行事食の成り立ちと、正月料理と春の七草、桃の節句などについて学ぶ。正月に誰もが経験している「雑煮」について、自己の経験をまとめてレポートにする。
	4	日本の行事食②ー端午の節句・七夕・菊の節句ー	同様に、端午の節句・七夕・菊の節句について学ぶ。
	5	和食の特徴とその成り立ちと歴史①	現在「和食」というカテゴリーに含まれる食事の特徴について、整理して考え学ぶ。
	6	和食の特徴とその成り立ちと歴史②	和食の元となった「本膳料理」「精進料理」「懷石」について、その特徴を一つずつ順を追って学ぶ。特に「本膳料理」は、現在の日本料理のご飯とおかずの組み合わせ、一汁三菜の始まりがみえる。日本料理ならではの形の始まりを学ぶことで、現在の自分たちの食のルーツを知る。
	7	江戸の食文化	江戸時代の江戸は、世界一の人口密集地であり、知的レベルの高い都市であった。食に関しても独特の世界感があり、江戸の食文化が東日本全体へ伝播していった。「すし」「そば」「うなぎ」「天ぷら」のように現在の「和食」の代表的な料理が確立されたのもこのころである。江戸っ子の食とその特徴を学ぶ。また、江戸時代に確立された庶民の食文化「会席」と「料亭」について学ぶ。
	8	日本料理のマナーと食文化	会席料理には、食事のマナーとして着席時の上座下座、器の扱いと箸使い、懐紙の使い方、などがある。それを踏まえて、楽しくおいしく食事をするための心遣いなどを学ぶ。
	9	嗜好品の発達ー和菓子を代表としてー	嗜好品は、菓子、酒、茶など、生命の維持のためには不必要なものである。しかしながら、世界の国々の中でこの嗜好品が存在しない国はないといってもよい。それはすなわち、人間が食に楽しみを求め、食が人と人とを繋げるコミュニケーションツールであることに他ならない。おもに、和菓子の発達を中心に学んでゆく。
	10	沖縄の食文化	沖縄は歴史的に見ても、独特の経緯を持って日本の食文化に取り入れられていった。栄養学的にも興味深い一面を持つと同時に、近年では食の周辺の様々な問題を抱えている。琉球時代からの沖縄の食を学ぶことで、食文化が外的な要因で変遷する経過をたどる。
	11	韓国の食文化	日本の隣国である韓国の料理について、その特徴と成り立ちを学ぶ。日本は、有史からあらゆる側面において中国文化の影響を大きく受けてきた。それらの大半は、隣国である韓国を通じてわが国にもたらされた。現在、韓国と日本の食文化には共通点も相違点もみられる。韓国の食文化を通じて、隣国の庶民文化の内容と特徴を学ぶ。
	12	中国の食文化	中国の食文化は、世界の食文化の中で最も古いものの一つで、その影響を受けた国はアジア全般にわたると言える。我が国も例外ではない。中国の現在の食の事情を知り、我が国との共通点、

	相違点などを学ぶ。 13 フランス料理とその食材 フランス料理は、ユネスコの無形文化遺産に食の分野では最初に登録された。その「美食文化」は、他国の文化を巧みに取り入れ、自国の食材と歴史的な背景の中で、文化として花開いたものである。それらはアジアの食文化と大きく異なる点が多い。とくに食材については、フランス国内での地域性が高く「地域の伝承料理」へのこだわりが見られる。これらについて学び、日本の食との相違を考える。 14 フランス料理のマナー 現在フランス料理は、世界的に見ても正式・公式の食事の際に用いられることが最も多い。フランス料理のマナーについて、具体的に学び、社会人としてすぐに役立てるスキルとして身につける。 15 ユネスコ無形文化遺産としての「和食」について 「和食」は、2013年12月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された。この内容を検討し、和食の伝統とは何かを示し、現実にはどのような問題点があるのかを学ぶ。また、将来に向けて自分たちが今後どのような意識を持ちつつ、食に接してゆく必要があるのか、考えてゆく。
学習成果・到達目標・基準	A：食に関する情報を日々の暮らしの中で考えることができる。 ○C：食事が、文化としてどのように変遷してきたかについて述べることができる。 ◎D：文献や資料を自ら検索し、食文化について知識を深めることができる。
事前・事後学習	事前学習：新聞、書物、テレビ、インターネット、地域の広報物などに記載されている食の情報をチェックする。また、次回の講義内容に関する予習課題に取り組む。（90分程度） 事後学習：興味のある食に関する情報に関して、資料をファイリングし、要約する。（90分程度）
指導方法	パワーポイント、DVDなど、毎回の授業内容に適した視覚資料を用いる。 フィードバックの仕方：①教員が立案した資料をプリントし、配布を行う②レポート提出（学生）③評価およびコメント④授業後の質疑応答 毎回の対面授業をzoomでライブ中継するので、オンライン授業の回ではそちらで受講すること。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：毎回の授業における授業態度を評価する（30%） C：授業内において発表を行い、レポートを提出する（20%） D：定期試験を行う（50%） 配布資料をファイリングし、授業に積極的に参加すること。定期試験・レポートの内容との総合評価により判定する。
テキスト	授業時に、教員が作成したプリントを配布する。これを保存しファイリングしてテキストとし、予習復習する。
参考書	『三訂フードコーディネーター論』（公社）日本フードスペシャリスト協会編 （建帛社）2013 『日本料理の歴史』 熊倉功 吉川弘文館 『和食とは何か』 江原絢子 熊倉功 思文閣出版
履修上の注意	普段から、自分自身の食べている食品や料理について、興味や関心を持つように心がける。 本学図書館にある、単行本・雑誌・辞書などで、食文化の授業中に習得したこと、疑問点などを調べ、自分なりに考察できるようにしておく。 遅刻・途中退出・私語・過度の居眠りなどは、授業の妨げになるので慎むこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
丸岡幸子			
ナンバリング：E22A06	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を再確認しながら、アウトプットに必要なスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきますが、スピーキングスキルを身につけて英語運用がスムーズにできるように毎回様々なトピックでスピーキング練習を行い、毎回の単語テストで単語力を身につけて行きます。また実社会に身近なトピックをもとに批判的思考力を身につけて行きます。英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身につけることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、250 words程度の正確な英語を話すことができる。		
授業計画	1	Introduction & Course description Unit 0: Learning goals and strategies	
	2	Unit 1: Have you two met? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Introductions: self and others	
	3	Unit 1: Have you two met? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Asking about family, interests & experiences	
	4	Unit 2: You must be excited! (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about emotions (vocabulary & examples)	
	5	Unit 2: You must be excited! (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about emotions (personal experiences)	
	6	Review & Fluency expansion (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion	
	7	Mid-term Review (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Mid-term Review	
	8	Unit 3: Where should I go? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Comparing and recommending places	
	9	Unit 3: Where should I go? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describing personal experiences	
	10	Unit 5: What' s your excuse? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Asking to borrow things, giving reasons, making excuses	
	11	Unit 6: What' s it like there? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about Japanese culture	
	12	Unit 6: What' s it like there? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describing cultural artifacts	
	13	Review & Fluency expansion (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion	
	14	Review & Fluency expansion (2) (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) Review & Fluency expansion	
	15	Review & Fluency expansion (3) (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) Review & Fluency expansion	
学習成果・到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、150words程度の分量で自分の意見を話すことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内の指示に従って実施すること。授業内で扱う単語や文法の予習。授業中実施するスピーキングプラクティス用の原稿を準備し、会話練習。(30分) 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習およびTOEICテキストの復習。(60分)		
指導方法	英語でのコミュニケーション(聞くこと、話すこと)に慣れるため、授業は原則英語で行います。単語力をつけることは英語力向上に最も重要な要素のひとつなので、毎回の授業で単語テストを実施します。また、英語で話すことに慣れるため、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを積極的		

	に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト/スピーキングプラクティスシート ②授業後における質疑応答 ③毎回の授業で行う自己評価シートでの振り返り
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト、小課題 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand (5th edition) Level 2 *with My MobileWorld, Mark Helgesen, et al., Pearson Education, 2018. A Shorter Course in TOEIC ® TEST LISTENING 550, 片野田浩子、Thian Whong, 南雲堂, 2019.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	積極的に授業に参加すること。また、毎回必ず辞書を持参すること（スマートフォンの使用は認めない）。詳細は授業中に指示します。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
丸岡幸子			
ナンバリング：E22A07	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を確認しながら、アウトプットに必要なスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきますが、スピーキングスキルを身につけ英語運用がスムーズにできるように毎回様々なトピックでスピーキング練習を行い、毎回の単語テストで単語力を身につけて行きます。また実社会に身近なトピックをもとに批判的思考力を身につけて行きます。英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身につけることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、350 words程度の正確な英語を話すことができる。		
授業計画	1	Unit 7 Do you remember when...? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describing past events	
	2	Unit 7 Do you remember when...? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about personal experiences	
	3	Unit 8: Let's have a get-together! (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Making requests	
	4	Unit 8: Let's have a get-together! (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Planning event & suggesting	
	5	Unit 9: What should I do? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about problems and solutions	
	6	Unit 9: What should I do? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Asking for & giving advice	
	7	Review & Fluency expansion (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion	
	8	Mid-term Review (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Mid-term Review	
	9	Unit 10: Tell me a story (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Storytelling & Narratives	
	10	Unit 11 In my opinion... (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Asking for & giving opinions	
	11	Unit 11 In my opinion... (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Forms for opinions and (dis)agreement	
	12	Unit 12 It's my dream! (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Making plans to achieve dreams	
	13	Review & Fluency expansion (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion	
	14	Review & Fluency expansion (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion	
	15	Review & Fluency expansion (3) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion	
学習成果・到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、210words程度の分量で自分の意見を話すことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内の指示に従って実施すること。授業内で扱う単語や文法の予習。授業中実施するスピーキングプラクティス用の原稿を準備し、会話練習。(30分) 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習およびTOEICテキストの復習。(60分)		
指導方法	英語でのコミュニケーション(聞くこと、話すこと)に慣れるため、授業は原則英語で行います。単語力をつけることは英語力向上に最も重要な要素のひとつなので、毎回の授業で単語テストを実施します。また、英語で話すことに慣れるため、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを積極的		

	に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト/スピーキングプラクティスシート ②授業後における質疑応答 ③毎回の授業で行う自己評価シートでの振り返り
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度、プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP（リスニングセクション） 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand (5th edition) Level 2 *with MyMobileWorld, Mark Helgesen, et. al, Pearson Education, 2018. A Shorter Course in TOEIC ® TEST LISTENING 550, 片野田浩子, Thian Whong, 南雲堂, 2019.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	積極的に授業に参加すること。また、毎回必ず辞書を持参すること（スマートフォンの使用は認めない）。詳細は授業中に指示します。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A08	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は英語でのコミュニケーション力、特に読むことと書くことの基礎を学ぶ授業です。たくさん読むことで文章に慣れ、書く練習をして行きます。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生に身近なテーマで批判的思考力を身につけながら読む力、書く力を養って行きます。また毎回のライティングプラクティスや単語テストで単語力を身につけて行きます。 (授業目標) ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。また日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて320 words程度の文章を書くことができる。		
授業計画	1	オリエンテーション 授業概略説明、ライティングプラクティスについて	
	2	Unit 1:The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas	
	3	Unit 1:The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing a Paragraph	
	4	Unit 1:The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Unity and Coherence	
	5	Unit 1:The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Timed Writing	
	6	Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas	
	7	Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Brainstorming and Outlining	
	8	Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas Editing/Stimulating Ideas	
	9	Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/ Timed Writing	
	10	Unit 3:Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas	
	11	Unit 3:Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Brainstorming and Outlining	
	12	Unit 3:Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas	
	13	Unit 3:Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Timed Writing	
	14	Reading and Writing Workshop 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Book Report	
	15	Reading and Writing Workshop 2 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Book Report	
学習成果・到達目標・基準	○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得し使用することができる。 ◎E：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて190 words程度の文章を書くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のライティングプラクティス用の原稿の準備をする。(45分) 事後学習：授業内で行ったリーディングの復習、単語テストやフレーズの復習を実施するのでその準備を行う。(30分)		
指導方法	英語で読むこと、書くことに慣れるため、たくさん読んでたくさん書くことをします。授業は原則英語で行いますが、時に日本語でも指導をします。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。また重要文法事項も復習して行きます。ディスカッション、グループワークを		

	積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト ②授業後における質疑対応 ③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。④ライティングの課題
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ◎E：ライティング課題、小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Effective Academic Writing. Alice Savage, Masoud Shafiei, Second Edition, Oxford University Press, 2012 TOEIC® TEST READING 650, R.Kimura, H. Katanoda, 南雲堂, 2017.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。毎回のライティングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。 課題の中にオンライン課題もあります。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A09	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は英語でのコミュニケーション力、特に読むことと書くことの基礎を学ぶ授業です。たくさん読むことで文章に慣れ、書く練習をして行きます。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生に身近なテーマで批判的思考力を身につけながら読む力、書く力を養って行きます。いくつかのライティングのテキストスタイルも学びます。また毎回のライティングブラクティスや単語テストで単語力を身につけて行きます。 (授業目標) ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。また日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて450 words程度の文章を書くことができる。		
授業計画	1	Unit 4:Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas	
	2	Unit 4:Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Brainstorming and Outlining	
	3	Unit 4:Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas	
	4	Unit 4:Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Time Writing	
	5	Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas	
	6	Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Brainstorming and Outlining	
	7	Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas	
	8	Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Time Writing	
	9	Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas	
	10	Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Brainstorming and Outlining	
	11	Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas	
	12	Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Time Writing	
	13	Reading and Writing Workshop 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Writing: Summarizing	
	14	Reading and Writing Workshop 2 (グループワーク、ディスカッション) Writing: Lunch Box Activity	
	15	Reading and Writing Workshop 3 Writing and Sharing: Lunch Box Activity	
学習成果・到達目標・基準	○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得し使用することができる。 ◎E：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて 270 words程度の文章を書くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のライティングブラクティス用の原稿の準備をする。新聞を読むこと (45分) 事後学習：授業内で行ったリーディングの復習、単語テストやフレーズの復習を実施するのでその準備を行う。(30分)		
指導方法	英語で読むこと、書くことに慣れるため、たくさん読んでたくさん書くことをします。授業は原則英語で行いますが、時に日本語でも指導をします。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。また重要文法事項も復習して行きます。スピーチ、ディスカッション、グループワークを積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト ②授業後における質疑対応 ③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。④ライティングの課題		

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ◎E：ライティング課題、小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEICテスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Effective Academic Writing. Alice Savage, Masoud Shafiei, Second Edition, Oxford University Press, 2012 TOEIC® TEST READING 650, R. Kimura, H. Katanoda, 南雲堂, 2017.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。毎回のライティングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択必修
担当教員			
幡鎌博			
ナンバリング：E26C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	コンピューターやインターネットなど、ICT（情報通信技術）は我々の生活に欠かすことのできない存在である。この授業では、現在社会におけるICTの役割を学び、企業における経営戦略にどのように結びついているかを学ぶ。その後、情報システム開発における様々な手法を学習する。また、情報に関する法令や財務知識の基礎も本授業の学習範囲である。 (授業目標) ◎D：経営戦略とシステム開発について学び、ITパスポート試験ストラテジ分野及びマネジメント分野における用語等の解説や計算ができる。		
授業計画	1	ガイダンス／ストラテジ（1）(Google Classroom：事後学習資料) ・ガイダンス ・財務諸表	
	2	ストラテジ（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・売上・利益とその他	
	3	ストラテジ（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・知的財産権	
	4	ストラテジ（4）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・セキュリティ関連法規 ・労働関連・取引関連法規	
	5	ストラテジ（5）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・業務分析手法と標準化	
	6	ストラテジ（6）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・企業活動と組織論 ・企業統治と内部統制	
	7	ストラテジ（7）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・経営戦略手法 ・マーケティング戦略	
	8	ストラテジ（8）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・技術戦略 ・業績評価と経営管理システム	
	9	ストラテジ（9）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ビジネスシステムとエンジニアリング ・e ビジネス ・第4次産業革命と人工知能	
	10	ストラテジ（10）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・IoTと組み込みシステム ・情報システム戦略と業務プロセス	
	11	ストラテジ（11）及びストラテジまとめ (Google Form：ITパスポート過去問と解説) ・ソリューションビジネスとシステム活用促進 ・ストラテジ分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座	
	12	マネジメント（1）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・企画・要件定義と調達 ・システム開発とソフトウェアの見積り ・テスト手法と運用・保守	
	13	マネジメント（2）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ソフトウェア開発技法 ・プロジェクトマネジメント ・工程管理（1）	
	14	マネジメント（3）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・工程管理（2） ・ITサービスマネジメント ・システム監査	
	15	マネジメント分野まとめと全体のまとめ (Google Form：ITパスポート過去問と解説) ・マネジメント分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座 (Google Form:ITパスポート過去問と解説) ・全体のまとめ	
学習成果・到達目標・基準	◎D：企業組織、財務など、経営全般に関する重要な基礎用語を説明できる。またシステム開発の流れを知り、基本的な業務を説明できる。		

事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。テキストを利用するか、Google Classroomに次の範囲の授業ノートが公開されるので、これらを用いた準備を行うと良い(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：ITパスポートのストラテジ分野及びマネジメント分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、定期試験 50%とする。
テキスト	令和04年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習、情報処理論Aのテキスト(令和03年版)を購入している場合、その利用も認める
参考書	令和04年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル(技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト

講義科目名称： ネットワークとセキュリティ

授業コード： 2551 2552

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
幡鎌博			
ナンバリング：E26C40	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の情報社会の基盤となっているネットワーク技術とセキュリティ技術を学ぶ授業である。ネットワーク技術については、室内レベルのネットワークからインターネットまで幅広く仕組みと問題点を学ぶ。セキュリティについては様々な問題、事例を学んだ後、主な対処法を身に着ける。また、ここで得た知識を活かした資格取得の方法も授業内で扱う。 (授業目標) ◎D：ITパスポート試験テクノロジー分野に相当するレベルでネットワーク、セキュリティの用語等の解説と計算ができる。		
授業計画	1	ガイダンス／システム構成（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・授業概要 ・コンピュータの処理形態と利用形態	
	2	システム構成（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・システム構成 ・稼働率（１）	
	3	システム構成（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・稼働率（２） ・システムの評価	
	4	ネットワーク（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・ネットワーク方式 ・無線LAN	
	5	ネットワーク（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・通信プロトコル ・インターネットの仕組み	
	6	ネットワーク（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・通信サービス ・Webページの閲覧・検索	
	7	ネットワーク（４）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・電子メール	
	8	ネットワーク（５）(Google Form：ITパスポート過去問と解説)	
		・ネットワークに関するITパスポート過去問解説	
	9	セキュリティ（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・情報資産とマルウェア ・サイバー攻撃	
	10	セキュリティ（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・情報セキュリティ管理 ・利用者認証と生体認証	
	11	セキュリティ（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・ネットワークセキュリティ ・暗号化技術（１）	
	12	セキュリティ（４）(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・暗号化技術（２） ・デジタル署名	
	13	セキュリティ（５）(Google Form：ITパスポート過去問と解説)	
		・セキュリティに関するITパスポート過去問解説	
	14	アルゴリズムとプログラミング(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・プログラミングとデータ構造 ・プログラミング言語とマークアップ言語	
	15	ユーザインターフェース(Google Classroom：事前・事後学習資料)	
		・疑似言語（テキストの付録） ・ユーザインターフェース ・全体のまとめ	
学習成果・到達目標・基準	◎D：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ネットワーク、セキュリティに関する主要な用語の説明ができる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)		

指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:ITパスポートのテクノロジー分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、定期試験 50%とする。
テキスト	令和04年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※「コンピュータテクノロジー」と同じテキストを使用する
参考書	令和04年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「コンピュータテクノロジー」および2年次開講の「経営管理」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E26C42	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	世の中のアプリケーションは、それぞれ適切なプログラミング言語で作成されている。例えば、Java言語によるスマホアプリやPC用のソフトウェア開発がその一例である。本授業ではロボットPepperの制御をテーマにプログラミングを学ぶ。ここではJavaなどの命令をキーボード入力していくタイプのプログラミング言語ではなく、グラフィカルなプログラミング言語Scratchをベースとしたロボット用プログラミング言語RoboBlocksを用いる。 (授業目標) ◎ E：RoboBlocksを用いて、Pepperとの受け答えをスムーズに行うプログラミングを行うことができる。		
授業計画	1	ガイダンス ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認 ・人間とロボットについて考える	2 プログラミング導入（1）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・Pepperにしゃべらせる ・Pepperを動かす ・しゃべらせると同時に動かす 3 プログラミング導入（2）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・タッチセンサーを使う ・音センサーで会話を行う 4 プログラミング導入（3）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・絵を表示させる ・グループ発表の準備 5 発表（1）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う 6 プログラミング実践（1）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・音を再生させる ・音の方向と人間の顔を追跡させる 7 プログラミング実践（2）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・目のLEDを制御する ・同じ動作を繰り返す 8 プログラミング実践（3）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・ランダムで動きを変える ・変数を使う 9 プログラミング実践（4）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・プログラムの効率化を行う 10 プログラミング実践（5）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・自然な会話を作る 11 発表（2）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・人間とロボット共同での発表を行う 12 プログラミング実践（6）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・ディスプレイのタッチ機能を使う ・センサーを用いてデータを収集する 13 プログラミング実践（7）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・アンケートを作り調査する 14 プログラミング実践（8）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・グループ発表の準備 15 発表（3）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う
学習成果・到達目標・基準	◎ E：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理をPepperに実行させることができる。		
事前・事後学習	プログラミングに先立って、日々現れるAI関連のニュースについて扱うため、日ごろからニュースをよく見て、ノートにまとめておくこと。（30分）		

	授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。また、自宅からでもプログラミングは可能なため、授業後にプログラム上の不備があれば、修正しておくこと。(30分)
指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。 質問は随時受け付ける。 フィードバックの方法：通常回では、各学生PC上のエミュレータでプログラムが正常に動作しているかを評価し、結果をその場で学生に伝える。発表の回では、全学生が聞いている中での評価とアドバイスを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：Pepperの動作を各学生機のエミュレータ上で評価する。また個人あるいはグループの発表内容で評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題(発表)60パーセント の割合で成績評価を行う。
テキスト	独自の資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	自宅のPCでRobo Blocksが動作することが履修上の必須条件となるため、履修登録前に必ず自宅環境での動作を確認すること。 また毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E26B48	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んで良い。 またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にとすること。 (授業目標) ◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。 ○E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。		
授業計画	1	ガイダンス	・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。
	2	グループテーマの設定	・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。
		※以下、「芝公園周辺を海外の人たちにアピールする動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す	
	3	コンテンツの検討	・芝公園の何をアピールするのか、どこに取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。
	4	コンテの作成と取材の計画(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。
	5	コンテの作成と翻訳(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。
	6	コンテの作成と翻訳(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。
	7	内部レビュー(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・ここまでの計画と成果物(ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。
	8	取材(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・インタビューや撮影を行う。初日。
	9	取材(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・インタビューや撮影を行う。二日目。
	10	動画作成の準備(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・取材結果をまとめ、動画に必要な文章(台本やキャプション)にする。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。
	11	動画作成の準備(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・取材結果をまとめ、動画に必要な文章(台本やキャプション)にする。 ・有識者の英訳のチェックが必要であれば、このタイミングで完了させると良い。
	12	動画作成(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。
	13	動画作成(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。
	14	動画と発表台本の作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	

	・動画を完成させる。 ・最終成果発表用の台本を作成する。 最終成果発表(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎A:実現可能な計画を立てることができる。 ○E:自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習:次回およびそれ以降の活動計画を作成する。(30分) 事後学習:授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。(30分) また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法:授業冒頭に毎回行う進捗報告にコメントする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A:計画書と達成状況を評価する。 ○E:最終成果の報告(最終日に実施する成果報告)を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション(成果発表)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E36C49	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマは自分たちで企画した内容について企業や店舗へ連絡を取り、連携できるような活動を設定する。その内容はこれまでに学んだ授業の延長線にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。1年次にプロジェクト実習Aを履修していた学生は、当時のテーマの発展テーマを扱うことで、より高度な学修ができる。またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にする。 (授業目標) ◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。グループ内での役割分担を行い、相互の情報共有に基づいた適切な進捗管理を行うことができる。進捗管理を行うことで問題の発生を事前に気づき、担当教員に相談することができる。 ○E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。
授業計画	1 ガイダンス ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 2 グループテーマの設定 ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 ※以下、「3Dホログラムによる実在人物の立体動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す 3 コンテンツの検討とスケジュールリング ・なにを3Dホログラムで表現するのか、そのためには何が必要なのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。全15回のスケジュールを完成させる。 4 3Dホログラム用の静止画撮影(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・プロトタイプとして静止画でのホログラムを作成。 ・スマートフォンで静止画撮影。 ・スマートフォンによる試験投影。 5 動画撮影(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・撮影ブースで人物の動画を撮影する。 6 動画撮影(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・前回の動画の問題点を解決する。画質の悪さ、明るさ、人物の着用する衣服の色などを変更する。 7 動画撮影(3)／グラフィックのテスト作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・前回までの試作を参考に、より大きな動きでの動画を撮影する。 ・GIFによるグラフィックによるアニメーションを試作する。 8 動画撮影(4)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・引き続き、動画の撮影。 ・撮影された動画の背景処理を行う方法を学習する。 9 動画編集(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・撮影された動画の背景処理を行う。 10 動画撮影(5)／動画編集(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・前回の背景処理の結果を踏まえ、より処理のしやすい動画の撮影方法を考察し実施する。 ・撮影された動画の背景処理を行う。 11 動画編集(3)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・撮影された動画の背景処理を行う。 ・背景処理を行った動画をスマートフォン用書き出す。 12 動画編集(3)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・Windows、Mac、Android、iPhone、それぞれの環境に適したファイル形式を研究する。 ・より高度な編集のため、アプリケーションの学習を行う。 13 動画編集(4)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・最終版の動画編集を行う。

	14 動画編集（５）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）(Google Classroom:進捗報告) (各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・引き続き最終版の動画編集を行う。 15 最終成果発表(プレゼンテーション:最終成果物を発表する) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎A：実現可能な計画を立てることができる。企業に協力を依頼し、実現できる。 ○E：グループ内で適切な分担を行い、助けあいながら目標を達成することができる。自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（30分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。進捗報告では前回の成果も明確にする必要がある。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動をしていただきたい。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスをを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：計画書と達成状況を評価する。 ○E：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション（成果発表）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E36C50	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んで良い。 またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にとすること。 (授業目標) ◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。 ○E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。		
授業計画	1	ガイダンス	・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。
	2	グループテーマの設定	・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。
		※以下、「短大進学を検討している高校生へ戸板女子短期大学をアピールする動画制作」をテーマとした場合の計画を示す	
	3	コンテンツの検討	・戸板女子短期大学の何をアピールするのか、どこに、誰に取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。
	4	コンテの作成と取材の計画(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。
	5	コンテの作成と翻訳(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ナレーションやキャプションについても文字に起こして検討する。
	6	コンテの作成と翻訳(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。
	7	内部レビュー(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・ここまでの計画と成果物(ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。
	8	取材(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・インタビューや撮影を行う。初日。
	9	取材(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・インタビューや撮影を行う。二日目。
	10	動画作成の準備(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・取材結果をまとめ、動画に必要な文章(台本やキャプション)にする。
	11	動画作成の準備(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・取材結果をまとめ、動画に必要な文章(台本やキャプション)にする。
	12	動画作成(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。
	13	動画作成(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。
	14	動画と発表台本の作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)	・動画を完成させる。

	15 ・最終成果発表用の台本を作成する。 最終成果発表(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎A:実現可能な計画を立てることができる。 ◎E:自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習:次回およびそれ以降の活動計画を作成する。(30分) 事後学習:授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。(30分) また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。 近年、動画を制作のグループがほぼ全てを占めるようになったため、必ずおさえておきたいポイントについては、教科書を用いて指導する。ただし、全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法:授業冒頭に毎回行う進捗報告にコメントする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A:計画書と達成状況を評価する。 ◎E:最終成果の報告(最終日に実施する成果報告)を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	(仮)『YouTube企業動画担当になったら これだけは知りたいマーケティング&プロデュースの基本』技術評論社 押切孝雄(2022年4月 刊行予定) また、授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、Google Classroomや教員からのメールで知らせるので、Google Classroomやメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション(成果発表)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E37C54	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Webコンテンツ、映像コンテンツ、書籍といったコンテンツ・情報を制作し流通させるビジネスをコンテンツビジネスという。 コンテンツビジネスは日本が世界と競争できる分野であるとされるが、競争に勝つためには現在の強みと弱み、グローバル化のために何が必要かを知る必要がある。 本授業では政府資料と最新のニュース、その他様々なメディアを流れる情報や思想を読み取ることで、国内外のコンテンツビジネスの現在と今後を考える。これまでに身に付けてきた異文化理解力とICT知識の総合的な力を必要とする授業である。 (授業目標) ◎D：日本文化が世界に与えている影響を市場別に説明することができる。ICTの進歩による今後のビジネスの構造の変化を考察できる。		
授業計画	1	ガイダンス ・授業の目標と進め方 ・最終課題のテーマ発表	
	2	コンテンツ産業 (Google Classroom: ノート作成) ・コンテンツとは何か ・コンテンツ業界の市場構造 ・コンテンツ業界の市場規模 ・デジタルコンテンツの市場規模	
	3	日本コンテンツの海外進出 (Google Classroom: ノート作成) ・クールジャパン政策 ・ローカライズ ・ジャパンプランドとコラボレーション	
	4	音楽業界 (Google Classroom: ノート作成) (Google Form: アンケートと集計・分析のフィードバック) ・音楽業界の市場構造 ・パッケージ型と配信型 ・環境変化の中におけるレコード会社の戦略 ・音楽出版社とは ・音楽コンサート市場	
	5	放送業界 (Google Classroom: ノート作成) (Google Form: アンケートと集計・分析のフィードバック) ・放送業界の市場構造 ・民間放送局のビジネスモデル ・国営放送局のビジネスモデル ・テレビ視聴者の変化 ・動画配信サービス	
	6	映画業界 (Google Classroom: ノート作成) (Google Form: アンケートと集計・分析のフィードバック) ・映画業界の市場構造 ・映画の興行収入 ・マルチウインドウ戦略 ・映画製作委員会の一般化 ・ビデオソフト業界の変化	
	7	キャラクタービジネス (Google Classroom: ノート作成) ・キャラクタービジネスと他のコンテンツビジネスの関係 ・コンテンツと地域振興 (ゆるキャラ)	
	8	ゲーム業界 (1) (Google Classroom: ノート作成) (Google Form: アンケートと集計・分析のフィードバック) ・ゲーム業界の市場構造 ・拡大するオンラインゲーム市場 ・スマホゲームと家庭用ゲーム ・ゲーム内課金とコンプガチャ問題	
	9	ゲーム業界 (2) (Google Classroom: ノート作成) ・ゲームの歴史と文化 ・大手ゲームメーカーの現状 ・Eスポーツ	
	10	アニメーション業界 (1) (Google Classroom: ノート作成) (Google Form: アンケートと集計・分析のフィードバック) ・アニメーション業界の市場規模 ・拡大する日本アニメの海外市場	
	11	アニメーション業界 (2) (Google Classroom: ノート作成) ・アニメーションの歴史 ・初期のビジネスモデルと現在のビジネスモデル	

	12 ・クールジャパンと地域貢献 - アニメーション業界（3）／コミック（漫画）業界（Google Classroom:ノート作成） ・紙の漫画市場 ・いまだ人気作品を生み続ける漫画雑誌 ・漫画アプリ ・アニメ配信ビジネス 13 - ウェブ・コンテンツ業界（Google Classroom:ノート作成） ・ウェブ・コンテンツ業界の市場構造 ・ウェブ・コンテンツ業界の代表的なビジネスモデル ・電子書籍サービスの動き ・インターネット広告 14 - モバイル・コンテンツ業界（Google Classroom:ノート作成） ・モバイルコンテンツ市場の現状 ・SNS毎に異なる利用者のタイプ ・ビッグデータと行動ターゲティング広告 15 - コンテンツと著作権（Google Classroom:ノート作成） ・コンテンツ産業と著作権ビジネス ・財産権としての著作権
学習成果・到達目標・基準	◎D：様々なビジネスの構造を理解することで、社会人として必要な基本的なビジネス知識を身につけ、それらについて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(60分) 事後学習：毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(120分)
指導方法	オンデマンド（動画配信）による講義形式の授業である。 講義形式の授業だが、授業内で受講者対象のアンケートをGoogle Formで実施し、市場一般の統計情報と比較するなど、PCを使用する機会が多い。またPCによるキーボードタイピングでのノート作成を推奨する。 フィードバックの方法：課題へのコメントの他、アンケートの集計結果の公開などもGoogle Classroomで行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	試験とレポートで評価する。レポートは単元ごとに提出する。 ◎D：提出されたレポートと試験でコンテンツビジネスの理解度を評価する。 授業態度20%、課題30%、定期試験50%
テキスト	最新コンテンツ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第4版]（秀和システム）
参考書	コンテンツ産業の現状と今後の発展の方向性（一般財団法人デジタルコンテンツ協会） 最新アニメ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第2版]（秀和システム）
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラーニング	Google Formによるアンケートと、集計結果を用いた講義

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E210C68	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTを活用した一般企業でのオフィスワークを志望進路とする学生のためのゼミである。一年後期に引き続き、志望進路に向けた準備を行う。1年次に行った自己分析結果を基にした書類の作成、業界研究、企業研究、自己分析結果と企業研究結果のマッチング、進路面談などのカウンセリングを実施する。 (授業目標) ◎A：希望進路に向けての就活を実施し、終了することができる。		
授業計画	1	キックオフ・オリエンテーション ・ゼミの進め方と特徴の確認。	
	2	進路面談、就職活動カウンセリング（1）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。	
	3	進路面談、就職活動カウンセリング（2）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。	
	4	提出書類対策（1）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	5	提出書類対策（2）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	6	提出書類対策（3）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	7	提出書類対策（4）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	8	進路面談、就職活動カウンセリング（3）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	9	進路面談、就職活動カウンセリング（4）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	10	グループディスカッション（1）（Zoom：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	11	グループディスカッション（2）（Zoom：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	12	進路面談、就職活動カウンセリング（5）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	13	進路面談、就職活動カウンセリング（6）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	14	進路面談、就職活動カウンセリング（7）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレ	

	ビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 進路面談、就職活動カウンセリング（８）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。
学習成果・到達目標・基準	◎A：希望進路に向けて、いつまでになにを準備すべきか計画し実行できる。
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。まとめた内容はクラウド上に保存し、いつでもスマートフォンやPCで参照できるようにする。（30分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（30分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはGoogle Classroom上に就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法：面談の際に個別に指導を行う。メールによる個別のフィードバックも併用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：個別面談、就活ノート、グループディスカッションで評価する 平常点（授業への貢献度・積極性）30% 課題（就活ノート、グループディスカッション）30% 最終課題（面談。教員が就活ノートを参照しつつ実施）40%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではなく、人とのコミュニケーションも非常に重視される。本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

講義科目名称： キャリアゼミ： ICT・データサイエンスゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E110A65	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTを活用したオフィスワークを希望する学生のためのゼミである。目標とする進路はIT企業のみではなく様々な業界、企業を想定している。 進路目標を設定するための業界研究と併行して、エントリーシートや面接に必要な自分自身のエピソードを分析・整理する。またSPI対策も行う。 本ゼミでは特に自己分析を重視し、1年次終了までにエントリーシート、履歴書、面接に対応できる自己分析を完了することを目標とする。 (授業目標) ◎D：希望業界に関する知識や理解を深め、エントリーシート上に、自己分析結果に基づいた表現ができる。 ○E：自己分析によって掘り下げた自分の価値を他者にアピールできる。		
授業計画	1	キックオフ・オリエンテーション ・ゼミの進め方と特徴の確認。	
	2	目標設定 ・現時点での自分の進路目標を整理する。	
	3	自己PR：エントリーシートとは ・エントリーシートとは何かを理解し、必要な自己PRについて学ぶ。	
	4	進路面談：就活ノート作成(Google Classroom：自己分析ノートを記述) ・個別面談による進路相談を行う。また就活ノートを作成する。	
	5	自己分析と業界研究(Google Classroom：自己分析ノートを記述) ・自分の特性と希望業界の確認と研究をする。	
	6	SPI対策（１） ・SPIおよびCAB対策の学習方法を学ぶ。	
	7	キャリア講座（キャリアセンター） ・金融・広告・IT業界の概要を学ぶ。	
	8	SPI対策（２） ・過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。	
	9	進路面談：就活ノートレビュー(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・就活ノートを参考に面談を受ける。	
	10	グループディスカッション（１）（Zoom：グループディスカッション） ・就職活動で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	11	内定者交流会(キャリアセンター) ・VTRや経験談から集団面接の実態を学ぶ。 ・内定者の体験談から個別面接での対応や、就活全体の心構えを学ぶ。	
	12	英語資格試験講座 ・過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。	
	13	グループディスカッション（２）（Zoom：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	14	進路面談（１）(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。	
	15	進路面談（２）(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：希望業界の特徴を説明することができる。 ○E：自己分析を行い、文章化できる。		
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。（30分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（30分）		
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。グループディスカッションは授業内で全員にわかるようにアドバイスを行う。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題で評価する。 ○E：課題で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）30% 課題（グループディスカッション、自己分析シート、業界研究）30% 最終課題（教員が提出された課題を参照しつつ面談を実施）40%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室も変わる場合があるため注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E210C67	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一年後期に引き続き、ホテル・ツーリズム業界についての知識を深める。また、自己PR力を養うため、専任教員またはゲスト講師がゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 (授業目標) C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、適切に判断して行動することができる。 ◎D：就職活動に必要な書類の記入方法を学び、ホテル・ツーリズム業界についてより深く理解する。 ○E：ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格等を取得する。		
授業計画	1	オリエンテーション・現状報告（プレゼンテーション） グループに分かれて就活状況を報告する。	
	2	ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成 1（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。	
	3	ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成 2（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。	
	4	ホテル・ツーリズム業界へのエントリー用紙作成指導（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界就職のためのエントリーシートの作成方法を学ぶ。	
	5	ホテル・ツーリズム業界志望者のための自己分析・自己PR指導（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界就職のための自己分析と自己PRの書き方を学ぶ。	
	6	ホテル・ツーリズム業界志望者のための面接指導（グループワーク） ホテル・ツーリズム業界就職に向けてグループ面接・グループディスカッション・個別面接対策を行う。	
	7	ホテル・ツーリズム業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策 1（グループワーク） ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。	
	8	ホテル・ツーリズム業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策 2（グループワーク） ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。	
	9	ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング 1 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。	
	10	ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング 2 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。	
	11	ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング 3 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。	
	12	ホテル・ツーリズム業界研究 1（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界で働くために身につけておくべき知識を学ぶ。	
	13	ホテル・ツーリズム業界研究 2（グループワーク） グループに分かれて業界研究を行う。	
	14	ホテル・ツーリズム業界研究 3（グループワーク） グループに分かれて業界研究を行う。	
	15	プレゼンテーション（プレゼンテーション） グループに分かれて、一人5分程度のプレゼンを行う。	
学習成果・到達目標・基準	C：グループディスカッションでの全体像を把握しつつ、自分の役割を意識して参加することができる。 ◎D：ホテル・ツーリズム業界の企業研究を適切に行うことができる。 ○E：ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格の対策を講じることができる。		
事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）		
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：グループディスカッションでの役割を理解し、その場に応じて行動しているかどうかを評価する。 ◎D：業界研究ノートで評価する。 ○E：ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格試験の結果で評価する。		

	授業への貢献度：30% 課題・資格取得：40% プレゼンテーション：30%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹、有田りな			
ナンバリング：E24C29	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	空港業務の中で特にエアライン業界の顔ともいえるキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解し、その業務に必要な知識を身に着ける。またホスピタリティ産業の一員として、業務を遂行する上での立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣いなど航空業界、空港業務で活躍できる人材となるために必要な接遇を学ぶ。 (授業目標) ◎C：企業理念に合わせた自分の強みをまとめる力を身につける。 ○D：空港業務はどのような職種があるかを理解する。		
授業計画	1	エアラインビジネスのCA・GSとは エアラインビジネスのカスタマーサービス部門の仕事について	
	2	空港旅客サービスの基礎知識 グランドスタッフの業務を理解する	
	3	客室業務基礎知識 客室乗務員の業務を理解する	
	4	企業理念研究（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） エアラインの企業理念を学び、その理念がCA・GS業務にどう影響しているかを理解する	
	5	企業理念と自己理解（プレゼンテーション：企業理念に合わせた自分の強み） 企業理念と自分の強み、志望動機をプレゼンテーションする	
	6	表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） CA・GSの業務から表現力を学ぶ	
	7	航空旅客業務：搭乗手続 旅券・査証・その他出入国書類の確認、航空券記載内容確認、座席指定と搭乗券発行など	
	8	航空旅客業務：搭乗手続きに関連して必要な業務知識 出国手続き、予約・発券業務、団体の搭乗手続き	
	9	航空旅客業務：空港旅客サービス顧客サポート ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務	
	10	航空旅客業務：到着時の業務とトラブル対応 到着案内業務、受託手荷物サービス業務、出発時・到着時のトラブル対応	
	11	旅客送迎サービス業務の概要 旅客送迎サービス業務についてと旅客送迎サービスの基本的な心構え	
	12	旅客送迎サービスの業務内容 出発時の旅客送迎サービス業務の事前準備、空港オフィス出発から業務終了まで	
	13	空港における旅客業務のポイント：ホスピタリティ産業の一員としての基本的な心構え（グループワーク：ロールプレイ形式） 空港における旅行業務のポイント、ホスピタリティー産業の一員としての基本的な心	
	14	空港における旅客業務のポイント：身だしなみ、基本動作（グループワーク：ロールプレイ形式） ホスピタリティー産業のプロとしての身だしなみと基本動作	
	15	空港における旅客業務のポイント：接客の言葉遣い（グループワーク：ロールプレイ形式） 挨拶、基本接客用語、敬語、言葉遣い	
学習成果・到達目標・基準	◎C：企業理念に合わせた自分の強みをまとめて1分のプレゼンテーションができる。 ○D：空港業務はどのような職種があるかを具体的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：航空会社の企業研究をおこなう（60分） 自分自身を見つめ、自分の強み、航空会社などへの志望動機をまとめる（60分） 事後学習：キャビンアテンダント、グランドスタッフ、空港の業務について復習する。（60分）		
指導方法	適宜資料（プリント）を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、指導してもらう予定。 フィードバックの方法：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：企業理念に合わせた自分の強みをまとめた1分のプレゼンテーションを評価する。 ○D：空港業務の職種と業務を具体的に説明する定期試験の記述解答を評価する。 定期テスト（30%）、グループワーク参加貢献度（50%）、習熟度課題（20%）
テキスト	授業資料（プリント等）を適宜配布する。（テキストは特に指定しない）
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C32	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ホテル、観光に関連する様々な観光産業を取り上げ、それぞれのホテル・ツーリズム産業がどのように形成され、どのようなビジネスモデルで発展してきたかについて具体的にみていくことにより、ホテル・ツーリズム産業の成り立ちを学ぶ。合わせてホテル・ツーリズム産業がおこなっている取り組みを知ることにより、それぞれの業界・産業業務内容を理解する。また世界遺産にも焦点を当て、その基本情報、地理、歴史的背景などの特徴を理解し、認定された経緯、理由などを考察する。 (授業目標) ホテル・ツーリズム産業の様々な業種の特徴を理解する。 ○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について考察できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を身に付ける。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を理解する。 ◎D：世界遺産の基礎知識と、日本の世界遺産についてまとめ、理解する。		
授業計画	1	ホテルツーリズムスタディーズ（課題解決型学習：身近な地域のホテル、観光名所の魅力と問題点） 授業全体の概要と、各自の育った地域の魅力、その地域にあるホテル、観光名所について考える。	
	2	日本における宿泊施設・観光の変遷（古代～太平洋戦争前） 日本の宿泊施設、観光はどのようにして成り立ってきたかを古代から太平洋戦争前までの時代を振り返る。	
	3	日本における宿泊施設・観光の変遷（戦後の昭和～現在） 戦後の日本の宿泊施設・観光のホテルブーム、観光ブームと共に振り返る。	
	4	欧米における宿泊施設・観光の変遷 欧米の宿泊施設、観光の成り立ちを時代ごとに区分し振り返る。	
	5	世界遺産（ゲスト講師） 世界遺産の基礎知識、日本国内の世界遺産について知識を深める。	
	6	ホテル客室のカテゴリーと種類 ホテルの格付け、ルームタイプ、宿泊施設の種類などを理解する。	
	7	世界の代表的な料理など フランスのコースメニュー、西洋料理、中華料理などの知識をつける。また肉料理、魚料理などの調理法についても学ぶ。	
	8	日本料理と種類 日本料理の種類と郷土料理に合わせ調理法について知識をつける。	
	9	英国流ホテルのおもてなし（ゲスト講師） イギリスのホテルを例としたおもてなし術について理解する。	
	10	日本の世界遺産 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産について	
	11	日本国内の世界遺産個別発表①（プレゼンテーション）（ICTの活用：スマートフォン あるいはタブレットPC） 学生がそれぞれ調べた世界遺産についてのプレゼンテーション	
	12	日本国内の世界遺産個別発表②（プレゼンテーション）（ICTの活用：スマートフォン あるいはタブレットPC） 学生がそれぞれ調べた世界遺産についてのプレゼンテーション	
	13	ホテルの組織 ホテルの組織とその特徴について	
	14	ホテルの部門別業務内容 ホテルの各部門音役割と業務内容	
	15	ホテル・ツーリズム産業：「旅行業者」 旅行業者の営業形態と販売形態、カウンター業務の仕事	
学習成果・到達目標・基準	○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について説明できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を説明できる。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産に区分できる。また日本の世界遺産についてまとめ、人前でプレゼンテーションできる		
事前・事後学習	事前学習： 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産それぞれの特徴を調べ、プレゼンテーションできるように準備する（60分） ホテル・ツーリズム産業について、どのような産業なのか、どのような業務があるか調べる（60分）		

	事後学習 授業で配布したレジメを参照し、授業内で取り上げたホテル・ツーリズム産業の業務についてまとめる（60分）
指導方法	授業資料(プリント)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するDVD等、視聴覚資料を利用し授業を行う。また毎回数名に担当する日本国内の世界遺産についてプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションをしてもらう。 フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。課題解決型学習については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴についての考察レポートを評価する。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識の理解度など小レポート提出・定期試験を評価する。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産の区分など定期試験を評価する。また日本の世界遺産についてまとめたプレゼンテーションを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2018）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 一般財団法人日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	「ホテルツーリズムスタディーズ」の受講生は、後期に「ホテルスタディーズA」、「ツーリズムスタディーズA」を受講することが望ましい。 ホテル・ツーリズム産業の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ホテルの基本的な性格、ホテルの構成要素、日本、欧米の歴史的変遷など様々な角度から、ホテルビジネスの概論にアプローチし、ホテルビジネスの特色や特徴とホテルビジネスのベースとなる専門用語ならびに知識を学ぶ。合わせて事業部門ごとにホテル業務概要を把握し、ホテル業務を経営と運営の両面からアプローチし、理解力と実践力を身につける。またホテル運営側と顧客の視点から、ホテル業務に対し理解を深める。 (授業目標) ◎C：ホテルビジネスを基礎知識を理解し、ホテルのコンセプト、特徴を考察する。 ○D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルビジネスの経営理論を理解する。		
授業計画	1	宿泊施設の区分とホテルの定義 ホテルとは何か、その語源、基本的な性格、法律上の位置づけなど	
	2	ホテルの構成要素 ホテルが提供する商品の構成要素	
	3	ホテルの分類（グループワーク：資本系列、経営形態などにホテルを分類） 立地・機能、資本系列、経営形態など観点からホテルを分類	
	4	日本における宿泊業の歴史 時代ごとの日本の宿泊業の歴史を概観	
	5	欧米における宿泊業の歴史 現代のホテル業は、どのように形成されてきたのか	
	6	ホテル客室のカテゴリーと種類 客室の種類、設備やホテルの料金制度の基礎知識	
	7	ホテルのアメニティグッズ（グループワーク：ホテルアメニティについてグループごとにまとめる） ホテルで提供されるアメニティグッズの必要性和、どのようなアメニティであれば顧客に喜ばれるかについて、グループで話し合いまとめる	
	8	ホテル実務の基礎（実習：挨拶、言葉遣いなど） ホテル実務に必要な業務知識	
	9	宿泊部門の業務：フロント・ オフィス課 ・ホテルにおける宿泊部門の位置づけ、役割 ・客室予約、レセプション、電話オペレーターの業務	
	10	宿泊部門の業務：フロント・ サービス課 ・フロント・サービス課の業務 ・ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、ゲストリレーションズの業務	
	11	宿泊部門の業務：客室課 ・客室科の業務 ・客室サービス、ハウス・マン、リネン、ルーム・アテンダントの業務	
	12	テーブルセッティング①（実習：テーブルセッティング、サービス方法を実践練習） ・テーブルセッティング（イギリス式とフランス式） ・食器・リネン・備品の知識	
	13	テーブルセッティング②（実習：テーブルセッティング、サービス方法を実践練習） ・サービスの基本 ・レストランサービス	
	14	東京都のホテル調査発表（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） 都内の外資系ホテルをSWOT分析の観点から調べ、SWOT分析の結果からホテルの評価と課題について発表する	
	15	東京都の外資系ホテル調査発表（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） 都内の外資系ホテルをSWOT分析の観点から調べ、SWOT分析の結果からホテルの評価と課題について発表する	
学習成果・到達目標・基準	◎C：都内にあるホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明できる。 ○D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類ができる。		
事前・事後学習	事前学習 都内のホテルのホームページにアクセスし、ホテルのイベントについて調べる（60分） 世界の料理について、特に日本のレストランで提供されている料理について調べる（30分） 事後学習 ホテル実務に必要な業務知識についてまとめる（30分） 授業で配布したレジメを参照し、ホテルビジネスを経営について理解する（60分）		

指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの取り組みを理解し易いように、ホテルの現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：ホテルのコンセプト、特徴とそのホテル評価と課題についての発表とレポートを評価する。 ○D：ホテル分類、ホテルビジネスの理論などを説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	1．授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2．ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 3．「ホテルスタディーズA」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディーズA」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E25C34	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）宿泊産業のいくつかの経営業態を通して、ホテルビジネスの経営環境を理解する。合わせてホテルビジネスを対象として、マーケティングおよびオペレーションの視点からホテルを分析し事象把握をおこなう。 ホテルの特徴を活かした宿泊商品プラン作成を通して、そのホテルの特徴を理解し評価、課題、それに対する対応策を検討提案できる能力を身につける。またホテルビジネスで活躍されている方々をゲスト講師として招き、その企業の取り組みについて知識を深める。 （授業目標） ◎A：宿泊産業の取り組みを理解し、評価、検討、提案する力をつける。 ○D：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。		
授業計画	1	ホテルビジネス ホテルビジネスの全体像を捉え、特色や特徴を理解する	
	2	ビジネスホテル市場 ビジネスホテルの位置づけと、ビジネスホテルの取り組み	
	3	ホテル業の全体像 ・ホテルの分類（立地、クラス、機能別） ・経営形態による分類 ・資本形態による分類など	
	4	宿泊旅行統計調査 日本の観光の現在の傾向や特徴	
	5	日本旅館 日本旅館の位置づけと、日本文化を象徴する日本旅館のおもてなし	
	6	欧米におけるホテルの系譜 欧米の宿泊業の歴史的系譜	
	7	国際儀礼（プロトコル） 国際儀礼の基本とホテル実務者の基礎知識	
	8	日本の宿泊産業と独自の宿泊形態 日本の宿泊業の系譜と様々な宿泊形態	
	9	ホテリエールとしておきのおもてなし術（ゲスト講師） ・テーブルコーディネートの基本 ・テーマ、キーオブジェ、コンセプトを決定し、おもてなしテーブルセッティングを実践	
	10	ホテル・マーケティング ・ホテル・マーケティングの基本概念 ・マーケティングを構成する4本の柱 ・ホテルに求められるトータル・マーケティング・プラン	
	11	宿泊商品プラン作成（グループワーク：宿泊プランの作成とプレゼンテーションの準備） マーケティングの視点からホテルの特徴を活かした宿泊プラン作成	
	12	企業研究：リッツ・カールトン リッツ・カールトンの取組みとホスピタリティ	
	13	宿泊商品プラン発表①（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） ホテルの特徴を活かした宿泊プランをグループごとに発表	
	14	宿泊商品プラン発表②（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） ホテルの特徴を活かした宿泊プランをグループごとに発表	
	15	企業研究：星野リゾート 星野リゾートの概要と取組みについて	
学習成果・到達目標・基準	◎A：宿泊商品プランの作成を通し、マーケティングの視点からホテルの特徴を活かした宿泊商品プランの提案できる。 ○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：都内のホテルのホームページにアクセスし、それぞれのホテルの特徴について調べる（60分） ホテルの職種の仕事内容（フロント・サービス、客室係など）について調べる（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、宿泊施設の取り組みについて理解する（60分）		
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの現場で働く方々を、企業研究としてゲスト講師に授業に参加してもらう予定。 フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価		

	とアドバイスをおこなう。グループワークについては、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：宿泊商品プランの内容と、プレゼンテーションを評価する。 ○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	1．授業には積極的に参加し、他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2．ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 3．「ホテルスタディーズB」の受講生は、「ホテルスタディーズA」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C35	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）観光を幅広く学んでいくために、観光学に関する観光関連用語や観光の研究分野などの基礎知識、観光の歴史の変遷と現代社会における観光の意義について理解を深める。またエコツーリズムやグリーンツーリズムはじめ、ニューツーリズムの特徴や取り組みを理解する。さらに観光プランのコース作成を、ディステイネーション・マーケティング等の視点から、コンセプト作りから観光プランを作成し、フィールドワークをおこない観光プランの正誤性の検証をおこなう。 （授業目標） ◎C：観光の基礎知識、国内観光資源を理解し、観光プランの作成方法を身につける。 ○D：観光産業で使用されている観光関連用語や英語の通話用語を身につける。		
授業計画	1	観光と旅行 観光の語源や関連用語、観光研究の分野について	
	2	観光の現代的意義 現代社会における観光の意義と、観光が経済などに及ぼす影響	
	3	観光の変遷 日本と欧米の観光の潮流を時代別に区分する。	
	4	観光産業の英語（実習：通話用語を使用して、自分の名前のスペルを伝える） パスポートの英語記載、空港コード、エアラインコードと通話英語など	
	5	観光地の類型 観光対象、観光資源および観光施設	
	6	国内観光資源 国内観光資源をカテゴリー別に考察	
	7	観光政策と観光行政 観光政策の基本、その目標と内容と、地方の観光行政の特性	
	8	世界遺産 世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産について	
	9	ニューツーリズム ニューツーリズムの共通の特徴と取り組み	
	10	エコツーリズムとグリーンツーリズム ・エコツーリズムの概念と定義、環境と観光をつなげるエコツアーについて ・グリーンツーリズムの概念、定義と日本国内の取り組みと成果	
	11	旅行会社の業務（ゲスト講師） 旅行会社のカウンター業務など	
	12	国際観光 国際観光の現況と訪日外国人旅行者	
	13	インバウンド観光客の特性 様々な国・地域からの外国人旅行者が期待する日本観光とおもてなしの違い	
	14	東京都港区芝エリア「街歩き」の観光プランニング（グループワーク：観光プランのコース作成） 東京都港区の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成	
	15	東京都港区芝エリア「街歩き」観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した観光プランの発表と評価	
学習成果・到達目標・基準	◎C：特定の地域の観光資源を理解し、観光プラン作成をおこない、プラン内容をプレゼンテーションすることができる。 ○D：観光産業で使用されている用語の違いを説明でき、ロールプレイング会話演習で、通話用語を使用して、自分の名前を表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：ニューツーリズムに分類される観光の特徴について調べる（60分） 国内の観光資源を知る上で、観光パンフレットなどの観光資料、情報資料を収集しチェックする（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、観光関連用語を理解する（60分）		
指導方法	指導方法 講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価		

	とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○D：観光産業で使用されている観光関連用語について定期試験の記述回答を評価し、ロールプレイングでの会話演習を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2014）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 十代田 朗(2014)「観光まちづくりのマーケティング」学芸出版社
履修上の注意	1．授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2．自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E25C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）日本における観光の現状を把握した上で、観光関連産業、観光地形成やサービスなど幅広く知識をつける。 旅行商品が生み出されていく手順を、特定の国内観光地を取り扱いながら、コンセプトづくり、ディステーション・マーケティング等の視点からレディメイド型旅行商品の作成される行程と成り立ちを学ぶ。さらに旅行プランを作成して、旅行商品を自分で作成する事で、観光地の観光資源や地方自治体の取り組みを理解する。また近年著しく増加している訪日外国人旅行者に焦点を合わせ、外国人旅行者の観光属性と日本がおこなっている取り組みについて、詳しく学ぶ。 （授業目標） ◎C：国際航空運賃、海外観光資源の知識を修得し、観光プランのコース作成を身に付ける。 ○D：インバウンド旅行者の特徴を理解する。		
授業計画	1	国内観光の状況 最新の国内観光の状況を観光統計などのデータ分析	
	2	日本における観光 国内・海外観光旅行の市場規模、推移と現状	
	3	日本遺産 文化庁が認定した、日本遺産の歴史的魅力や特色	
	4	旅行商品開発のプランニング 旅行商品を作成するための計画とコンセプトづくり	
	5	募集型企画旅行（実習：旅行商品の提案と料金計算） パッケージツアーなどのレディメイド型商品の分析	
	6	観光地域づくり法人（DMO）を 中心とした観光地域づくり 観光地域づくり法人（DMO）の形成・確立と日本版DMO	
	7	観光地の観光プランニング（グループワーク：国内旅行プランのコース作成） ダイナミックパッケージを使用した、国内旅行プランの作成	
	8	観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した国内旅行プランの発表と評価	
	9	インバウンド観光（グループワーク：訪日外国人旅行者へのおもてなしについてのディスカッション） 訪日外国人旅行者の習慣、食事などの基礎知識	
	10	インバウンド旅行者増加への取り組みとオーバーツーリズム 訪日外国人旅行者の受け入れ状況と観光地の取り組み、オーバーツーリズムなどで発生する負の側面から観光需要増減の要因について	
	11	海外の観光資源（グループワーク：海外の観光資源を分類する） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている観光資源	
	12	海外旅行と外国通貨（実習：外国通貨レートの違いによる計算） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている海外の観光資源と外国通貨の種類などについて	
	13	観光地の観光プランニング（グループワーク：海外旅行プランのコース作成） 海外の観光資源をめぐり、観光プランのコース作成	
	14	出入国手続き（実習：国内外の入国書類、日本の税関書類の記入や税金の料金計算） 日本から出国し、帰国する際の空港での諸手続	
	15	国際航空運賃の基礎知識と日付変更線、時差の計算など 国際航空運賃（実習：2ヶ国間の時差の計算、飛行機で移動した際の到着時間の計算など）	
学習成果・到達目標・基準	◎C：海外旅行プランのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○D：ムスリム観光客への知識と必要な配慮を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：国内、海外の観光資源を知り、具体的な観光プランニングができるように、観光ガイドブック・観光パンフレットなどを収集する（60分） 増加するインバウンド旅行者について調べる（30分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだ観光資源や観光現象などを国や地域などを地図などでまとめる（60分） 観光関連産業それぞれの特徴や取り組みについてまとめる（30分）		
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価		

	とアドバイスをおこなう。グループワーク、ディベート、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：国際航空運賃、海外観光資源の知識を定期試験の記述解答を評価する。合せて観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○D：インバウンド旅行者への取り組みに関する小レポートを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の実習、プレゼンテーションや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2013）『観光概論』 十代田 朗（2014）『観光まちづくりのマーケティング』 溝尾 良隆（2009）『観光学の基礎』（観光学全集 第1巻）
履修上の注意	1．授業中は他の人の迷惑にならないように、授業態度に注意すること。 2．時差、旅行代金の計算、旅行プランニング作成など、じっくりと授業に取り組む必要がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション

講義科目名称： エアラインゼミ

授業コード： 2711

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E210C66	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一年後期に引き続き、エアライン業界についての知識を深めると同時に、エアラインで提供されているサービスや商品企画を理解する。エアラインで提供できるような新しいサービスの提案と機内販売商品の企画立案できる知識を養う。 毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 (授業目標) ◎D:エアライン業界に関する知識や理解をさらに深め、サービスの提案と商品の企画立案できる思考力を身につける。 ○E:エアライン業界に求められる資格等を取得する。		
授業計画	1	オリエンテーション・志望理由発表(プレゼンテーション) グループに分かれて、志望エアラインの企業理念と志望理由を結びつけて発表する。	
	2	エアライン業界研究と提供されているサービス（グループワーク） エアライン業界研究とエアラインが顧客向けに提供しているサービスについて調べる。	
	3	エアライン業界研究と提供されているサービス比較（プレゼンテーション）（グループディスカッション） 各自が調べた顧客向けサービスの発表とそれぞれのサービスの相違点を比較する。	
	4	エアライン業界研究と空港で提供されているサービス（グループワーク） エアライン業界研究とエアラインが空港で提供しているサービスについて調べる。	
	5	エアライン業界研究と空港で提供されているサービス比較（プレゼンテーション）（グループディスカッション） エアラインが空港で提供しているサービスについての発表と空港サービスの相違点を比較する。	
	6	空港関連会社と首都圏の空港のサービス（グループワーク） 羽田空港・成田空港でエアライン、空港を運営する企業がどのようなサービスを展開しているか調べる。	
	7	空港関連会社と首都圏の空港のサービス比較（プレゼンテーション）（グループディスカッション） 羽田空港・成田空港でエアライン、空港を運営する企業のサービスの相違点を比較する。	
	8	エアライン業界研究とメガキャリアが機内提供しているサービス（グループワーク） エアラインが機内で提供している、座席、機内食などをファーストクラス、ビジネスクラス、プレミアムエコノミー、エコノミークラスに分け、どのようなサービスを提供しているか調べる。	
	9	メガキャリアが機内提供しているサービス比較（プレゼンテーション）（グループディスカッション） エアラインごとのクラス別座席、機内食などのサービスについて相違点を比較する。	
	10	メガキャリアとLCCのサービス比較（グループワーク）（グループディスカッション） メガキャリアが提供しているサービスと、LCCが提供していないサービスをは何かを話し合い、必要なサービスとは何かについて議論する。	
	11	マーケティングリサーチと機内販売商品企画 エアライン企業から一社選択して、そのエアラインの機内で販売するオリジナル商品をマーケティングの視点から考案する。	
	12	エアライン企業カラーと機内販売商品企画 エアライン企業のテーマカラー、マスコットキャラクターなどを意識してオリジナル商品を企画立案する。	
	13	機内販売商品を具現化 機内販売商品のコンセプト、値段、販売時期などを決定し商品を具現化する。	
	14	機内販売商品発表（プレゼンテーション） 企画立案した機内販売商品を発表する。	
	15	エアラインゼミ総括と個人面談 授業の総括をおこない、就職活動カウンセリング、個人面談をおこなう	
学習成果・到達目標・基準	◎D:エアラインの企業理念を理解し、提供されるサービスや商品を比較できる。 ○E:エアライン業界で必要な資格の対策を講じることができる。		
事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）		
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について企業理解をふかめられるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対		

	応、③定期的に面談をおこなう。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D:企画立案した機内販売商品を評価する。 ○E:資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 授業への貢献度: 30% 課題・資格取得: 40% プレゼンテーション: 30%
テキスト	特になし。適宜レジュメ、授業参考資料を配布する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。 来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は4時限開講であるが、5時限まで延長しておこなうこともあることを留意する。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E16B41	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	コンピュータは絶え間ない技術革新によって変化しながら、私たちの生活のいたるところに深く浸透している。このような社会に適応するために、データ分析の手法を学び、データ解析に有効な論理の手順の考え方や、複雑で大量なデータを扱う標準的な方法について学習する。また、トピックスとして最新のICTの動向と、この動向をいち早く取り入れる社会の状況を概観する。 (授業目標) ◎D：データ分析に必要な知識について理解を深め、データサイエンスの用語を用いてコミュニケーションを円滑に行うことができる。 ○E：情報処理のツールを理解して状況に応じてそれらツールを活用し、その結果を用いてプレゼンテーションできる。		
授業計画	1	オリエンテーション（GoogleClassroomの運用方法、授業方法などICT環境の導入） ・自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ（Gr）分けなど	
	2	社会に浸透するコンピュータ（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・コンピュータが社会や日常生活にどのように浸透しているか確認	
	3	コンピュータ共通の仕組（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・すべてのコンピュータに共通な、情報処理の基本的な構造と仕組みを理解	
	4	ツールを活用した調査（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・「キーワードプランナー」の活用事例 ・「Googleトレンド」での調査	
	5	コンピュータの処理表現方法（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・2進数と10進数の求め方	
	6	論理的な処理の表現方法 1（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・アルゴリズムの理解 ・フローチャートの理解	
	7	論理的な処理の表現方法 2（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・フローチャートの実践演習	
	8	データサイエンスの知見1（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・データサイエンスから導き出された事例の研究	
	9	データサイエンスの知見2（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・都道府県別統計とランキングのデータ分析	
	10	テキストマイニング（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・「テキストマイニング」と実践	
	11	分析するツール1（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・WEBツールでYouTubeチャンネルを分析	
	12	分析するツール2（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・各自のテーマについて分析ツールを活用して調査	
	13	プレゼンテーション準備 ・データサイエンスに関するプレゼンテーション資料の準備・練習	
	14	プレゼンテーション1（発表） ・データサイエンスに関するプレゼンテーション本番1	
	15	プレゼンテーション2（発表） ・データサイエンスに関するプレゼンテーション本番2	
学習成果・到達目標・基準	◎D：データ分析の概要を理解し、簡単なデータサイエンス用語を用いて説明ができる。 ○E：情報処理のツールを理解して活用手順を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する資料をよく理解する（60分程度）。 上記資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。		
指導方法	事前学習資料による事前学習、配布資料（PowerPointなど）による講義、グループ討議、討議結果のグループ別発表、小テスト、論理的な手順の作成などを適宜行う。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行う。 フィードバックの方法：グループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、論理的な手順を表現する課題回答などを評価。 ○E：質疑応答など、アクティブラーニングへの参加状況を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度 30%、小テスト、課題提出など 30%、期末テスト 40%
テキスト	事前に提示する資料、小テスト、講義資料などをデジタル教材として提供する。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、GoogleClassroomや教員からのメールで知らせるので、GoogleClassroomやメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E16B40	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	コンピュータは絶え間ない技術革新によって変化しながら、私たちの生活のいたるところに深く浸透している。このような社会に適応するために、データ分析の手法を学び、データ解析に有効な論理的手順の考え方や、複雑で大量なデータを扱う標準的な方法について学習する。また、トピックスとして最新のICTの動向と、この動向をいち早く取り入れる社会の状況を概観する。 (授業目標) ◎D：データ分析に必要な知識について理解を深め、データサイエンスの用語を用いてコミュニケーションを円滑に行うことができる。 ○E：情報処理のツールを理解して状況に応じてそれらツールを活用し、その結果を用いてプレゼンテーションできる。		
授業計画	1	オリエンテーション（GoogleClassroomの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入） ・自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ（Gr）分けなど	
	2	社会に浸透するコンピュータ（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・コンピュータが社会や日常生活にどのように浸透しているか確認	
	3	コンピュータ共通の仕組（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・すべてのコンピュータに共通な、情報処理の基本的な構造と仕組みを理解	
	4	ツールを活用した調査（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・「キーワードプランナー」の活用事例 ・「Googleトレンド」での調査	
	5	コンピュータの処理表現方法（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・2進数と10進数の求め方	
	6	論理的な処理の表現方法 1（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・アルゴリズムの理解 ・フローチャートの理解	
	7	論理的な処理の表現方法 2（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・フローチャートの実践演習	
	8	データサイエンスの知見1（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・データサイエンスから導き出された事例の研究	
	9	データサイエンスの知見2（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・都道府県別統計とランキングのデータ分析	
	10	テキストマイニング（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・「テキストマイニング」と実践	
	11	分析するツール1（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・WEBツールでYouTubeチャンネルを分析	
	12	分析するツール2（穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・各自のテーマについて分析ツールを活用して調査	
	13	プレゼンテーション準備 ・データサイエンスに関するプレゼンテーション資料の準備・練習	
	14	プレゼンテーション1（発表） ・データサイエンスに関するプレゼンテーション本番1	
	15	プレゼンテーション2（発表） ・データサイエンスに関するプレゼンテーション本番2	
学習成果・到達目標・基準	◎D：データ分析の概要を理解し、簡単なデータサイエンス用語を用いて説明ができる。 ○E：情報処理のツールを理解して活用手順を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する資料をよく理解する(60分程度)。 上記資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。		
指導方法	事前学習資料による事前学習、配布資料（PowerPointなど）による講義、グループ討議、討議結果のグループ別発表、小テスト、論理的な手順の作成などを適宜行う。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行う。 フィードバックの方法：グループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、論理的な手順を表現する課題回答などを評価。 ○E：質疑応答など、アクティブラーニングへの参加状況を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度 30%、小テスト、課題提出など 30%、期末テスト 40%
テキスト	事前に提示する資料、小テスト、講義資料などをデジタル教材として提供する。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、GoogleClassroomや教員からのメールで知らせるので、GoogleClassroomやメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E17B51	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタルマーケティングとは何かを出発点に、売れる仕組みづくりについてワークを通じて理解を深める。また、WEBのツールを活用して、目的に応じたマーケティング調査を行うことができるようになる自分で考える力がつく。 (授業目標) ○C：デジタルマーケティングの理論と事例を学び、「売れる仕組みづくり」について自ら考えて構想する力を身につける。 ◎D：マーケティングのフレームワークについての理解を深め、自ら情報を収集・分析し、デジタルマーケティング用語を用いてコミュニケーションを円滑に行うことができる。		
授業計画	1	オリエンテーション（GoogleClassroomの運用方法、授業方法などICT環境の導入） ・自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ（Gr）分けなど	
	2	デジタルマーケティングとは ・インターネットとマーケティングの世界 ・マーケティング1.0から5.0へ	
	3	世界観を構築するブランディング ・ブランドと世界観 ・情緒的価値に基づく世界観の重要性	
	4	顧客と商品の出会いをデザインする ・WEB広告	
	5	変化するWEB検索 ・Google検索の進化 ・「効果的なキーワード」の見つけ方 ・多様化する検索手段とSNS検索、YouTube検索	
	6	DXとディスラプション DXとは何か ディスラプションとは何か DXの事例研究	
	7	EC市場とD2C ・BtoC向けEC ・EC分野の潮流とD2C	
	8	リアルとデジタルを統合するユーザ体験 ・よいユーザ体験とは何か ・UXはリアルを超えられるか	
	9	消費スタイルの変化とシェアリングエコノミー ・消費スタイルの変化 ・変化するモノ消費、コト消費	
	10	サブスクリプション ・サブスクリプションのビジネスモデル	
	11	価値観の伝道とエヴァンジェリスト ・エヴァンジェリストとは何か ・エヴァンジェリストを活用するマーケティング	
	12	つながりとコミュニティマーケティング ・コミュニティを活かしたマーケティング	
	13	プレゼンテーション準備1 ・任意の企業を取り上げて、デジタルマーケティングの状況について調査する	
	14	プレゼンテーション準備2 ・企業のデジタルマーケティングについてプレゼンテーション資料を作成する	
	15	プレゼンテーション ・企業のデジタルマーケティングについて得られた知見をプレゼンテーションする	
学習成果・到達目標・基準	○C：デジタルマーケティングの理論と事例をとおして、基礎的な「売れる仕組みづくり」を分析する力を身につける。 ◎D：マーケティングのフレームワークについての理解を深め、基本的なビジネス用語などを使ってコミュニケーションを行うことができる。		
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する資料をよく理解する（60分程度）。 上記資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。		

指導方法	事前学習、配布資料（PowerPointなど）に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、小テストなどを適宜行う。また、調査・分析の必要な宿題や課題の実行をとおして、意見をまとめる練習を行う。フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：企業研究などの調査結果や適宜行うプレゼンテーションの内容を評価。 ◎D：課題回答や小テストの結果を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度 30%、プレゼンテーション、小テスト、課題提出 30%、期末テスト 40%
テキスト	教科書として、『デジタルマーケティングの教室』（マイナビ出版 押切孝雄著 2021年）を使用する。 また、事前に提示する資料、小テスト、講義資料をデジタル教材として提供する。
参考書	『デジタルマーケティング集中講義』（マイナビ出版 押切孝雄著 2017年）、その他、必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意	1年生の後期以降は就職活動が始まるが、この科目には進路を検討する内容が多く含まれる。デジタルマーケティングを学びながら、自分の将来を考え、演習やグループ討議に積極的に参加し、キャリアプランに活かしてください。 また、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E210C69	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一般企業のマーケティング・営業支援・事務・受付・秘書・販売などをめざす就職活動に必須の、履歴書・エントリーシートの作成法、自分のアピールポイントの掘り起し方、面接の対処法、業界・企業の調査法、などを学習する。また、それらの方法を実践した結果をグループで討議し、コミュニケーション能力など就職活動に必要な能力を養成する。 (授業目標) ○C：自分のアピールポイントの発見や企業研究などをとおして、自分の将来の展望について納得のゆく結論を出すことができる。 ◎E：就職活動に必要な書類などをわかりやすく整理して作成することができ、面接にも冷静に対処できる。		
授業計画	1	オリエンテーション（松井、キャリアセンター）（アンケート調査） 授業の進め方に関するオリエンテーションと今後の就職活動の注意点など、および、就活状況アンケート	
	2	就活スキルアップ1（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方1：自分のアピールポイントの見つけ方と表現方法	
	3	就活スキルアップ2（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方2：効果的なエントリーシートの書き方	
	4	就活スキルアップ3（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 面接練習1：面接の注意点と練習	
	5	就活スキルアップ4（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 面接練習2：本番に向けた面接練習	
	6	就活スキルアップ5（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） SPIテスト対策	
	7	企業研究と個別面談1（松井） 企業研究の方法説明と実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施	
	8	企業研究と個別面談2（松井） 企業研究の実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施	
	9	企業説明会（参加企業人事担当者、キャリアセンター、キャリア教育専門講師、松井） 企業の人事担当者のを招いて教室で企業説明会を体験、その前後にキャリア教育専門講師により企業説明聴講と聴講後の心構えを説明	
	10	仕事に就いて1（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 自分の就きたい仕事を見つける方法について	
	11	仕事に就いて2（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 女性のキャリアプラン	
	12	仕事に就いて3（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 仕事の優先順位の決め方について	
	13	仕事に就いて4（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 調査・分析の方法（KJ法）	
	14	仕事に就いて5（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 会社に入ってから役に立つ社会人の心構え	
	15	夏休み以降の就職活動について（キャリアセンター、松井）（アンケート調査） 夏休み中の就職活動の注意事項と対策について、および、振り返りアンケート	
学習成果・到達目標・基準	○C：自分のアピールポイントの発見や企業研究などを実践することができる。 ◎E：就職活動に必要な書類などを作成する方法を理解でき、面接の要領も理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備（30分程度）。 事後学習：授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む（30分程度）。		
指導方法	キャリアセンターやキャリア教育専門講師による授業などを状況に応じて実施する。また、就職に関する個別面談、質疑応答、グループ討議の機会を設けるので、積極的に参加してください。 フィードバックの方法：個別面談により、就活への理解を深める。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：企業研究や自己分析などによる、各自の将来展望への取り組みを評価。 ◎E：履歴書・エントリーシートなどの課題への取り組み、および、学習内容の就職活動への反映を評価。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30％ プレゼンテーション:30％ 課題：40％		

テキスト	授業の要点を資料として配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	すべての連絡はGoogleClassroomで行うので必ず確認をするようにしてください。 本授業は4時限開講だが、5時限まで延長して行うこともあることを留意してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C27	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	多種多様な業種によって成り立っている航空会社。それらの業種を紹介し、業務内容を説明する。 具体的なサービス事例や各社の取り組みを紹介し、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。 キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を紹介するとともに、基礎的な自己分析を実施する。 (授業目標) ○A:授業内の課題・事前学習を主体的に取り組み、紹介する事例を自らの問題として取り組む責任感を養う。 ◎D:航空業界の職種を知り、安全運航と顧客満足への取り組みを理解する。		
授業計画	1	ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う	
	2	接客業に従事する者に求められる素養と自己分析 自己分析を行う方法を説明し、学生時代に取り組むべき事柄を考える	
	3	キャビンアテンダントの業務と求められる素養 キャビンアテンダントの業務内容を分析し、求められる素養を理解する	
	4	グランドスタッフの業務と求められる素養 グランドスタッフの業務内容を分析し、求められる素養を理解する	
	5	航空産業の黎明期・日本における航空産業の発展 航空産業が欧米でどのように成立したか 我が国において航空産業がどのように発展してきたか理解する	
	6	アライアンス事業 世界の航空業界の動向とアライアンス事業を理解する	
	7	フルサービスキャリア（FSC）とローコストキャリア（LCC） ビジネスモデルの概要 大手航空会社（FSC）と格安航空会社（LCC）の収益構造を比較する	
	8	フルサービスキャリア（FSC）とローコストキャリア（LCC）（プレゼンテーション） 大手航空会社（FSC）と格安航空会社（LCC）のサービス内容を、具体的事例を用いて比較する （プレゼンテーション：全員が発表する）	
	9	保安要員としてのキャビンアテンダント業務（グループワーク） 具体的な業務の流れから、保安要員の役割を理解する	
	10	サービス要員としてのキャビンアテンダント業務（グループワーク） サービス事例から、サービス要員としての役割を理解する	
	11	グランドスタッフの仕事 グランドスタッフの多岐にわたる業務と魅力を知る	
	12	グランドスタッフの仕事 事例研究（ディスカッション） グランドハンドリング業務と求められる素養を知り、考察する（ディスカッションを実施）	
	13	飛行機の運航を支える仕事 運航支援 運航支援に関わる業務を中心に 一機を飛ばすために様々な職種が協力し合っている、航空業界の仕組みと各業種を知る	
	14	飛行機の運航を支える仕事 予約・マイレージスキーム 予約・マイレージスキームに関わる業務を中心に 一機を飛ばすために様々な職種が協力し合っている、航空業界の仕組みと各業種を知る	
	15	エアラインホスピタリティ（ディスカッション） エアライン業界でのサービス実例をもとに、どのようなホスピタリティが実践されているか理解する（ディスカッションを実施）	
学習成果・到達目標・基準	○A:グループワークにて、相手の意見を尊重し協働できる。また、自身の意見を自分の言葉で発信することができる。与えられた課題に主体的に取り組むことができる。 ◎D:航空業界で働くスタッフに求められる人材像のポイントについて説明することができる。		
事前・事後学習	【事前学習】 事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集（100分） 【事後学習】 テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認（80分）		
指導方法	パワーポイント・資料配布（クラスルーム）を使って講義形式で行う。 理解を深めるために適宜グループワークを実施し、インプットされた知識の整理とアウトプットを行う。 毎週自身が選んだ記事の発表を行い、業界への理解を深める。 航空業界従事者を招いて具体的な業務内容を聞き、討論することで、教科書や講義で学んだ内容の理解を一層深める。 授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。		

	レポートなどの提出物は、Google Classroomを通じ個別コメントでフィードバックをし、授業内での全体講評を行う
アセスメント・成績評価の方法・基準	定期試験・毎回の小レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○A:授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎D:試験と知識確認テストを評価する 授業態度35% 小レポート・課題（プレゼンテーション）、提出物35% 定期試験30%
テキスト	晃洋書房『エアライン・ビジネス入門』稲本恵子編著 適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。
参考書	アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。 JAL ANA のアニュアルレポート(無料)を各自取り寄せてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹、有田りな			
ナンバリング：E14C28	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダント・グランドスタッフの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。 キャビンアテンダント・グランドスタッフの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 (授業目標) ○B：マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる ◎D：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや航空会社の接遇・顧客とのコミュニケーションスキルについて理解する		
授業計画	1	ガイダンス 授業の内容説明とそれぞれの自己紹介を行う（プレゼンテーション）	
	2	キャビンアテンダントの業務 キャビンアテンダントの役割とサービス向上の取り組みについて知る	
	3	グランドスタッフの基本業務 グランドスタッフの役割とサービス向上の取り組みについて知る	
	4	キャビンアテンダントの保安業務 保安要員としての役割を考える	
	5	グランドスタッフの接客業務 お手伝いが必要となるお客様への接遇に必要な知識とスキルを考える	
	6	航空会社の接遇の基礎 キャビンアテンダント・グランドスタッフの接遇スキルの基礎を学ぶ	
	7	航空会社の接遇（言葉遣い） 演習(ロールプレイング) サービスに適した言葉遣いや言葉の選び方を学ぶ。	
	8	航空会社の接遇（言葉と発声） 演習（ロールプレイング） 「笑声」を学ぶ・アナウンス練習を通して、感じの良い話し方を身につける	
	9	様々なコミュニケーション 障がいを抱えるお客様とのコミュニケーションの取り方を、手話などを通じて理解を深める	
	10	救急処置（ファーストエイド）対応とコミュニケーション 空港・機内で救急処置が必要なお客様への対応やコミュニケーションの取り方について考える	
	11	特色あるエアラインサービス（フラッグキャリア）を調べる（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 機材・路線に合わせた特色あるフラッグキャリアのエアラインサービスについて調査・討議・発表する	
	12	特色あるエアラインサービス（LCC）を調べる（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 機材・路線に合わせた特色あるLCCのエアラインサービスについて調査・討議・発表する	
	13	キャリアビジョンと実現したいサービス キャビアンアテンダント・グランドスタッフのキャリアを知り、実現したいサービスを考える	
	14	各航空会社の社会貢献活動 プレスリリースなどを調べ、各航空会社の社会貢献活動を学ぶ	
	15	エアラインスタディ（ロールプレイング） 機内・空港で想定される事例のロールプレイング	
学習成果・到達目標・基準	○B：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わることができる ◎D：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる		
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集・課題レポート（100分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと課題レポート 毎回の演習内容のリプレイ（80分）		
指導方法	配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。 ゲストスピーカーを招き、キャビンアテンダントやグランドスタッフに必要な素養をディスカッションする 授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。 事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。		

	毎回Google Classroomでの小レポートを記入、提出。個別フィードバックを加え返却。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：成果物作成やプレゼングループでのチームへの関わり方を評価する ◎D：学期末テストと授業内での質疑応答の内容を評価する 定期試験、レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。 平常点（授業貢献度など）30％ 小レポート・課題提出物30％ 定期試験40％ レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする
テキスト	晃洋書房 『エアライン・ビジネス入門』 稲本恵子編著 適宜資料を配布する 航空に関する記事なども使用する
参考書	アートヴィレッジ『後悔しない JAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション、グループワーク、ロールプレイング

講義科目名称： インターンシップ 1（国際コミュニケーション 授業コード： 2691
学科）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E29C63	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 (授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：実社会で主体性・チームワーク・責任感ををもって行動することができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署と連携することができる。		
授業計画	1	説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明	
	2	事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。	
	3	業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）	
	4	インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。	
	5	インターンシップ研修（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前学習、事後学習時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。	
	6	事後研修 課外時間にて実施予定（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。	
	7	担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。	
学習成果・到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。		
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。また、インターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。		
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ1の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎A：実社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署との連携の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 具体的には、インターンシップ1の事前・事後研修の評価 25%、企業からの評価 50%、教員との面談 25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ1は、授業時間外に説明会、事前学習、実習、事後学習、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期インターンシップは、1年後期、春期インターンシップは2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 *新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。
アクティブ・ラーニング	

講義科目名称： インターンシップ2（国際コミュニケーション 授業コード： 2692
学科）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E29C64	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	インターンシップ2は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 (授業目標) インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければならないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：実社会で主体性・チームワーク・責任感をもって行動することができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署と連携することができる。		
授業計画	1	説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明	
	2	事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。	
	3	業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）	
	4	インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。	
	5	インターンシップ研修（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。	
	6	事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。	
	7	担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。	
学習成果・到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。		
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。		
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ2の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎A：実社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署との連携の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 具体的には、インターンシップ2の事前・事後学習の評価 25%、企業からの評価 50%、教員との面談 25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 *新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
八田圭子			
ナンバリング：E14C29	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	・個別発表、グループディスカッション、レポートの書き方を通して、コミュニケーション能力、コーディネーション能力、プレゼン能力、共感力、傾聴力、課題展開力を高める ・企業理念、経営戦略、マーケティング戦略、財務会計、リーダーシップを通して経営学基礎を習得するとともに、エアラインと他の業界を比較してエアライン経営の特徴を学ぶ ・空港業務、航空制度、約款、アライアンス、運賃、ダイヤ等、エアラインビジネス特有の基礎知識を習得する ・知識を学んだ上で様々なケーススタディを行い、問題の発見、視点から解決方法まで、自ら考え、表現する力を養う （授業目標） ◎B：参加型の授業やケースを通して、自分の頭で考え、意見交換を通して、コミュニケーション能力を高める ◎C：エアラインビジネスの知識を踏まえた上で、問題感知・解決、判断に必要な視点を養う		
授業計画	1	オリエンテーション 授業概要説明と自己紹介（プレゼンテーション） SPI① 宿題：航空会社ホームページの指定箇所を読んでおくこと	
	2	航空会社の仕事（全般及び国内線）（グループディスカッション） ひとつの飛行機を飛ばすために活躍する様々な職種の紹介 安全性、定時性、快適性の解説 空港サービス業務のビデオ放映 ケーススタディとグループディスカッション SPI①の解説	
	3	空港業務（国際線）の仕事の流れ 発着枠とダイヤの組み方 チェックイン（パスポート、ビザ、手荷物、乗り継ぎ）、C I Q（税関、出入国、検疫）、発着枠、ダイヤの組み方、時差の計算の仕方 SPI②	
	4	プライオリティゲスト、イレギュラーと約款 プライオリティゲストやイレギュラーと約款 クレーム処理のケーススタディとグループディスカッション SPI②の解説	
	5	GSゲスト講演 GSゲストを招き、空港業務の仕事、教育、育成について学ぶ 質疑応答 講演後、感想を提出	
	6	エアラインビジネス（財務会計1） 財務諸表（B/S、P/L）とは 財務諸表の仕組みと読み取り方を学ぶ SPI③	
	7	エアラインビジネス（財務会計2） 財務諸表（B/S、P/L）の応用 JAL/ANA比較 エアラインと他の業種の財務諸表比較 JALの経営破綻に至った経緯、財務諸表の推移よりエアラインのリスクを知る SPI③の解説	
	8	企業理念（ミッション、ビジョン、バリュー） 企業理念、ミッション、ビジョン、バリューの考え方を学ぶ ケースにつき、グループディスカッション JALの経営破綻と新たな企業理念や行動規範（フィロソフィ）策定までの経緯を学ぶ JALフィロソフィについて知り、どの言葉に一番共感するかを考える（宿題→発表）	
	9	JALフィロソフィの中で共感する言葉を選び、何故共感するのか自分の体験と結び付けて発表する 自分自身のミッション、ビジョン バリューを考え、その中でも行動規範や価値観である「バリュー」について実際の経験を元に考えてみる機会とする。 就職活動の面接でも生かせるプレゼン能力を高め、コメントを元に更に思考を深める。	
	10	経営戦略 ビジョンを実現するための経営戦略の基本について学ぶ ケーススタディでグループディスカッション SWOT分析を学び、ケーススタディの例やエアラインの戦略について考える	
	11	CAゲスト講演 CAゲストを招き、仕事内容や、教育、育成について学ぶ 実際の話を聞いての新たな疑問、気づき、学びにつき話し合う これまでの授業で話した内容との関連性を確認する	
	12	マーケティング戦略 戦略の中でもマーケティング戦略について学ぶ	

	13 14 15	プロダクトアウトとマーケットインの違いを学び、ケーススタディにつきグループディスカッション グループディスカッションを通して学んだことを基本にしてエアラインのマーケティング戦略について考える 社会志向のマーケティングについて学びSDG sについて考える エントリーシートの書き方 グループディスカッション1 エントリーシートの書き方につき、チェックポイントを解説する 良い例、悪い例のケーススタディに関してグループディスカッション 自分自身のSWOT分析を考える 冬休み期間の課題を出す（締め切りは年明け最初の授業） リーダーシップ 組織と人 グループディスカッション2 様々なリーダーの在り方について解説し、組織と人、モチベーションやエンゲージメントを高める方法について話し合う エントリーシートの提出 個人面接の注意点と解説 ラップアップと各自感想、決意表明 エントリーシートを読んだコメントをフィードバックする 15回の講義を通しての感想と決意表明（1人2分のプレゼンテーション） アンケート コロナの状況で期末試験をしない場合はレポート課題を発表
学習成果・到達目標・基準		◎B：意見交換を通して他者の考えを傾聴し、自分の考えをより深めてアウトプットすることが出来る ○C：ケースを通して知識や視点を学び、エアラインビジネスを実態的に理解することが出来る
事前・事後学習		事前学習： ・SPIの準備をすること（15分） ・航空会社のホームページで指定した箇所を読んでくこと（15分） ・航空会社に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（20分） ・課題レポートやプレゼンの準備（80分） 事後学習 ・授業時に出された指示、レポートへのコメントや解説を聞いて改善し、完成度を上げること（30分） ・SPIの見直し（20分）
指導方法		・基本的な理論や知識を習得した後、参加型のディスカッションや相互チェックコメントを通して、複眼的なものの見方を養い、表現できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポートは全員にコメントを付けて返却する。授業で課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、学生の中から模範解答を披露する。小テストは回答が自動で返却され、授業で解説する ・ゲスト講師を招き、現業の実際を肌で感じられるようにする
アセスメント・成績評価の方法・基準		◎B：積極的な授業参加、課題取り組み意欲、コメントに対して改善努力が出来たかで評価する ○C：知識を学ぶ意欲と、グループディスカッションや解説を通して問題に複眼的に取り組めたかどうかを定期試験またはレポートで評価する 課題提出または発表20%、積極的な授業参加・貢献度30%、定期試験またはレポート50%
テキスト		毎回、講師作成のプリントを配布する
参考書		・エアラインビジネス入門（晃洋書房）を一読することが望ましい ・SPI関連の問題集を購入し、1冊仕上げておくことが望ましい
履修上の注意		・エアライン関係への就職を念頭に置いていること ・参加型の授業で、課題を克服する努力とその過程を評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある ・希望者には講義後、面談を行う
アクティブ・ラーニング		グループディスカッション、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
Rossi Erika			
ナンバリング：E13C20	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	イタリアの地理・歴史をベースに学びます。また、イタリア人講師による日本では知られていないイタリアの素顔に迫る話を交え、イタリアで生まれた宗教・芸術・食生活・ファッションや国民性など、イタリア文化についての知識を深めます。 ◎C：地域別に異なるイタリア人の文化や表現を知ること、偏見や差別に捕らわれない公正な判断に基づいて、イタリアの「歴史、美術、デザイン、ファッション」の文化について、自分の意見を述べるができる。 ○D：イタリアの建築物、絵画、街並みを見て、背景にある歴史、文化、宗教について理解する。		
授業計画	1	地理（グループディスカッション） イタリアの国土・気候の特徴と主な農作物の関係について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	2	歴史 古代ローマ帝国からキリスト教の誕生を経て、現在のイタリアが共和国として統一されるまでを学ぶ	
	3	宗教 1 （グループディスカッション） キリスト教の誕生とローマカトリックの歴史。現在の宗教儀式についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	4	宗教 2 宗教的な年間行事と季節ごとの習慣についてを学ぶ	
	5	教育（グループディスカッション） イタリアの教育（学校）制度と日本との相違を学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	6	食習慣 現在のイタリア料理が確立されるまでの歴史と、その食材について：イタリア人の食生活	
	7	芸術 1（グループディスカッション） イタリア絵画の歴史。ビザンティンからルネッサンスを経てバロックまでの代表作品とその作者： レオナルドダヴィンチ・ミケランジェロ等 各グループでグループディスカッションを行う	
	8	芸術 2 各都市にある主要な歴史的建築物と代表的な彫刻作品：ベルニーニ、ボロミーニ等	
	9	オペラ 世界中の人々を魅了するオペラの誕生と歴史について学ぶ	
	10	経済（グループディスカッション） イタリアの就業状況、伝統的職人技術と現在の生産物の関係、地方格差について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う	
	11	国民性 イタリア人の特徴と日本人との比較、人付き合いや家族との関係性について学ぶ	
	12	ファッション イタリアの服飾の歴史。エトルリア人からミラノコレクションまで： GUCCI・PRADA・FERRAGAMO・ARMANI 等	
	13	映画1（グループディスカッション） イタリア映画の誕生と歴史。代表的な作品の紹介 各グループでグループディスカッションを行う	
	14	映画2（グループディスカッション） 映画鑑賞 Life is Beautiful（1） 各グループでグループディスカッションを行う	
	15	映画3、復習（グループワーク） 映画鑑賞 Life is Beautiful（2）、学生をグループに分け、学生同士で復習する	
学習成果・到達目標・基準	今の日本には身近にイタリアに関する事が数多く見掛けられます。街にはイタリアレストランや有名ブランドのブティックが並び、ルネッサンス絵画の展覧会やオペラの上演と言ったイベントも開催されます。但し、イタリアが実際どのような国かという事は、あまり知られていないのが現状です。この授業を通してイタリア文化の中でもルネッサンスの大事なアーティスト、住まい、ファッション、デザインと食文化に関する知識を身に付けます。 ◎C：地域別に異なるイタリア人の文化や表現を学ぶことで、イタリア人と日本人との比較を自分の言葉で伝えることができる。		

	○D：レオナルド、ミケランジェロ、アルマーニ、グッチについて説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に指示されたテキストの該当箇所を読み、分からない単語は調べておく事。（約90分） 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容から出題する小テストを行うため、必ず前回の授業の復習を行うこと。（約90分）
指導方法	イタリアに行ったことのない学生にも分かり易くする為、写真等の資料を活用する。 一方的な講義ではなく、気軽に質疑応答が出来る環境をつくり、学生とのコミュニケーションがとれる体制をつくっていく。 毎回授業の始めに、前回の授業内容から出題する小テストを行う。 フィードバックとして、小テストを返却後、学生が間違えた箇所についての説明を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加も評価対象とします。 ◎C：グループでのプレゼンテーションで評価する。 ○D：毎週の小テスト・定期試験で評価する。 授業への積極的な参加、授業態度 20% 小テスト（全13回）40% 定期試験 40%
テキスト	テキスト：『古代ローマ人の24時間よみがえる帝都ローマの民衆生活』アルベルト・アンジェラ 著関口 英子 訳、河出文庫と授業でPPTのスライドや視覚資料を使用します。
参考書	必要に応じて授業内でアナウンスします。
履修上の注意	イタリアという国に興味がある方に受講して頂きたい。初回の授業で受講に必要なテキストを配布し、この授業についての重要な説明も行います。必ず初回の授業から参加して下さい。 度重なる欠席・授業中の居眠りやお喋りなどは、成績評価に反映されます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
中野実			
ナンバリング：E23C25	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業内容）国際関係論は国家間を取り巻く様々な事象を多角的に分析する学問です。そこには国家の存在が前提としてあります。近代国家がどのようにして生まれ、どのような歴史を辿ってきたのかを理論を交えて考え、いま起きている国家間の問題を考察していきます。また国家の枠を超える多様な問題に対して世界がどのように取り組んでいるのかに注目します。そして最後に、これらの理解をベースに私たち日本の取り巻く環境を考えることを目的としています。 （授業目標） 各自が関心を持つ国際問題の一つ取り上げて、その問題の背景（なぜ起こったか）と現状（どうして解決できないのか）を説明し、自らの見解も含めて発表できること。また授業で取り扱ったいくつかの国際的な事象を複数の視点を交えて説明でき、取り組むべき課題を提示できるようになること。 ◎C：国際的な事象を断片的に見るのではなく、多角的な視点で見られるようになり、理論も取り入れながら自身の見方や考え方を提示できるようになる。 ○D：現在メディアなどで取り上げられている国際問題を歴史的背景や現状を含めて説明できるようになる。		
授業計画	1	イントロダクション：国際関係論とは 授業計画や評価基準を明確にし、国際関係論とはどういう学問なのかを説明する。	
	2	国民国家と主権：近代国家システムの構築と国家の意味を理解する。 いま当たり前のように存在している国家はどのようにしてできたのか？そして世界中にある国家はどのような関係で成り立っているのかを考える。	
	3	国家と戦争：戦争の歴史を考察する。 近代国家成立後、世界は国家間戦争を繰り返してきた。それらの戦争は国家間関係にどのような変化をもたらせたのかについて考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	4	冷戦：冷戦について理解する。 第2次世界大戦後、大国は直接戦うことなく対立してきた。それはなぜ始まって、どういう仕組みで、なぜ終結したのかについて理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	5	国際関係理論：リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム 国際関係理論の三大潮流と言われる三つの理論を考察し、国家の行動を理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	6	EUⅠ：欧州統合の歴史 なぜヨーロッパが統合を目指したのか？その統合の歴史を理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	7	EUⅡ：機構と統合理論 EUはどのような機構で構成されているのかを理解したのち、EUは何を目指しているのかを考察する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	8	国際連合：国際連合の役割を理解する 国際連合の創設から仕組み、そして現在の役割に至るまでを理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	9	地域主義と多国間協定：いま日本を含めどのような関係が構築されているのか ヨーロッパ以外の地域や二国間・多国間の取り決めについて理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	10	最新国際問題：授業を行っている時期の最新の話題を取り上げる 国際関係は常に動いているので最新の問題を取り上げ、その背景や問題点について考察する。例えば過去にはオリンピックと国際関係、アメリカ大統領選、米中問題、北朝鮮問題、イギリスのEU離脱などを取り上げた。最新の話題の状況によって授業回が前後する場合があります。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	11	グローバル・ガバナンス：移民・難民、環境、そして疾病問題を考える 国家間では解決できない諸問題について、どのような取り組みが行われているか考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	12	国家とテロリズム：21世紀に入って増え続けるテロについて考える テロはなぜ起こるのか、そして国家とはどのような関係があるのかという視点でテロについて考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	13	日米関係と安全保障条約：なぜ日本はアメリカと同盟を結び日本国内にアメリカの基地があるのか 黒船来航からの日米関係と戦後安全保障について理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	14	日本の戦争：明治以降、日本はなぜ何度も戦争してなぜ最後は負けたのかを考える 鎖国から第2次世界大戦まで日本のその当時の見方や意識を理解して、なぜ戦争してなぜ最終的に無条件降伏したのかについて考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）	
	15	日本と周辺国の国際関係：日中、日韓、日露など日本を取り巻く国際関係を考える 戦後の領土問題や感情の問題について背景も含めて考察し問題点を理解する。（関心を持つ国際	

	問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション)
学習成果・到達目標・基準	◎C：主要な国際関係理論や様々なアプローチを理解し、今暮らしている世界をそれらの理解に基づいて見られるようになる。 ○D：これまでの国際関係史を理解し、過去の事象を一つ以上の視点で説明できるようになる。
事前・事後学習	事前学習としては、最新の国際問題をメディアなどから収集し、それらがなぜ起きているのかを調べること。(60分) 発表の準備として、国際問題を一つ取り上げ、その背景と問題点を整理し、自らの視点を提示できるようにすること。(60分) 発表者以外は、その日に発表で取り上げられた国際問題を授業後に自らも調べて違う視点で見るよう努めてみる。(60分) 全員の事後学習は、授業内容をまとめて自らの言葉で要約すること。(60分)
指導方法	授業資料（プリント）を配布し、パワーポイントを使用して動画や写真を適宜利用しながら授業を行う。毎回数名に国際問題を題材にした発表をしてもらい、その発表内容についてのディスカッションを行う。 また中間に課題を出題し、Googleクラスルームで提出してもらう。 フィードバックの仕方：発表時の直接評価やアドバイス。課題の評価返却。
アセスメント・成績評価の方法・基準	受講態度（10%）、発表（20%）、課題（20%）、定期試験（50%） ◎C：国際問題に対する見方や考え方を発表、課題、定期試験で判断する。 ○D：国際問題を理解する上で必要な知識を課題、定期試験で判断する。
テキスト	教科書指定なし。授業資料（プリント）を毎回配布予定。
参考書	三船恵美（2012）基礎から学ぶ国際関係論、泉文堂 吉川直人・野口和彦編（2017）国際関係理論、勁草書房 他
履修上の注意	各自が関心を持つ国際問題を一つ取り上げて、その問題の背景（なぜ起こったか）と現状（どうして解決できないのか）を説明し、自らの見解も交えて発表してもらう。 これからの時代、国際関係と無縁な社会生活はあり得ません。関心を持って授業に臨むこと。なお最新の国際問題も取り扱うためその時の国際情勢によっては授業計画が一部変更する場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション（発表）、ディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：小山洋行）			
ナンバリング：E16C46	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Photoshop」や「Adobe Illustrator」を用いて、画像処理を中心としたデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 「Adobe Photoshop」を主とした演習を行い、「Adobe Illustrator」は補助的に使用する。諸事情でオンラインになった場合はwebサービス「wix」を使用しWEBデザインを学ぶ。 (授業目標) ◎D：マーケティングを考慮し、消費者の行動や価値観を分析したのちターゲットを決めて、それに合わせたデザインができる。 ◎E：PhotoshopとIllustratorを連携させてデザインができる。		
授業計画	1	Photoshop基礎 (1)	フォトショップの基本機能を学びます。
	2	Photoshop基礎 (2)	色彩調整、ぼかし、光彩などのレイヤースタイルやフィルターなどを学びます。
	3	Photoshop応用	文字の扱い方や図形の作成、グループ化、整列方法など実践します。
	4	デジタルコラージュ制作 (1)	自らテーマや素材を決めてオリジナルのデジタルコラージュ作品を制作します。
	5	デジタルコラージュ制作 (2)	オリジナルのデジタルコラージュ作品を制作します。ショートカット操作などを覚え作業効率を良くして行きます。
	6	構図構成	枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。
	7	色彩	色の活用の仕方を、デザインを行いながら研究します。
	8	バナーデザイン	ECサイトに使用するバナーをデザインします。
	9	Photoshop と Illustrator の連携	Photoshop と Illustrator の特徴を理解し、状況にあわせて使い分ける事を学びます。
	10	ECサイトデザイン制作課題 (1)	ECサイトの基本的な要素を研究しサイト構成を考え、レイアウトします
	11	ECサイトデザイン制作課題 (2)	マーケティングを考慮しリアリティのあるデザインにします。
	12	ECサイトデザイン制作課題 (3)	ECサイトのクオリティを上げるための試行錯誤を行います。
	13	ECサイトデザイン制作課題 (4)	ECサイトデザインを完成、提出します。
	14	ECサイトデザイン制作課題 (発表)	完成したデザインを発表します。
	15	ECサイトデザイン制作課題 (講評)	発表したデザインの講評を行います。
学習成果・到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。消費者の行動や価値観の多様化に伴い、しっかりとマーケティングを考慮しターゲットを明確にして論理的なデザインが出来るようにする。情報設計をしながら、より分かりやすく見やすいデザインが出来るようにする。色の構成や文字の扱いの基礎力を身につける。 セレクトショップのWEBデザインが出来るように学ぶ。 ◎D：ターゲットの立場を考えた「思いやりのあるデザイン」ができる。 ◎E：IllustratorとPhotoshop双方のデータのやりとりができる。		
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。(30分) 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティーアップのための考察を行う。(30分)		
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	授業態度、実習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、実習結果・提出課題 70% ◎D:「ユーザビリティを考慮したデザイン」「マーケティングを意識したデザイン」になっているかを評価する。 ○E:デザインする要素に応じてIllustratorとPhotoshopを効率よく活用できているかを評価する。
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：小山洋行）			
ナンバリング：E26C47	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や スマホアプリ「アイビスペイント」を用いて、デジタルイラストレーションを中心としたデザインを学ぶ演習である。基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 「Adobe Illustrator」を主とした演習を行い、「アイビスペイント」を補助的に使用する。オンライン授業になった場合は「アイビスペイント」をメインに活用する。 （授業目標） ○D：多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）をすることができる。 ○E：Illustratorでレイアウトができる。		
授業計画	1	Illustrator 基本 (1) (実習 イラストレータ修得)	文字入力、図形作成、配置、色についてを実践します。
	2	Illustrator 基本 (2) (実習 イラストレータ修得)	文字の行間、文字詰め、フォントの種類によるイメージ効果を学びます。
	3	Illustrator 基本 (3) (実習 イラストレータ修得)	写真画像の配置、袋文字の活用方法を実践します。
	4	アイコン、画像、文字を活用したデザイン (1)	アイコンやイラスト、写真を活用した名刺のデザインを行います。
	5	アイコン、画像、文字を活用したデザイン (2)	名刺デザインを画像と文字を使い構成します。
	6	キャラクターデザイン (1)	LINEスタンプに活用できるような「感情に訴える」キャラクターを考えます。
	7	キャラクターデザイン (2)	自ら考えたLINEスタンプキャラクターをデザインします。
	8	キャラクターデザイン (3)	考えたLINEキャラクターのを感情ごと6つのバリエーションでデザインします。
	9	制作課題	キャラクターのデザインを細かなところまで丁寧に作成します。
	10	制作課題	キャラクターデザインを完成させ、提出し、キャラクターの表情や動きなどの魅力が出ているか講評を行います。
	11	マスコットキャラクター考案	戸板女子短期大学のマスコットキャラクターを考案します。
	12	マスコットキャラクターデザイン (1)	「国際コミュニケーション学科」「服飾芸術科」「食物栄養科」の3つのテーマで3体のキャラクターをデザインします。
	13	マスコットキャラクターデザイン (2)	3体のキャラクターが同じ世界観になるように考慮してデザインを進めます。
	14	マスコットキャラクターデザイン (3)	3体のキャラクターのキャラクターを完成させます。
	15	作品発表、講評	各自デザインした作品を発表し、講評を行います。
学習成果・到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）するといった「思いやりのあるデザイン」を出来るようにする。情報設計をしながら、より魅力的なものをデザイン出来るようにする。色彩感覚、構図・構成、文字の扱い方等の基礎力を身につける。 LINEスタンプのような感情に訴えるキャラクターデザインが出来るよう学ぶ。 ○D：見やすいデザインができる。 ○E：IllustratorとPhotoshopの操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。(30分) 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティアップのための考察を行う。(30分)		
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業態度、実習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、実習結果・提出課題 70% ○D:課題で作成したデザインが見やすい、わかりやすいか評価する。 ◎E:Illustratorで適切な操作をしてデザインされているか評価する。
テキスト	資料を配布します。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラー ニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：伊波サチヨ）			
ナンバリング：E16C44	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	スマートフォンで撮影した写真を元に、コマ撮りアニメーションを制作します。1秒間に6コマの写真をつなげて動画編集をし、現実では起こらないような世界を動画で表現することができます。写真や動画ファイルの特性の違いを学んだ後、各自のアニメーション作品のシナリオを考えスマートフォンで撮影をし、BGMを加えながら動画を完成させていきます。みなさんにとって身近であるスマートフォンで撮影した写真データも、撮影方法を工夫し動画編集の専門ソフトAdpbe Premiere Proを使うことで、知識を深めることができるとともに、制作を通じて楽しい体験ができると思います。 ◎D：写真・動画それぞれのデジタルデータの特性を理解し、動画編集ソフトでの効果的な編集方法を身につける。 ◎E：シナリオ構想や撮影に工夫をし、見る側を楽しませたり驚かせたりするような表現ができる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業紹介、講師紹介、学生の作品紹介	
	2	デジタルデータの特性の理解 解像度や、フレームサイズ、フレームレートなど写真データと比較しながら、動画データの特性の違いを学ぶ。	
	3	アニメーション制作プロセスの理解（1） 事前に用意した多数の写真データを、フォトショップのアクション機能を使いサイズを一括で最適化する。	
	4	アニメーション制作プロセスの理解（2） 最適化した写真データを、プレミアに読み込み配置する。	
	5	アニメーション制作プロセスの理解（3） プレミアで編集した動画を、mp4形式で動画ファイルとして書き出す。	
	6	シナリオ構想 各自の作品作りに向けて、撮影方法や素材を何にするかを考え、シナリオをまとめる。	
	7	作品計画の立案（プレゼンテーション） シナリオに基づき、撮影方法、出演者、サウンドの用意など、具体的な方法を発表	
	8	素材の作成・撮影（1） 切り絵、粘土、人物など、選択した素材からアニメーションの素材を作成・スマートフォンで撮影をする。	
	9	素材の作成・撮影（2） 素材の作成と、撮影の続きをする。	
	10	アニメーションワークの検証 撮影した写真を実際にプレミアで編集し、出力結果を検証する。	
	11	プレミアによる動画編集（1） フォトショップで最適化した画像の読み込み。編集作業。	
	12	プレミアによる動画編集（2） BGM、ナレーション、効果音を当てる。	
	13	プレミアによる動画編集（3） タイトル、グラフィックの作成、挿入	
	14	プレミアによる動画編集（4） 最終調整段階、作品の完成度を上げる	
	15	発表／講評（プレゼンテーション） 各自の作品を上映、プレゼンテーションを行う	
学習成果・到達目標・基準	◎D：アニメーション制作の一連の流れ理解する。 ◎E：自分で撮影した写真を使い、アニメーションを完成できる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する（60分） 事後学習：授業内で出た課題を完了させる。（60分）		
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 素材となる写真の撮影は課題として各自が自宅で言い、授業では編集作業を行い各自の作品を完成させる。最後に鑑賞会・講評会を行う。 フィードバック方法：課題については、授業後個別対応する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：毎回の課題提出で基本知識、技法が身についているかで評価する。 ◎E：最終自由作品となる自身の作品において、習得した技術を応用し、質の高い表現が実現できているかで評価する。 授業毎の課題提出物：30%、レポート：20%、最終自由作品：50%		

テキスト	授業内で必要な資料を配布するので、テキスト購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：伊波サチヨ）			
ナンバリング：E26C45	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	学生自らが作成したシナリオに基づき、撮影、編集、書き出しまでを行い、1本の動画作品として完成させます。ビデオ編集はAdobe Premiere Proを使用して制作を行い、最後には各自の作品の上映会を行います。これまで閲覧する側だった動画も、自分で意図した通りに自由に編集、表現できるようになり、制作の醍醐味を楽しんでもらえる時間となるはずです。 ◎D:デジタルデータの特性を理解し、動画編集ソフトのエフェクト効果の適応、合成機能など高度な編集ができる。 ○E:技術を駆使し、見る側の感情に訴えかけるような表現ができる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業紹介、講師紹介、昨年の学生の作品紹介	
	2	デジタルビデオの基本知識 作業の流れの把握 解像度、圧縮形式などの学習+チュートリアル（体験）	
	3	プレミアの基本操作（1） チュートリアルレッスン（クリップの編集/各種ツールの使い方）	
	4	プレミアの基本操作（2） チュートリアルレッスン（タイトルの挿入/図形の描画/トランジション/マーカー）	
	5	プレミアの基本操作（3） チュートリアルレッスン（透明度/キーフレームアニメーション）	
	6	プレミアの基本操作（4） チュートリアルレッスン（エフェクト/合成）	
	7	動画ファイルの取り込み 自分のスマホの動画ファイルをパソコンに取り込み、Premiereで編集をする	
	8	作品計画の立案（プレゼンテーション） シナリオに基づき、撮影方法、出演者、サウンドの用意など、具体的な方法を発表	
	9	自主制作（1） ビデオ撮影／編集	
	10	自主制作（2） タイトル、キャプションの挿入	
	11	自主制作（3） 写真やサウンドの挿入	
	12	自主制作（4） 各自編集作業を続ける	
	13	自主制作（5） 各自編集作業を続ける	
	14	ビデオ編集（6） 書き出し 完成した作品を、書き出す	
	15	作品発表会（プレゼンテーション） 各自の作品を上映、プレゼンテーションを行う	
学習成果・到達目標・基準	◎D:一動画編集作業の一連の流れ理解する。 ○E:動画編集ソフトの基本機能を使い、自分で撮影したビデオとBGMを素材に1本のビデオ作品を完成できる。		
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)		
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させビデオデータを提出。後半の6回の授業では、自由作品として自分の立てたシナリオに沿って映像作品を完成させ、最後に鑑賞会・講評会を行う。 フィードバック方法：課題については、授業後個別対応する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:チュートリアル課題において、基本知識、技法が身についているかで評価する。 ○E:後半6回の授業を通じて制作する自身の作品において、習得した技術を応用し、質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物:30%、レポート:20%、最終自由作品:50%		

テキスト	授業に必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
中村敏			
ナンバリング：E27B52	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業は、様々なビジネスシーンで必要となるプレゼンテーションスキルを自律的に学習できるように、対話形式の講義を行うとともに、ワークショップ形式で授業を進める。また、身近な題材を取り上げることにより、受講者が楽しみながら学べる授業を目指している。授業の成果発表として、全員が複数回のプレゼンテーション実習を行う。 以下に示した授業目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 (授業目標) ◎B：聞き手の立場とメリットを十分に理解し、聞き手に分かりやすく自分の考えを正確に伝え、行動させることができる。 ○C：聞き手の現状と目指すべきゴールとのギャップを的確に把握し、ゴールに導くアイデアを論理的に整理することができる。また、聞き手の理解度に合わせて説明する内容を替えることができる。		
授業計画	1	ガイダンス、プレゼンテーションとは何か（自ら学習を行う全15回） キーメッセージ「資格では差がつかないが、伝え方では差がつく」 授業の進め方のオリエンテーションを行い、授業の全体像、心構え、内容、進め方について理解する。受講者の考えるプレゼンテーションとは何か、本授業を通して何を身に付けたいのかを自己紹介とともに話してもらう。受講者全員のプレゼンテーションに対する認識の整理と本授業のゴールを明確にする。（全員が必ず発表する）	
	2	プレゼンテーションの本質、聞き手志向とは キーメッセージ「何故、プレゼンテーションをするのか？」 前回の授業で整理したプレゼンテーションに対する認識から、プレゼンテーションの成功とは何なのか？ 聞き手の立場から考える。この時、非常に重要な聞き手の特性として、「抵抗の6階層」について学ぶ。	
	3	創造的な作業、ブレインストーミング演習①（グループワーク：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「プレゼンテーションの最初の一步はアイデアの創造」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果からアイデアの分類、整理を行う。その結果を資料にまとめて、グループの代表者が発表する。	
	4	創造的な作業、ブレインストーミング演習②（グループワーク：更なるブレインストーミング） キーメッセージ「ブレストはアイデアの相互作用、誘発を狙う場所」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ 各グループから発表されたアイデア、過去の先輩方のアイデア、更に現在、実際にコンビニエンスストアで採用されている様々なアイデアをもとに、更にブレインストーミングによるアイデア出しを行い、自分の採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。発表に備えてアイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。	
	5	プレゼンテーションの効果的な構成 キーメッセージ「発表者は聞き手のナビゲーター（論理的な流れ）」 プレゼンテーションを行う時、最もやってはいけないことは、聞き手に漂流させてしまうことである。話があちこちに行ってしまったり、聞き手を置いてきぼりにしたりすると、聞き手は何も聞かなくなる。これを防ぐためには、プレゼンテーションのシナリオ、世界地図が必要になる。ここでは、シナリオの作り方を学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）	
	6	課題 プレゼンテーション実習①（プレゼンテーション：各自が発表と評価） キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、コンビニエンスストアの店長として新しい商品や、サービスを発表するプレゼンテーション用のスライドを作成する。各自がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、質問、コメントする。	
	7	課題 プレゼンテーション実習②（プレゼンテーション：各自が発表と評価） キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、コンビニエンスストアの店長として新しい商品や、サービスを発表するプレゼンテーション用のスライドを作成する。各自がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、質問、コメントする。	
	8	プレゼンテーションの効果的なスタート方法 キーメッセージ「導入の言葉は自然に聞き手を引き込むような短い表現」 ここからは、プレゼンテーションスキルを高める応用について学習する。 聞き手は、ほとんどの場合、プレゼンテーションを聞く準備ができていない。これを発表者に注意を向けさせ、短時間でプレゼンテーションの内容に興味を持たせることがスムーズにプレゼンテーションを進める上で重要になる。ここでは効果的なスタート方法について学習する。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）	
	9	スライドの役割とは キーメッセージ「主役は「発表者」スライドは「脇役」（名脇役＝Less is More）」 プレゼンテーションの主役は、聞き手と発表者である。本来、スライドはプレゼンテーションを	

	効果的に補助するためのものであるが、多くのプレゼンテーションではスライドが主役になっている。具体的には、発表者の話を聞かずに、スライドを読んでいる状態をさす。本来のスライドの役割を理解し、効果的なスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 10 プレゼンテーションデザイン① 文字に語らせる キーメッセージ「文字に語らせる」 効果的に聞き手の記憶にメッセージを残すためには、「聞くこと」と「見ること」を同時に行う必要がある。この時、「見ること」であって「読むこと」ではない。（読み始めると、発表者の話を聞かない）自然と文字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 11 プレゼンテーションデザイン② 数字に語らせる キーメッセージ「数字に語らせる」 数字は大きな力を秘めている。「多い」よりも「90%以上」の方が、より明確にメッセージが伝わる。逆に数字の羅列は真実を隠す場合もある。文字と同様に、自然と数字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 12 画像の優位性効果 キーメッセージ「百聞は一見に如かず」 「見ること」によって効果的にメッセージを伝えるものとして、写真がある。（動画もあるが、プレゼンテーションが中断されるので注意が必要）1枚の写真で多くのメッセージを伝えることができるが、選定が難しい。有効な写真の使い方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 13 聴衆と心を通い合わせる キーメッセージ「聞き手と心を通わせる」 最後に話し方である。流暢に話すことが良いとは限らない。朴訥でも聞き手の琴線に触れ、心を通い合わせることが重要である。そのためには聞き手の立場に立って話す必要がある。聞き手と心を通い合わせる話し方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 14 最終課題 プレゼンテーション実習① 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。自分の好きなこと、興味のあること、将来の夢から1つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのかが）なるほど分かった」「よし、私もやってみたい」と思うかどうか。（全員が発表する）各自がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、質問、コメントする。 15 最終課題 プレゼンテーション実習② 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。自分の好きなこと、興味のあること、将来の夢から1つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのかが）なるほど分かった」「よし、私もやってみたい」と思うかどうか。（全員が発表する）各自がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、質問、コメントする。
学習成果・到達目標・基準	以下に示した到達目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 ◎B：聞き手の立場に立って、自分の考えを伝えることができる。 ◎C：聞き手を導くゴールに向けてアイデアを論理的に整理して説明することができる。
事前・事後学習	【事前学習】PowerPointでの資料作成は事前に学習しておくこと（テンプレートの使い方、図の作成方法、画像やグラフの挿入方法）。（30分～1時間程度） 事前に、GoogleClassroomに登録された講義資料（PDF）をダウンロードし、必要に応じプリントアウトの上、スライドに説明されている内容を確認しておくこと。 【事後学習】講義内容は十分に復習すること。具体的には、GoogleClassroomに登録された復習用資料（PDF）をダウンロードし、ノートに書かれた説明を熟読すること。（30分～1時間程度） 指示された課題に関しては、GoogleClassroomの課題に提出すること。（30分～1時間程度） プレゼンテーション実習で使用するスライド作成は、授業時間外で十分に時間を確保して行うこと。（数時間程度）
指導方法	対話形式の講義を行うことにより、疑問点の早期収束と人前で話すことに対する不安の解消を行う。ワークショップにおいては自主的に取り組むようにファシリテートする。プレゼンテーション実習では、講師だけでなく受講生もコメントを発表することにより、話し手、聞き手の両方からプレゼンテーションの本質を理解するように指導する。 後半のカリキュラムからは、より実践的に学習するために、優れたプレゼンテーション事例を取り上げケーススタディを行う。 フィードバックの方法：①ワークの実施 ②スライド作成については個々にメールによる指導 ③授業後の質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：ワークショップにおけるチーム活動の取り組み状況と、聞き手を意識したプレゼンテーションの到達度で評価する。 ◎C：各講義の課題に対する取り組み状況と、プレゼンテーションのシナリオの論理性で評価する。 評価は、授業への参加態度20%、課題の取り組み状況30%、プレゼンテーション実習50%の比率で行う。
テキスト	購入テキストなし。講義資料を毎回配布する。
参考書	パワー・プレゼンテーション ジェリー・ワイズマン 著（ダイヤモンド社） プレゼンテーションzen（第3版） ガー・レイノルズ 著（丸善） マッキンゼー流プレゼンテーションの技術 ジーン・ゼラズニー 著（東洋経済新報社）
履修上の注意	プレゼンテーション実習は必ず出席すること（対面）。また、ワークショップの構成上、遅刻は避けること。各自設定したテーマのプレゼンテーションの作成は授業内容を踏まえ授業時間外での自習時間を当てること。グループワークは集団行動の基本を順守し、グループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
藤井直子			
ナンバリング：E17C55	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	【授業内容】秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的技能について理解し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら習得していく。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。 【授業目標】秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 ◎D：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得していくことが出来る。 ○E：学習した秘書に必要な知識・能力を、社会での諸活動で臨機応変に発揮出来る。		
授業計画	1	オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 社会人・秘書の心構えを習得する。	
	2	秘書の資質・役割/秘書の職務知識 秘書に求められる役割・必要な資質について理解する。 秘書に求められる基本能力について理解する。 定型業務と非定型業務における秘書の仕事・効率的な仕事の進め方を学ぶ。	
	3	企業の基礎知識 企業の組織と社会での役割について理解する。 経営管理についての基礎知識を学ぶ。 経営管理に関する初歩的な用語を学ぶ。	
	4	企業の基礎知識・社会常識について 経済に関する基本用語・社会常識を学ぶ。	
	5	マナー・接遇 1 社会での円滑な人間関係についての重要性について理解する。 秘書として接遇の心構え、マナー、敬語、接遇用語を理解し身に付ける。	
	6	マナー・接遇 2 話し方の応用（対面；ロールプレイングで実践） 指示の受け方、報告・説明をする際の心がけとポイントを理解する。 コミュニケーションを円滑にする聴き方を理解する。	
	7	電話応対 電話のマナーと応対の仕方を学ぶ。（全員がロールプレイングを通して、実践力を身に付ける）	
	8	マナー・接遇 3 来客応対 来客応対の基本マナーを学ぶ。（対面；グループワークを通して、実践力を身に付ける） ICT活用：理解力・実践力を深めるため、6月実施の秘書技能検定試験対策として、授業終了後に Google Classroom で公開する秘書検定試験用練習問題を各自で実践する。	
	9	交際の業務について 慶事・弔事のマナーについて学ぶ。 慶事・弔事での秘書の対応について学ぶ。 贈答のしきたりとマナーを習得する。	
	10	会議と秘書の役割について 会議の目的と予備知識を理解する。 秘書が行う会議の主な準備、会議中の主な仕事、事後処理について学ぶ。	
	11	ビジネス文書の作成 社内文書、社外文書の種類と形式を理解する。 ビジネス文書の慣用表現と敬語を習得する。 メモの種類と効果的な取り方を学ぶ。 折れ線グラフ、棒グラフの書き方を学ぶ。	
	12	文書管理 ビジネス文書の受信・発信方法を理解する。 「秘」扱い文書の取り扱いについて学ぶ。 郵便の基礎知識を知る。	
	13	資料管理・スケジュール管理 資料の整理、保管、簡単な社内外の情報収集、整理、保管方法を学ぶ。 上司のスケジュール管理について学ぶ。 快適な職場環境をつくるための基礎知識を習得する。	
	14	問題演習と解説 1 これまでに学習した内容についての確認と理解を深める。 実技チェック（対面授業）・秘書検定3級問題演習と解答・解説	

	15 問題演習と解説 2 秘書検定3級問題演習と解答・解説
学習成果・到達目標・基準	秘書検定3級に合格出来る実力を身に付ける。 ◎D：秘書の役割を果たすために必要なことを学び、秘書としての基本的な知識・資質を習得する。 ○E：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することが出来る。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に関するテキストの該当章と事前配布資料を読んでおくこと。（約60分） 事後学習：毎回の授業で学習した内容、理解度チェックを必ず復習すること。（約60分） Google classroomで提示した課題に取り組み、必要事項に解答し、期限内に提出すること。（約60分）
指導方法	講義は基本的にテキスト・配布資料・パワーポイントを使用し進める。 一方的な講義ではなく、思考力を有する演習問題、理解度チェック、内容に応じグループワーク、ロールプレイング等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：理解度チェックテスト、実問題演習に関しては、実践後、質疑応答を行い解説する。 課題提出にGoogle classroomを活用する。：①課題を提示、②課題提出(学生)、③採点し返却する。必要に応じ適宜要点をフィードバックし公開する。 学生の学習状況把握のため、Google classroomを活用し課題の取り組み状況・提出状況をチェックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験・課題テスト・授業態度を評価する。 E：授業態度・授業中の発言力・課題テスト・定期試験を評価する。 事前学習10%、事後課題テスト30%、定期試験30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』改訂新版 実務技能検定協会 早稲田教育出版 （2020年1月10日 第10刷発行）
参考書	『秘書検定集中講義3級』実務技能検定協会 早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』実務技能検定協会
履修上の注意	知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、自己管理・身だしなみ・言葉遣い・マナー・知識を深めるなどを日頃から実践し日々の生活や授業で習慣化することが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定と将来の可能性の向上にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどでの体験で落とし込み自主的に考え行動するなど、学習内容を深く習得していく能動的な態度が必要となる。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 課題提出は必ず提出期限を厳守すること。 尚、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイング

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
松岡友子			
ナンバリング：E27C56	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	【授業内容】 ・秘書技能検定2級合格に必要な知識と技能を習得する。 ・問題演習を行いながら、テキストを用いて確認し、知識を深める。 【授業目標】 ◎D：秘書検定2級に合格する。さらにはビジネス文書検定・サービス接客検定や上位級にも対応する幅広い知識を理解する。 ○E：単なる検定対策として知識を理解するだけでなく、社会人に必要とされる技能として身につけ、実践することができる。		
授業計画	1	オリエンテーション／秘書検定とは／秘書の心構え（グループワーク） 自己紹介・講義の到達目標の確認・授業の共通ルールの徹底 秘書検定の受け方・審査基準説明 秘書に必要とされる資質・心構えを理解する （グループワーク）	
	2	秘書に必要な条件／秘書の役割と機能／秘書の職務 秘書に求められる6つの能力について理解する 職務知識として秘書の役割と機能を理解する 定型業務・非定型業務・効率的な仕事の進め方を理解する （グループワーク）	
	3	企業と経営・企業の活動 資本と経営について理解する 企業の組織形態について理解する 経営管理について理解する 生産管理、マーケティングについて理解する 会社をめぐる法律について理解する 各種用語について理解を深め、覚える （グループワーク）	
	4	グラフの書き方／会議と秘書 グラフの書き方を理解する 会議の知識・会議中の秘書の仕事を理解する （グループワーク）	
	5	交際の業務について パーティー・会食の知識を理解する 慶事の応対を理解する 弔事への対応・心得とマナーを理解する 贈答のしきたりとマナーを理解する （グループワーク）	
	6	ビジネス文書の作成 ビジネス文書の種類と形式を理解する ビジネス文書の寛容語句を理解する 敬語を理解する （グループワーク）	
	7	問題演習（1） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 （グループワーク）	
	8	問題演習（2） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 （グループワーク）	
	9	問題演習（3） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 （グループワーク）	
	10	問題演習（4） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 （グループワーク）	

	11 問題演習 (5) 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 (グループワーク) 12 問題演習 (6) 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 (グループワーク) 13 問題演習 (7) 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 (グループワーク) 14 問題演習 (8) 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 (グループワーク) 15 問題演習 (9) 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 (グループワーク)
学習成果・到達目標・基準	◎D：2022年度後半に予定されている秘書検定2級の試験内容を理解する。また、CBT受検にも対応できる力を身につける。 ○E：社会人として求められる、一般常識・ビジネスマナー・電話応対・来客応対・ビジネス文書作成などの基礎を理解し、身につける。
事前・事後学習	事前学習：課題が与えられている場合には取り組む。(80分) 次回講義内容に該当するテキストを読み込む。(60分) 事後学習：テキストの問題、過去問に取り組むなどして、知識の定着をはかる。(60分)
指導方法	・講義部分は、テキストと配布プリント、パワーポイントを用いて講義を進める。 ・検定対策はGoogle Formsなどを用いて回答する場合もある。教員からのアドバイスとともに自身の検定への取り組みに役立てる。 ・各種用語は、課題として覚えてきたものをグループワークで毎回確認する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：秘書検定・ビジネス文書検定・サービス接客検定など、各種ビジネス系検定を受検し、合格を目指して努力する姿勢を評価する。 ○E：学んだ知識や技能を理解しようとしているか、内容を身につけようとしているか、身につけて実践しようとしているかを評価する。 授業態度・貢献度30% 課題提出20% 定期試験50%
テキスト	秘書検定2級クイックマスター改訂新版 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考書	『秘書検定実問題集2級』 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『秘書検定集中講義2級』 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『誰とでも仲良くなれる敬語の使い方』松岡 友子 明日香出版社
履修上の注意	・過去問対策の授業時には、PCを持参すること。 ・秘書検定の出題範囲は、社会人として必要な基礎知識をほぼすべて網羅している。また検定の社会的認知度も高く、2級取得者は、社会人としての基礎知識の習得ができていると評価される。 勉強内容は多岐にわたり、決してやさしい検定ではないが、2級受検者の多くを学生が占めている。丁寧に学習を積み重ねれば学生でも合格は十分可能である。 ぜひ、秘書検定以外にも、サービス接客検定やビジネス文書検定等の取得も目指してほしい。 なお、検定実施日や資格取得状況、受講者の参加意識などにより、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
矢崎美裕子			
ナンバリング：E18C58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	安定した病院経営のためには日々の医療費の収入が不可欠です。医療機関窓口業務の一つである会計は一部負担金の現金回収です。残りの医療費の診療報酬請求が医療事務のメインの業務であることを理解し正しい請求方法を身につけましょう。 医療秘書検定3級領域Ⅲ(医療事務)に対応する講義です。医療費算定の基本的なルールを学び外来での診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付ます。 (授業目標) 1. 医療秘書検定3級の合格 2. 医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 3. 診療報酬明細書の記載方法が理解できる。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。		
授業計画	1	ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ	
	2	投薬1（薬剤料） 薬価表に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	3	投薬2（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ	
	4	注射1（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ	
	5	注射2（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法及び注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ	
	6	初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ	
	7	再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ	
	8	医学管理等1（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ	
	9	医学管理等2（その他医学管理等）在宅医療①(往診料) その他の医学管理を学ぶ 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ	
	10	在宅医療（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ	
	11	処置（通則・一般処置・ギプス） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	12	手術（通則・外来で行う手術） 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	13	検査（通則・検体検査） 検体検査の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	14	検査（生理機能検査） 生理機能検査の種類と通減算定の理解、算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	15	外来カルテ演習 レセプトを作成する。	
学習成果・到達目標・基準	○D：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（30分程度） 事後学習：授業内容を復習し、カルテ例題の課題に取り組む。レポート課題は期日までに理解を深める。（150分程度）		
指導方法	・テキストを中心に、プロジェクター、PowerPoint及び配布資料を用いた授業形式で進める。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、事後学習としてレセプト及び算定について		

	の学科問題は課題提出とする。 *課題のフィードバック方法：授業内で質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：定期試験・課題を評価する。 ◎E：定期試験・課題を評価する。 定期試験50%、平常30%、レポート提出20%
テキスト	『診療報酬BASIC点数表 2022——『月刊／保険診療』2022年3月号【別冊】』（医学通信社・2022年出版） 『ビジュアル速解 診療報酬・完全攻略マニュアル 2022-23年版』青山美智子（医学通信社・2022年出版） 『2022年度版 医療秘書技能検定実問題集 3級（2）』（つちや書店・2022年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	

講義科目名称： メディカルクラーク B

授業コード： 2631

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
矢崎美裕子			
ナンバリング：E18C59	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療を取り巻く現状と最近の動向を広い視野で捉えながら、医療機関の構造や組織管理をはじめ医師や患者の心理・行動の理解、医療サービスや患者接遇の在り方など、医療秘書としての心構えや役割と共に医療を全体的に学びます。この講義は医療秘書検定3級領域Ⅰ（法規・病院管理）領域Ⅱ（医学/医療用語）に対応しています。 「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 1. 医療秘書検定3級の合格 2. 医療機関での接遇マナーが理解でき実践できる。 3. 日本の医療制度・医療法規を理解することができて説明できる。 4. 体のつくりや働き、カルテに書いてある医療用語について理解し説明できる。 ◎D：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○E：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。		
授業計画	1	ガイダンス（医療事務と法規）/医療秘書の役割 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療秘書の役割と定義	
	2	医療秘書の業務 医療秘書の実務（基本編）	
	3	日本の医療1 医療提供の理念（医療法） 日本の病院の成り立ち	
	4	日本の医療2 病院の組織 病院数の推移 医療施設および病床の種類と数（医療法）	
	5	医療界の現状1 病院医療の国際比較 医療制度の特徴と国民医療費	
	6	医療界の現状2 診療報酬の支払い方式	
	7	医療保険のしくみ1 医療保険の種類、給付の範囲と種類（健康保険法）	
	8	医療保険のしくみ2 現金給付、高額療養費、保険外併用療養費	
	9	診療報酬に関する法規（診療報酬請求） 請求事務、診療報酬請求のしくみについて 査定と返戻	
	10	その他の関連制度（公費負担医療） 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について	
	11	療養担当規則 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について	
	12	医療用語1 人体の名称 整形外科	
	13	医療用語2 各診療科にまたがる用語 血液科・循環器科	
	14	医療用語3 呼吸器科・消化器科・内分泌科	
	15	総括 医療秘書概論のまとめ 医療保険制度の振り返り 医療用語のまとめ	
学習成果・到達目標・基準	◎D：医療保険制度のしくみが理解でき、カルテを読むために必要な医療知識が習得できる。 ○E：電話応対、接遇マナーを理解し説明できる。		

事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（60分程度） 事後学習：授業内容を復習、まとめる（120分程度）
指導方法	テキスト、スライドを中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題（テスト付き）を実施し理解度を確認する。 *課題のフィードバック方法：授業内でフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：定期試験、課題テストにより評価する。 ○E：定期試験、課題テストにより評価する。 定期試験50%、課題テスト40%、授業態度10%
テキスト	『三訂医療秘書』建帛社 三訂版・（2021年出版） 『三訂医療用語』建帛社 三訂版・（2021年出版） 『読んでわかる解剖生理学』医学教育出版社・（2014年出版） 『2022年度版 医療秘書技能検定実問題集3級（1）』つちや書店・（2022年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題のフィードバックは講義中に質疑応答で対応。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
矢崎美裕子			
ナンバリング：E18C60	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この講義は医療秘書検定3級領域Ⅱ（医学）に対応しています。人体を呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、神経・感覚器系、自律神経・内分泌器系、運動器系、生殖器系に分け、これらの機能的側面について解説する。人体の構造と機能を学ぶことは、医学や医療の基盤知識である。基礎医学を学ぶことによって、医療を中心とした幅広い知識と教養の高い学生の育成を目指す。 （授業目標） 1. 人体を構成する各器官系の機能について論理的に説明することができる。 2. 各器官系の相互作用、すなわち個体（ヒト）の生命活動の仕組みについて説明することができる。 3. 生体の恒常性を維持する仕組みについて説明することができる。 4. 医療秘書検定3級の合格 ○A：身体構造と機能、疾患の係わりに関心を持ち、チーム医療に触れる医療人の基本が身につけられるようにする。 ◎D：医学用語を知り、専門書、レセプトの記述が理解できるようにする。		
授業計画	1	ガイダンス/総論 授業の目的、授業の進め方、評価方法について 解剖生理学総論 医療用語1	
	2	人体の構造・骨格 細胞と組織 骨格筋および平滑筋収縮の機序について理解を深めることができる。 医療用語2	
	3	血液 血液の分類、働きについて理解を深めることができる。 白血球による免疫機能を中心に、病原性微生物に対する生体の防御機能について理解を深める。 医療用語3	
	4	血液の循環 心臓を中心に心血管機能について理解を深める。循環動態（血圧、血流量、心拍出量、心拍数）とは何か、またその調節機序について理解を深める。医療用語4	
	5	呼吸器 呼吸機能を司る、肺・気道系、胸郭系、呼吸調節系について理解する。また、肺でのガス交換について説明できる。 医療用語 5	
	6	消化器1 口腔内および胃内消化機能、小腸における消化吸收機能、そして排便の仕組みについて理解することができる。 医療用語 6	
	7	消化器2 膵臓や肝臓などの役割について理解を深めることができる。 医療用語 7	
	8	泌尿器 腎臓の解剖と生理について理解し、説明できる。 医療用語 8	
	9	脳・脊髄 大脳の構造や働きなどについて理解を深めることができる。 医療用語 9	
	10	脳神経 脊髄の機能（脊髄反射）、脳幹および間脳による自律機能などについて理解を深める。自律神経系の理解する。 医療用語 1 0	
	11	感覚器 感覚の種類や質について理解する。体性感覚（皮膚感覚など）、内臓感覚、および特殊感覚（視覚など）について情報受容の仕組みの理解を深めることができる。 医療用語 1 1	
	12	内分泌 内分泌系機能について理解することができる。 各種ホルモンの生理作用について理解を深めることができる。 医療用語 1 2	
	13	免疫機構 / 感染症 内分泌系機能について理解することができる。 各種感染症の理解を深めることができる。 医療用語 1 3	

	14 検定試験対策1 過去問題演習
	15 検定試験対策2 過去問題演習
学習成果・到達目標・基準	○A：講義中のメモと復習・確認テストの結果。 ◎D：講義と配布プリント、問題演習の結果、医療秘書技能検定試験3級の結果
事前・事後学習	事前学習：小テストに備え医療用語の暗記（10問程度）テキストのを熟読と要点整理をしておく。（90分） 事後学習：授業内容の整理（90分）
指導方法	医療用語は毎回小テストを実施（10問程度） パワーポイントでの講義形式、授業ノート（穴埋め）講義内容の書き込みを行う。 フィードバックは講義内で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	（2021年出版） 定期試験 50% 授業内小テスト 10% 平常(授業態度、貢献度) 40%
テキスト	『読んでわかる解剖学』竹内修二 医学教育出版社（2014年出版） 『三訂 医療用語』建帛社（2021年出版） 『医療秘書技能検定試験問題集3級』 医療秘書教育全国協議会試験委員会 つちや書店（2021年出版）
参考書	
履修上の注意	自主的に授業に参加、復習をするという学習意欲が必要。人体に関わる事は身近な事であり、興味を持つ事が必要。 医療秘書検定合格を目指すため「メディカルクラークA」「メディカルクラークB」「メディカルクラークD」も履修する必要がある。
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
矢崎美裕子			
ナンバリング：E18C61	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	前期「メディカルクラークA」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 1. 医療秘書検定3級の合格 2. 医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 3. カルテから外来レセプトの作成ができる。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容を基に、基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容を基に、基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。		
授業計画	1	前期の振り返り メディカルクラークAでの復習。 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を復習する。	
	2	手術 手術料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	3	麻酔/輸血 麻酔料の種類と輸血の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	4	病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	5	画像診断1（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	6	画像診断2（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	7	画像診断3（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	8	リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療 リハビリテーション、精神科専門療法、放射線治療の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ	
	9	外来カルテ演習1 医療秘書検定過去問題からレセプトを作成する。	
	10	外来カルテ演習2 医療秘書検定過去問題からレセプトを作成する。	
	11	外来カルテ演習3 医療秘書検定過去問題からレセプトを作成する。	
	12	外来カルテ演習4 医療秘書検定過去問題からレセプトを作成する。	
	13	外来カルテ演習5 医療秘書検定過去問題からレセプトを作成する。	
	14	学科演習1 メディカルクラーク総括（初診料～手術） 診療点数早見表を索引しながら過去問題の学科を2回分解く。 復習：授業内で解いた問題をもう一度解く	
	15	学科演習2 メディカルクラーク総括（検査～リハビリテーション） 診療点数早見表を索引しながら過去問題の学科を2回分解く。 復習：授業内で解いた問題をもう一度解く	
学習成果・到達目標・基準	○D：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（30分程度） 事後学習：授業内容を復習し、カルテ例題の課題に取り組む（150分程度）		
指導方法	・テキストを中心に、プロジェクター、パワーポイント及び配布資料を用いた授業形式で進める。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、事後学習としてレセプト及び算定についての学科問題は課題提出とする。 *課題のフィードバック方法：授業内で質疑応答。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：定期試験・課題を評価する。 ◎E：定期試験・課題を評価する。 定期試験50%、課題40%、授業態度・貢献度10%
テキスト	『診療報酬BASIC点数表 2022——『月刊／保険診療』2022年3月号【別冊】』（医学通信社2022年出版） 『2021年度版 医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』（2021年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラスA（前期）」「メディカルクラスB（前期）」「メディカルクラスC（後期）」も履修すること。 診療点数早見表電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	